



Solaris 10 10/09 ご使用にあ たって



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 821-0591-11
2009年10月

Sun Microsystems, Inc. (以下米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に含まれる技術に関連する知的財産権を所有します。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許、あるいは米国およびその他の国において申請中の特許を含んでいることがあります。それらに限定されるものではありません。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者によって開発された素材を含んでいることがあります。

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジックス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn8 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright(C) OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. Copyright(C) OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2009 All Rights Reserved.

「ATOK for Solaris」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK for Solaris」にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK」および「推測変換」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK for Solaris」に添付するフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

「ATOK for Solaris」に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行なっています)。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書で言及されている製品や含まれている情報は、米国輸出規制法で規制されるものであり、その他の国の輸出入に関する法律の対象となることがあります。核、ミサイル、化学あるいは生物兵器、原子力の海洋輸送手段への使用は、直接および間接を問わず厳しく禁止されています。米国が禁輸の対象としている国や、限定はされませんが、取引禁止顧客や特別指定国民のリストを含む米国輸出排除リストで指定されているものへの輸出および再輸出は厳しく禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris 10 10/09 Release Notes

Part No: 821-0381-11

Revision A

目次

はじめに	15
1 インストールに関する注意事項とバグ情報	19
一般情報	19
BIOS およびファームウェアのアップグレード	19
新しいメモリー要件	19
Solaris リリースのアップグレードサポートの変更	20
Solaris OS 以外の製品のサポート	20
始める前に	21
Solaris Live Upgrade と Solaris ゾーン	21
Solaris Live Upgrade に関する制約事項	21
ZFS ファイルシステムのゾーンルートでの Solaris Live Upgrade の使用	22
ラベル付きゾーンが構成された Solaris Trusted Extensions システムのアップグ レード	23
SPARC および x86 マシン上のミニルートへのパッチの適用	25
Solaris 10 Update の Solaris Data Encryption Supplement	25
Solaris 10 10/09 リリース用の GNOME ディスプレイマネージャーパッチをインス トールするときに必要な追加手順	25
x86: elx または pcelx NIC を備えたシステムでネットワーク構成が失敗する	26
/var ファイルシステムのデフォルトのサイズが不十分	26
x86: BIOS バージョン GG.06.13 の Hewlett-Packard (HP) Vectra XU シリーズのシステ ムをアップグレードできない	27
SPARC: 古いファームウェアでは、ブート用 Flash PROM を更新する必要があ る	28
旧バージョンの Solaris 管理コンソールソフトウェアは Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアと互換性がない	29
x86: BIOS デバイスのユーティリティに障害が発生すると、インストールまた はアップグレードを完了できない (6362108)	31
Solaris ゾーンがインストールされている場合に、Solaris Flash アーカイブを作成で	

きない (6246943)	32
x86: Sun Java Workstations 2100Z では、Solaris 10 Operating System DVD からの ブート時にパニックが発生することがある (6214356)	33
x86: 一部の Sun Fire システムでは、シリアルコンソールが動作しない (6208412)	35
x86 fdisk ブートパーティションがすでに存在しているシステムでは、Solaris GUI インストールプログラムが失敗することがある (6186606)	36
インストールに関する注意事項とバグ情報	37
x86: システムのメモリーが 768 MB 未満のときに GUI インストールが失敗す る	37
SPARC: DSR アップグレードによりシステム障害が発生することがある (6883262)	37
/var のディスク容量が最低または推奨ぎりぎりである場合、インストールが失 敗する (6873975)	38
自動再配置の問題で、DSR アップグレードが失敗する (6858233)	38
OS インストール時に <code>lgrp_*</code> 関数でシステムパニックが発生する (6834743)	39
ローカライズされたインストールに関する注意事項	39
SPARC: Solaris 10 10/09 に対して WAN ブートインストールが失敗する	40
x86: Solaris 10 10/08 より前のリリースで Solaris Flash アーカイブのインストールが 失敗する (6735181)	42
SPARC: WAN ブートプログラムを使用してインストールメディアから直接ブート すると失敗する (6734066)	42
一部のアジア語ロケールがカスタム JumpStart に使用できない (6681454)	43
PRODRM に Solaris Trusted Extensions の <code>prodreg</code> エントリの削除にかかわる問題が ある (6616592)	43
x86: NVidia SATA コントローラで ATAPI デバイスがサポートされない (6595488)	43
Sun アップグレードの詳細なパッチ解析のパネルはスクロールできない (6597686)	44
キーボードが接続されていない場合でもキー配列を選択する必要がある (6593071)	45
<code>dev_info</code> ノードに親のデータがないため PCIe にパニックが発生する (6517798)	45
Solaris OS のインストール後、Linux パーティションが GRUB メニューに表示され ない (6508647)	46
x86: メモリーが 512M バイトのシステムでインストールがハングアップする (6423854)	46
x86: インストール時の無効な <code>/sbin/dhccpinfo</code> エラー (6332044)	47
x86: CD メディアからインストールしてリブートを選択したあとに、ハング	

アップしているように見える (6270371)	47
x86: カスタム JumpStart インストールのあと、システムのブートが失敗する (6205478)	48
アップグレードに関する注意事項とバグ情報	49
Solaris Trusted Extensions システムでのアップグレードの完了後、オーディオデバ イスが利用不可になる (6866818)	49
アップグレード中に SUNWsmbar が /etc/services および /etc/inet/services ファイルを削除する (6756546)	50
アップグレード後に shutdown コマンドによってシステムがハングアップするこ とがある (6751843)	51
lucreate および lumake コマンドが実行状態にない非大域ゾーンのコピーの作成 に失敗する (6659451)	51
SPARC: Solaris Live Upgrade による Solaris 8 および Solaris 9 リリースからのアップ グレードが失敗する (6638175)	52
ゾーンを持つ DSR のアップグレードに関する注意事項 (6616788)	52
Solaris Trusted Extensions のアップグレードに関する注意事項 (6616585)	52
アップグレード後にシステムが ypbind と通信できなくなる (6488549)	53
インストールされているがブートされていないゾーンを含むシステムでアップグ レードが失敗する	54
非大域ゾーンを持つ Solaris 10 システムを Solaris 10 10/09 リリースにアップグ レードすると、ローカルファイルシステムサービスが失敗する場合がある (6428258)	55
Solaris 9 9/04 OS からアップグレードしたあとのデバイス ID の不一致	55
Solaris Live Upgrade の luupgrade コマンドを実行したときに進捗バーが表示され ない (6239850)	56
Solaris Live Upgrade を使用して以前の Solaris リリースからアップグレードする とき、古いアンインストーラが削除されない (6198380)	57
インストールに関するその他の注意事項	58
StarOffice と StarSuite は同じシステムに共存できない	58
選択したロケール以外のロケールもインストールされることがある	59
2 実行時の注意事項とバグ情報	61
共通デスクトップ環境	61
印刷後に Mozilla がクラッシュする (6824695)	61
解像度を変更すると、トラステッドストライプが画面に表示されなくなる (6460624)	61
x86: kdmconfig コマンドで Xorg X サーバー用のシステム識別情報の構成ファイル を作成できない (6217442)	62

ファイルシステム	63
ブランドゾーンに対して zoneadm attach が失敗し、マウント操作が無効になる (6800618)	63
x86: reboot コマンドを使用して 32 ビットカーネルをブートできない (6741682)	63
zpool attach コマンドによって bootblock 情報がコピーされない (6668666)	64
x86: ブート中に ata がタイムアウトになる (6586621)	64
ZFS legacy マウントで zoneadm install が失敗する (6449301)	66
ZFS および UNIX/POSIX 準拠に関する問題	67
fdisk -E は ZFS が使用するディスクを警告なしに一掃する可能性がある (6412771)	67
ZFS と他社製のバックアップ製品の問題	67
ZFS GUI は、各ウィザードの起動時に /usr/lib/embedded_su をチェックする必要 がある (6326334)	68
パニック時にファイルシステムの同期に失敗する (6250422)	68
一部の Solaris Express または Solaris 10 リリースからのアップグレードにはファイ ルシステムの再マウントが必要	69
NFSv4 アクセス制御リストの関数が正しく動作しないことがある	69
Solaris NFSv4 クライアントと NFSv4 サーバーとの間にアクセスに関する問題があ る	70
サイズの大きなディスクの場合に、mkfs コマンドを使用してファイルシステム を作成できないことがある (6352813)	70
1T バイトよりも大きなデバイスでシステムクラッシュダンプが失敗する (6214480)	71
ハードウェア関連の注意事項とバグ情報	71
Solaris 10 10/09 で ixgbe ドライバのパフォーマンスが低下する (6885903)	71
ZFS ルートプールでリブートのたびに保守が必要になる (6856341)	72
x86: 1G バイトの RAM を備えた 4 番目の 5709 インタフェースの plumb 中にシステ ムが plumb に失敗し、パニック状態になる (6822680)	72
x64: Mellanox の ConnectX ファームウェア 2.6.0 で PCI サブシステム ID が変更され る (6810093)	73
PCIe に対して回復不可能なマシンチェック例外が発生する (6797934)	74
x86: i86_mwait が意図したとおりに機能しない (6736444)	75
fwflash が ConnectX および hermon HCA をサポートしない (6731804)	75
HP NC326i アダプタと bge ドライバに関する問題 (6691658)	77
SPARC: NCP デバイスドライバで 19.55% のパフォーマンスの低下がある (6660074)	77
USB フロッピーディスクドライブをマウントできない (6650724)	77

USB ストレージデバイスの切断時にエラーメッセージが表示される (6624786) ..	77
(ZFS) ARC がカーネルケージ内にメモリーを割り当てるため、DR が実行できない (6522017)	78
デバイス固有の負荷分散設定が mpathadm で表示されない	78
登録ツールが原因で一部のフレームバッファ上の電源管理が妨げられる (6321362)	78
SPARC: Solaris 10 OS で Sun Crypto Accelerator 4000 ボードバージョン 1.0 および 1.1 がサポートされていない	79
特定の USB 2.0 コントローラが使用できない	79
サポートされる USB デバイスと対応するハブの構成	80
x86: Solaris 10 OS で特定のデバイスドライバにいくつかの制限がある	80
モニターのないシステムでの DVD-ROM/CD-ROM	80
x86: US 英語以外のキーボードを指定するには手動による構成が必要	81
SPARC: テープデバイスに接続される特定のホストバスアダプタ用の jfca ドライバによってエラーが発生することがある (6210240)	82
同一バスを共有する特定のデバイス間で競合が発生する (6196994)	83
一部の DVD および CD-ROM ドライブで Solaris をブートできない (4397457)	83
iPlanet Directory Server 5.1 に関する注意事項	84
Directory Server 5.1 のインストール	84
Sun Java System Directory Server 5 2005Q1 への移行	85
ローカリゼーションに関する注意事項	86
スウェーデン語ソフトウェアの翻訳に関する注意事項	86
Trusted Java DS に複数の入力方式スイッチアプリケーションが表示される	86
Wnn8 日本語入力方式	87
Primary Administrator 権限で入力方式を有効にすることができない (6475081)	87
IIIMF 第 12 版へのアップグレードでは New ChuYin 入力方式がサポートされない (6492129)	88
一部のロシア語ロケールで AltGr がモードスイッチとして機能しない (6487712)	88
ar ロケールでアラビア語のテキストが表示されない	88
いくつかのアラビア語フォントは GNOME で機能しない (6384024)	89
セッション保存アプリケーションで入力言語を切り替えられない (6360759)	89
ES ロケールでの Mozilla のキーボードショートカットは独特でありまいである (6288620)	90
UTF-8 ロケールへの移行に関する注意事項	90
一部のキー配列タイプ 6 および 7 のハードウェアが使用できない	93
ネットワーク接続に関する注意事項	94

e1000g ドライバが破損した LSO パケットを生成する (6855964)	94
Northstar カードで TCP 破損が発生する (6838180)	94
ゾーン間の通信に関する制約の厳格化 (6837033)	94
DR および showdevices が XSCF の再起動後に動作しない (6821108)	95
x86: bnx ドライバで Broadcom NetXtreme II 5709 チップセットがサポートされない (6637053)	96
SPARC: NFS/RDMA の接続エラー (6229077)	96
2つのポータルを持つ iSCSI ターゲットで、1つが不正なポータルの場合は、ログインが失敗する (6476060)	97
システム DOI を設定できない (6314248)	97
Solaris 10 OS では IP 転送がデフォルトで無効になっている	97
IP アドレスが失敗した IP ネットワークマルチパスグループに属していると、ゾーンはブートしない (6184000)	98
セキュリティに関する注意事項	98
pam_ldap を有効にしておく、パスワードなしのログインが失敗する (6365896)	99
Solaris のコマンドと標準	99
SPARC: 8 バイト境界整列 mutex に準拠しないアプリケーションが失敗する (6729759)	99
winbind によって最初の 1000 人の Active Directory ユーザーしか取得されない ..	100
PgAdmin III 1.6 で PostgreSQL バージョン 8.3 がサポートされない	100
Solaris Trusted Extensions の変更されたマニュアルページはリファレンスマニュアルだけに記載されている	100
Bash 3.00 でいくつかの環境変数が設定されなくなった	101
新しい ln コーティリティーには -f オプションが必要	101
新しい tcsh により、ハイフンまたは等号が使われている setenv 変数名が拒否される	102
STDIO getc ファミリのファイル終了条件の動作が変更になった	102
ps コマンドの出力列が広くなった	103
Solaris ボリュームマネージャー	103
Solaris ボリュームマネージャーの metattach コマンドが失敗することがある ...	103
Sun Java Desktop System	104
電子メールとカレンダー	104
ログインの問題	104
ヘルプシステム	105
Mozilla ブラウザ	105
システムレベルの問題	105

サウンドレコーダに関する問題	106
Nautilus ACL マスクがグループのアクセス権と同期されない (6464485)	106
strftime(3c) は %m と %d で GNU 拡張をサポートすべき (6448815)	107
x86: ビデオカードが1枚しかないシステムで全画面の拡大鏡を設定できない ..	107
一部の表示オプションを使用すると、ファイルマネージャーでエラーが発生することがある (6233643)	110
システム管理	110
SPARC: Solaris ボリュームマネージャ GUI が開始に失敗する (6671736)	110
x86: add_drv、update_drv、および rem_drv の各コマンドはアドバイザーレコードロッキングを使用する必要がある (6445040)	111
SPARC: FKU 137137-xx では他社製のボリュームマネージャソフトウェアがサポートされない	111
非大域ゾーンが含まれているシステムで patchadd -M を使用してパッチをインストールしてはいけない	112
::findleaks コマンドが失敗する (6720107)	112
vold によって Solaris 10 10/09 の DVD メディアが自動的にマウントされないことがある (6712352)	112
Solaris Trusted Extensions を有効にしたあとで Solaris 管理コンソールにログインできない (6639493)	113
zoneadm attach コマンドが失敗することがある (6550154)	113
SATA コントローラのレガシーモードと AHCI モードの切り替えを Solaris で処理できない (6520224)	114
遅延起動パッチの適用 (6486471)	114
大規模なファイルシステムで、32 ビットアプリケーションでファイルシステムの状態を取得する際にエラーが発生する可能性がある (6468905)	115
ゾーンに対応していないシステムでは、patchadd の -R オプションを使用して代替ルートパスを指定することは制限すべき (6464969)	116
Sun Patch Manager Tool 2.0 に旧バージョンとの互換性がない	117
既存のディスククライアントをシステムから削除できない (6205746)	117
SPARC: smoservice delete コマンドですべてのディレクトリが正常に削除されるとは限らない (6192105)	118
3 特定システムに関する注意事項	119
Sun Fire ハイエンドシステムでの動的再構成	119
ソフトウェアおよびハードウェアの既知のバグ	120
Sun Fire ミッドレンジシステムでの動的再構成	120
最小構成のシステムコントローラファームウェア	121

DR ソフトウェアの既知のバグ	121
Sun Enterprise 10000 に関するリリース情報	122
システムサービスプロセッサの要件	122
動的再構成に関する注意事項	122
InterDomain Networks	124
OpenBoot PROM 変数	124
Sun Enterprise ミッドレンジシステムでの動的再構成	124
サポートするハードウェア	125
ソフトウェアに関する注意事項	125
既知の障害	127
4 サポート中止に関する情報	129
将来のリリースで提供されなくなる予定の製品	129
@euro のロケールバリエーション	129
StarSuite	130
ucblinks	130
Xprt サーバーと Xprint 拡張機能	131
xmh コマンド	131
XIE ライブラリ	131
bdfstosnf コマンドおよび showsnf コマンド	131
PostgreSQL 8.1 および 8.2	131
ロケールバリエーション cz	131
Solaris 監査コマンド	132
xorgcfg および xorgconfig ユーティリティ	132
監査ファイルサイズ統計およびファイルサイズ制限のインタフェース	133
Berkeley DB 4.2	133
audiorecord および audioplay アプリケーションの一部のスイッチ	133
CD メディア	133
インバウンドのオープンソースおよびサードパーティーベンダー提供のオープン ソースコンポーネントの方針転換	133
Mozilla 1.X のサポート	134
x86: sbpro ドライバ	134
CacheFS	134
sdtudctool	134
SPARC: SBus グラフィックスカード用の cg6 ドライバ	134

ctlnp および ctlconvert_txt	134
genlayouttbl ユーティリティ	135
モバイル IP	135
Gnopernicus	135
Xsun サーバー	135
共通デスクトップ環境	135
CDE イメージビューア	135
Sun Java System Calendar Server のクライアントアプレット	136
DARPA 簡易ネームサーバー	136
I2O Intelligent I/O	136
PDF ファイルおよび PostScript ファイルの GNOME ビューア	136
グラフィカルなスマートカード管理インタフェース	136
iButton スマートカード	136
Cyberflex スマートカード	137
PAM スマートカード	137
OCF/SCF スマートカードフレームワーク	137
SCF スマートカード API	137
Remote Program Load サーバー機能	137
Sun4V システムのデフォルトの Ethernet ドライバが ipge から e1000g NIC ドライバに移行	138
Solstice Enterprise Agents のサポート	138
32 ビット x86: 拡張メモリーファイルシステムのサポート	138
Standard Type Services Framework のサポート	138
SPARC: jfca ドライバのサポート	139
zic -s オプションのサポート	139
リムーバブルボリューム管理のサポート	139
32 ビット x86: コントローラデバイスとドライバ	139
64 ビット SPARC: デュアル基本速度 ISDN インタフェースとマルチメディアコーデックチップ	140
SPARC: 将来の Solaris リリースでサポートされなくなる可能性がある特定のドライバ	140
自動セキュリティ拡張ツールのサポート	140
アジアの短縮 dtlogin 名	140
監査デーモンインタフェース	141
Cfront 実行時サポートライブラリ	141
Configuration Assistant (構成用補助) の fp プラグインハードウェアオプション ..	141

基本セキュリティーモジュールのデバイス割り当てインタフェース	141
旧式となるデバイスドライバインタフェース (DDI)	142
power.conf の Device Management エントリ	144
デバイスとドライバソフトウェアのサポート	144
FMLI (Form and Menu Language Interpreter)	144
/etc/net/ti* のホストファイル	144
Java 2 Platform, Standard Edition 1.4	145
krb5.conf の Kerberos Ticket Lifetime パラメータ	145
韓国語 CID フォント	145
UTF-8 でないレガシー (従来の) ロケール	145
CPU パフォーマンスカウンタライブラリ (libcpc) の関数	145
libXinput ライブラリ	147
NIS+ (ネットワーク情報サービスプラス) のネームサービスの種類	147
nstest テストプログラム	147
Perl バージョン 5.6.1	147
Solaris 管理コンソールのパッチツール (パッチマネージャー)	148
Solstice Enterprise Agents	148
スタンドアロンのルーター検出	148
Sun Fire Link インタフェース	148
Sun Java Desktop System アプリケーション	149
トークンリングおよび FDDI デバイスタイプ	149
WBEM ベースの動的再構成	150
XIL インタフェース	150
xetops ユーティリティー	150
x86: Xsun DDX のモジュール、ライブラリ、および関連ファイル	150
5 マニュアルに関する情報	153
『Solaris のシステム管理 (IP サービス)』	153
一部のローカライズ版ドキュメントが更新されていない	153
『Solaris 10 10/09 Patch List』	156
『Solaris のシステム管理 (IP サービス)』	156
『Solaris のシステム管理 (ネーミングとディレクトリサービス: NIS+ 編)』	157
スウェーデン語版マニュアルの提供中止	157
Application Server のマニュアルで、Java DB ではなく Derby データベースと記述されている	157

Software Supplement CD に収録されていたマニュアル	157
『Solaris のシステム管理 (基本編)』	158
ディスククライアントの管理 (手順)	158
『Solaris 10 インストールの手引き』 と Solaris 10 インストールガイド	158
『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』	158
『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』	159
『Solaris 10 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』	159
『Solaris 10 インストールガイド (カスタム JumpStart / 上級編)』	159
『Solaris 10 インストールの手引き』	159
Solaris 10 のマニュアルとマニュアルページ	160
A Solaris 10 オペレーティングシステムで統合された解決済みバグの表	161
解決済みの統合されたバグ	161

はじめに

本書では、Solaris 10 10/09 オペレーティングシステムについて説明します。Solaris 10 3/05、Solaris 10 3/05 HW1、Solaris 10 3/05 HW2、Solaris 10 1/06、Solaris 10 6/06、Solaris 10 11/06、Solaris 10 8/07、Solaris 10 5/08、Solaris 10 10/08、および Solaris 10 5/09 の各リリースの詳細については、『Solaris 10 5/09 ご使用にあたって』(Sun Part No. 820-6035)を参照してください。

本書『Solaris 10 10/09 ご使用にあたって』では、インストール時および実行時の問題点について詳細を説明します。本書には、Solaris™ 10 オペレーティングシステムでのソフトウェアのサポート中止に関する情報も含まれています。

『Solaris 10 10/09 ご使用にあたって』の最新版については、<http://docs.sun.com> で『Solaris 10 10/09 ご使用にあたって』を検索してください。

注- このリリースでは、SPARC® および x86 系列のプロセッサアーキテクチャー (UltraSPARC®, SPARC64、AMD64、Pentium、Xeon EM64T) を使用するシステムをサポートします。サポートされるシステムについては、Solaris 10 Hardware Compatibility List (<http://www.sun.com/bigadmin/hcl>) を参照してください。本書では、プラットフォームにより実装が異なる場合は、それを特記します。

本書では、「x86」という用語は AMD64 あるいは Intel Xeon/Pentium 製品系列と互換性のあるプロセッサを使用して製造された 32 ビットおよび 64 ビットシステムを意味します。サポートされるシステムについては、Solaris 10 Hardware Compatibility List を参照してください。

対象読者

本書は、Solaris に関する知識を持つ方、現在習得中の方を対象に、Solaris 10 ソフトウェアをインストールして使用するために必要な情報を提供します。

関連情報

Solaris 10 ソフトウェアをインストールする際は、本書の内容を理解した上で、次のマニュアルをご利用ください。

- [Java Desktop System Release 3 Solaris 10 Collection - Japanese](#)
- 『Solaris 10 インストールの手引き』カード
- 『Solaris 10 10/09 の新機能』
- 『Solaris 10 10/09 インストールガイド(基本編)』
- 『Solaris 10 10/09 インストールガイド(インストールとアップグレードの計画)』
- 『Solaris 10 10/09 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』
- 『Solaris 10 10/09 インストールガイド(ネットワークインストール)』
- 『Solaris 10 10/09 インストールガイド(カスタムJumpStart/ 上級編)』
- 『Solaris 10 10/09 Patch List 』
- [Solaris 10 System Administrator Collection - Japanese](#)

最新の CERT 勧告については、CERT の公式 Web サイト <http://www.cert.org> を参照してください。

ハードウェア構成によっては、Solaris ソフトウェアのインストール時に別途作業が必要になることがあります。その場合は、各ハードウェアの製造元から提供される

他社の Web サイト

このマニュアルでは、Sun 以外の URL を挙げ、関連する補足情報を示す場合があります。

注- このマニュアルで説明する Sun 以外の Web サイトの利用については、Sun は責任を負いません。こうしたサイトや資源上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、広告、製品、その他の素材について Sun は推奨しているわけではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトや資源上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生した(あるいは発生したと主張される)いかなる損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトでは、次の追加のリソースに関する情報を提供しています。

- マニュアル (<http://jp.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://jp.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://jp.sun.com/training/>)

Sun へのご意見

Sun はドキュメントの品質向上のために、お客様のご意見やご提案をお待ちしています。ご意見を投稿するには、<http://docs.sun.com> で「Feedback」をクリックしてください。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

インストールに関する注意事項とバグ情報

この章では、Solaris 10 オペレーティングシステムのインストールに関連した情報と問題について説明します。

注 - すでに修正され Solaris 10 10/09 ソフトウェアには該当しなくなったバグや問題については、付録 A 「Solaris 10 オペレーティングシステムで統合された解決済みバグの表」を参照してください。

一般情報

ここでは、Solaris 10 OS での動作の変更点など、一般的な情報について説明します。

BIOS およびファームウェアのアップグレード

Solaris 10 10/09 リリースは、次の最新の組み合わせを実行するサポート対象のすべての Sun システムでテストされています。

- BIOS と ILOM
- SPARC ファームウェアおよび OBP とハイパーバイザ

Solaris 10 10/09 リリースで最良の結果を得るためには、ご使用の BIOS/ファームウェアを、http://www.sun.com/bigadmin/patches/firmware/release_history.jsp の表に記載されている最新リリースにアップグレードしてください。

新しいメモリー要件

Solaris 10 10/09 リリースの最小および推奨メモリー要件を次に示します。

- UFS ルートファイルシステム:
 - 最小メモリーは 384M バイト

- 推奨メモリーは512Mバイト
- ZFS ルートファイルシステム:
 - 最小メモリーは786Mバイト
 - ZFS パフォーマンス全体には1Gバイトのメモリーが推奨される

Solaris リリースのアップグレードサポートの変更

SPARC システムの場合、Solaris 10 8/07 リリース以降にアップグレードできるのは、次のリリースの Solaris OS だけです。

- Solaris 8 OS
- Solaris 9 OS
- Solaris 10 OS

x86 システムの場合、アップグレードできるのは、次のリリースの Solaris OS だけです。

- Solaris 9 OS
- Solaris 10 OS

Solaris 8 ソフトウェア以前のリリースから Solaris 10 10/09 ソフトウェアにアップグレードする場合は、最初に上記のいずれかのリリースにアップグレードしてください。そのあとに、Solaris 10 10/09 リリースにアップグレードしてください。

Solaris OS 以外の製品のサポート

Solaris 10 10/09 は、Solaris の互換性保証に沿って以前のリリースとの互換性についてテスト済みです。これは、Solaris の公開されている ABI に準拠するアプリケーション (他社製のアプリケーションを含む) が Solaris 10 10/09 リリースで修正なしに動作することを意味します。詳細は、Solaris アプリケーション保証プログラム (<http://www.sun.com/software/solaris/guarantee.jsp>) を参照してください。

Solaris ソフトウェアに含まれないほかの製品を Solaris OS とともにシステムで実行する場合があります。このような製品には、Sun よって提供されるものと、他社によって提供されるものがあります。このシステムを Solaris 10 リリースにアップグレードする場合は、このようなほかの製品が Solaris 10 OS でもサポートされることを確認してください。これらの各製品の状態に応じて、次のどちらかの方法を実行できます。

- 製品の既存のバージョンが Solaris 10 ソフトウェアでサポートされていることを確認します。
- Solaris 10 リリースでサポートされている製品の新しいバージョンをインストールします。Solaris ソフトウェアにアップグレードする前に、製品の以前のバージョンを削除する必要がある場合もあります。詳細は、製品のマニュアルを参照してください。

- Solaris 10 ソフトウェアにアップグレードする前に、製品を削除します。

始める前に

ここでは、Solaris 10 OS のインストールまたは Solaris 10 OS へのアップグレードを行う前に知っておく必要がある重要な問題点について説明します。このような問題点による影響で、インストールやアップグレードが正常に完了しない場合があります。ここで説明する問題点が使用しているシステムに該当する場合は、インストールやアップグレードを行う前に、推奨される回避方法を実行する必要があります。

Solaris Live Upgrade と Solaris ゾーン

Solaris 10 8/07 リリース以降では、Solaris ゾーンに Solaris Live Upgrade を使用できません。この詳細は、InfoDoc 206844 (<http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-61-206844-1>) を参照してください。

Solaris Live Upgrade に関する制約事項

Solaris Live Upgrade が正しく動作するためには、使用する OS バージョンに特定のパッチリビジョンのセットをインストールする必要があります。<http://sunsolve.sun.com> を参照して、最新のパッチリストを使用しているかどうか確認してください。Solaris 10 10/09 リリースには、Solaris Live Upgrade に関する次の制約事項があります。

- Solaris Live Upgrade を使用して、現在の Solaris 8 OS を Solaris 10 10/09 リリースにアップグレードするには、次の手順を実行してください。
 - SPARC システムの場合 - Solaris 8 リリースから Solaris 10 10/09 リリースへの Solaris Live Upgrade がサポートされています。Solaris Live Upgrade を使用する手順については、http://www.sun.com/bigadmin/features/articles/live_upgrade_patch.jsp を参照してください。
 - x86 システムの場合 - Solaris 8 リリースから Solaris 10 10/09 リリースへの Solaris Live Upgrade はサポートされていません。代わりに、標準のアップグレード手順を使用するか、Solaris 8 OS から Solaris 9 OS または Solaris 10 OS への Solaris Live Upgrade を実行してください。その次に、Solaris 9 リリースまたは Solaris 10 リリースから Solaris 10 10/09 リリースへの Solaris Live Upgrade を実行できます。

注 - Solaris 8 リリースから Solaris 10 5/08、Solaris 10 10/08、Solaris 10 5/09、および Solaris 10 10/09 の各リリースへの Solaris Live Upgrade は、<http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-9-250526-1> によってサポートされています。

- Solaris Live Upgrade を使用して、現在の Solaris 9 OS を Solaris 10 10/09 リリースにアップグレードするには、次のパッチを適用します。
 - SPARC システムの場合 - 137477-01 またはそれ以降
 - x86 システムの場合 - 137478-01 またはそれ以降
- Solaris Live Upgrade を使用して、現在の Solaris 10 OS を Solaris 10 10/09 リリースにアップグレードするには、次のパッチを適用します。
 - SPARC システムの場合 - 137321-01 またはそれ以降
 - x86 システムの場合 - 137322-01 またはそれ以降

これらのパッチには、新しい p7zip 機能が備わっています。Solaris 10 10/09 へのアップグレードをサポートするには、Solaris Live Upgrade に p7zip 機能が必要です。

注 - Solaris Live Upgrade を使用する前に、Infodoc 206844 (<http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-61-206844-1>) に記載された、ライブブート環境に最低限必要なパッチ情報を参照してください。

ZFS ファイルシステムのゾーンルートでの Solaris Live Upgrade の使用

Solaris 10 10/09 リリースには、ZFS ルートファイルシステムをインストールし、ZFS 上にゾーンルートを構成する機能が備わっています。通常、ゾーンルートは必要に応じて ZFS 上に作成および構成することができます。ZFS とゾーンの構成で Solaris Live Upgrade を使用する場合は、次の情報を確認してください。

- Solaris 10 10/09 リリースでサポートされているゾーン構成で Solaris Live Upgrade を使用する場合は、まず標準のアップグレードプログラムを使用してシステムを Solaris 10 10/09 リリースにアップグレードする必要があります。
- その後、Solaris Live Upgrade を使用して、ゾーンルートを持つ UFS ルートファイルシステムを ZFS ルートファイルシステムに移行するか、ZFS ルートファイルシステムとゾーンルートにアップグレードやパッチを適用することができます。
- サポートされていないゾーン構成を、以前の Solaris 10 リリースから直接 Solaris 10 10/09 リリースに移行することはできません。

Solaris 10 10/09 リリースでアップグレードまたはパッチ適用されるサポートされているゾーン構成の詳細については、『Solaris ZFS Administration Guide』の「[Migrating a UFS Root File System to a ZFS Root File System \(Solaris Live Upgrade\)](#)」を参照してください。

これらの構成の設定方法の詳細は、『Solaris ZFS 管理ガイド』の「[ZFS をサポートするための Solaris インストールと Solaris Live Upgrade の要件](#)」を参照してください。

ZFS ルートファイルシステムへの移行を開始する場合、または ZFS ルートファイルシステムが含まれているシステムでゾーンを設定する場合は、この章に記載された情報をよく確認してから行なってください。推奨手順に正確に従って ZFS ルートファイルシステムが含まれているシステムにゾーンを設定して、そのシステムで確実に Solaris Live Upgrade を使用できるようにしてください。

ラベル付きゾーンが構成された Solaris Trusted Extensions システムのアップグレード

Solaris Trusted Extensions が構成された Solaris システムでは、非大域ゾーンが使用されます。これらのシステムのアップグレード方法は、ゾーンを使用する Solaris システムのアップグレード方法と同じであり、注意事項も同じです。

- **ZFS** ゾーン- 現在のところ、ZFS ゾーンが構成されている Solaris システムはアップグレードできません。ZFS ゾーンが構成されている Solaris Trusted Extensions システムの場合は、代替手段としてゾーンを再作成します。ゾーンを再作成するには、次の手順を実行してください。
 1. まず、`tar -T` コマンドを使用してすべてのデータをバックアップします。
 2. 次に、ゾーンを削除します。
 3. システムをアップグレードし、すべてのゾーンを再構成します。
 4. すべてのゾーンが構成されたあとで、すべてのデータを復元します。
- **NFSv4** ドメイン- アップグレード後に、各ラベル付きゾーンを起動すると、NFSv4 ドメインの入力を求めるプロンプトが表示されます。このプロンプトが表示されないようにするには、アップグレードを行う前に、各ラベル付きゾーンの `/etc/default/nfs` ファイルに正しい `NFSMAPID_DOMAIN` 値を追加します。詳細は、CR 5110062 を参照してください。
- **Live Upgrade**- 次のバグは、ゾーンが構成されている Solaris システムの Live Upgrade に影響を与えます。
 - 51 ページの「[lucreate および lumake コマンドが実行状態にない非大域ゾーンのコピーの作成に失敗する \(6659451\)](#)」

これらのバグは、Solaris Trusted Extensions が構成されているシステムの Live Upgrade にも影響します。回避方法も同じです。

- ネームサービス-インストール時にシステムでネームサービスを使用するように構成した場合、それがアップグレード中に使用されるネームサービスと異なっているときは、ブート後に大域ゾーンで正しいネームサービスを使用することができます。

たとえば、システムのインストール時にネームサービスとしてNISを使用するように指定した場合、あとでシステムをLDAPクライアントに変換したときは、`luactivate` ブートをを使用して、大域ゾーンで使用するネームサービスをNISに戻すことができます。この原因はCR 6569407です。

回避方法としては、`/var/svc/profile` ディレクトリの `name_service.xml` シンボリックリンクを調整して、現在使用されているネームサービスに対応する正しい `xml` ファイルを指すようにします。たとえば、インストール時にネームサービスとしてNISを指定した場合、`name_service.xml` は `ns_nis.xml` へのシンボリックリンクになります。そのあとでシステムがLDAPクライアントに変換された場合、Live Upgrade 中に使用されたネームサービスがLDAPであれば、次のコマンドを実行します。

```
# ln -fs ns_ldap.xml name_service.xml
```

これは、Live Upgrade を開始する前または `lucreate` コマンドを実行する前に行うようにしてください。ただし、`lucreate` の前にこのコマンドを実行しなかった場合は、`luactivate` コマンドを実行したあとで次の手順を実行します。

1. 新しいブート環境を `lumount` でマウントします。

```
# lumount <BE_name>
```

2. ブート環境の `/var/svc/profile` ディレクトリに移動します。

```
# cd /.alt.<BE_name>/var/svc/profile
```

3. `name_service.xml` リンクを適切に設定します。次に例を示します。

```
# ln -fs ns_ldap.xml name_sevice.xml
```

4. ブート環境を `luumount` でマウント解除します。

```
# luumount <BE_name>
```

注- 上記の手順を実行せずにシステムをブートした場合は、ネームサービスに関連する適切な SMF クライアントサービスを手動で起動する必要があります。

SPARC および x86 マシン上のミニルートへのパッチの適用

SPARC および x86 マシン上のミニルートにパッチを適用する場合に、c ターゲット指定子を指定して `-patchadd` を使用する手順が変更されています。変更後の手順では、ミニルートを展開し、パッチを適用してから、ミニルートを再度パッケージ化する必要があります。

詳細な手順については、次のトピックを参照してください。

- 『Solaris 10 10/09 インストールガイド(ネットワークインストール)』の第5章「DVD メディアを使用したネットワークインストール(作業)」
- 『Solaris 10 10/09 インストールガイド(ネットワークインストール)』の第6章「CD メディアを使用したネットワークインストール(作業)」
- 『Solaris 10 10/09 インストールガイド(ネットワークインストール)』の第7章「ミニルートイメージへのパッチの適用(作業)」

Solaris 10 Update の Solaris Data Encryption Supplement

Solaris 10 8/07 リリース以降、Solaris 10 OS ソフトウェアには Solaris Data Encryption Supplement パッケージがデフォルトで含まれています。これらのパッケージをダウンロードしてインストールする必要はなくなりました。

Solaris 10 10/09 リリース用の GNOME ディスプレイマネージャパッチをインストールするときに必要な追加手順

次のパッチは、CR 6277164 および CR 6214222 で報告されている問題を解決するためのパッチです。

- パッチ ID 119366-05 (SPARC ベースのシステム用)
- パッチ ID 119367-05 (x86 ベースのシステム用)

次の節では、それら報告済みの問題を完全に解決するために必要な追加手順について説明します。詳細は、これらのパッチのパッチ README の Special Install Instructions セクションをお読みください。

x86: elx または pcelx NIC を備えたシステムでネットワーク構成が失敗する

elx または pcelx ネットワークインタフェースカード (NIC) を備えたシステムでは、インストールが失敗します。NIC の構成中に、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
WARNING: elx: transmit or jabber underrun: d0<UNDER, INTR, CPLT>
```

詳細は、[elxl\(7D\)](#) または [pcelx\(7D\)](#) のマニュアルページを参照してください。

回避方法: elx または pcelx NIC を使用していないシステムにインストールして実行してください。

/var ファイルシステムのデフォルトのサイズが不十分

/var ファイルシステムが別のスライスに置かれている場合は、/var ファイルシステムのデフォルトのサイズが不十分なことがあります。

/var ファイルシステムのスライスサイズを手動で大きくする必要があります。

注 - /var ファイルシステムが別のスライスやパーティションに置かれていない場合、この問題は発生しません。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- Solaris GUI インストールプログラムを使用している場合は、次の手順を実行します。
 1. インストールを開始します。
 2. 「インストール形式の選択」から「カスタムインストール」を選択します。

Solaris インストールプログラムでは、いくつかの画面が表示され、インストールするソフトウェアのローカリゼーション、製品、およびディスク配置をカスタマイズできます。
 3. 「ファイルシステムの配置」から「変更」を選択します。

ディスク配置画面が表示されます。
 4. 特定のスライスの「ファイルシステム」列に /var と入力し、「適用」をクリックします。

インストールプログラムによって /var ファイルシステムのデフォルトのサイズが提示されます。

5. /var ファイルシステムの「サイズ」列のエントリを編集して、ディスク容量サイズの2倍に設定します。
たとえば、インストールプログラムで40Mバイトの容量が割り当てられている場合は、「サイズ」の値を80に変更します。
 6. インストールを完了します。
- Solaris インストールプログラムのテキストインストーラを使用している場合は、次の手順を実行します。
 1. インストールを開始します。
 2. 「インストール形式の選択」から「カスタムインストール」を選択します。
Solaris インストールプログラムでは、いくつかの画面が表示され、インストールするソフトウェアのローカリゼーション、製品、およびディスク配置をカスタマイズできます。
 3. 「ファイルシステムの配置」から「自動配置」を選択します。
ディスク配置画面が表示されます。
 4. 特定のスライスの「ファイルシステム」列に /var と入力します。
インストールプログラムによって /var ファイルシステムのデフォルトのサイズが提示されます。
 5. /var ファイルシステムのサイズをカスタマイズするには、F4_Customize キーを押します。
 6. /var ファイルシステムの「サイズ」列のエントリを編集して、ディスク容量サイズの2倍に設定します。
たとえば、インストールプログラムで40Mバイトの容量が割り当てられている場合は、「サイズ」の値を80に変更します。
 7. インストールを完了します。
 - カスタム JumpStart プログラムを使用している場合は、filesys プロファイルキーワードを使用して /var ファイルシステムのサイズを設定します。次の例では、スライス5の /var ファイルシステムのサイズを256Mバイトに設定しています。

```
filesys c0t0d0s5 256 /var
```

x86: BIOS バージョン GG.06.13 の Hewlett-Packard (HP) Vectra XU シリーズのシステムをアップグレードできない

Solaris 10 ソフトウェアには、大きなパーティションをインストールできる機能が含まれています。システム BIOS は Logical Block Addressing (LBA) をサポートしている必

要がありますが、BIOSバージョン GG.06.13 は LBA アクセスをサポートしていません。このような衝突を Solaris ブートプログラムは処理できません。このことはほかの HP Vectra システムにも影響します。

このシステムをアップグレードすると、HP システムはブートしなくなります。暗い画面上に点滅する下線が表示されるだけです。

回避方法: 最新の BIOS バージョン GG.06.13 の HP Vectra XU シリーズシステムを Solaris 10 リリースにアップグレードしないでください。Solaris 10 リリースでは、これらのシステムはサポートされていません。

ブートフロッピーディスクまたはブート CD を使用すれば、ブートにハードディスクコードを使用しないので、システムをブートすることができます。その後、ブート可能デバイスとして、ネットワークまたは CD-ROM ドライブではなくハードディスクを選択してください。

SPARC: 古いファームウェアでは、ブート用 Flash PROM を更新する必要がある

SPARC ベースのシステムでは、Solaris 10 OS は 64 ビットモードでのみ動作します。一部の Sun4U™ システムでは、OS を 64 ビットモードで実行するために、Flash PROM 内の OpenBoot™ ファームウェアを高いレベルに更新する必要があります。次のシステムでは、Flash PROM の更新が必要となる場合があります。

- Ultra™ 2
- Ultra 450 および Sun Enterprise™ 450
- Sun Enterprise 3000、4000、5000、および 6000 の各システム

次の表に、UltraSPARC システムと、64 ビットの Solaris 10 OS を実行するために必要な最小限のファームウェアバージョンを示します。システムタイプは、`uname -i` コマンドを実行して確認できます。実行中のファームウェアバージョンは、`prtconf -v` コマンドを実行して確認できます。

表 1-1 UltraSPARC システム上で 64 ビット Solaris ソフトウェアを実行するために必要なファームウェアバージョン

システムタイプ (<code>uname -i</code> で出力される)	必要最小限のファームウェアバージョン (<code>prtconf -v</code> で出力される)
SUNW,Ultra-2	3.11.2
SUNW,Ultra-4	3.7.107
SUNW,Ultra-Enterprise	3.2.16

この表に記載されていないシステムでは、Flash PROM を更新する必要はありません。Flash PROM を更新する方法については、<http://docs.sun.com> で『Solaris 8 Sun ハードウェアマニュアル』のいずれかの版を参照してください。

注-SPARC システムと x86 システムの両方でファームウェアをアップグレードすると、パフォーマンスが著しく向上する可能性があります。BigAdmin Patching Center (<http://www.sun.com/bigadmin/patches/overview.jsp>) の Firmware の節を参照してください。また、FAQ (<http://www.sun.com/bigadmin/patches/firmware/faq.jsp>) も参照してください。

旧バージョンの Solaris 管理コンソールソフトウェアは Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアと互換性がない

Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアは、旧バージョンの Solaris 管理コンソール 1.0、1.0.1、1.0.2 ソフトウェアと互換性がありません。Solaris 管理コンソール 1.0、1.0.1、1.0.2 のいずれかのソフトウェアがインストールされた状態で Solaris 10 リリースおよびその互換バージョンにアップグレードする場合は、Solaris 管理コンソールソフトウェアをアンインストールする必要があります。システムに SEAS 2.0、SEAS 3.0、Solaris 8 Admin Pack のいずれかがインストールされていると、Solaris 管理コンソールソフトウェアが存在している可能性があります。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- アップグレードする前に `/usr/bin/prodreg` コマンドを実行して、Solaris 管理コンソールソフトウェアのフルアンインストールを行います。
- Solaris 10 リリースへのアップグレード前に Solaris 管理コンソールソフトウェア 1.0、1.0.1、1.0.2 をアンインストールしていなかった場合は、Solaris 管理コンソールソフトウェア 1.0、1.0.1、1.0.2 のすべてのパッケージを削除する必要があります。パッケージの削除には `prodreg` コマンドではなく、`pkgrm` コマンドを使用します。必ず、手順に記載された順番どおりに削除してください。次の手順を実行します。
 1. スーパーユーザーになります。
 2. 次のコマンドを入力します。

```
# pkginfo | grep "Solaris Management Console"
```

前述の出力結果で、パッケージ名の説明文の先頭に「Solaris Management Console 2.1」という文字列がない場合、そのパッケージは Solaris 管理コンソール 1.0 ソフトウェアのパッケージです。

3. `pkgrm` を使用して、Solaris 管理コンソール 1.0 ソフトウェアパッケージのすべてのインスタンスを次の順序で削除します。

注- 説明文に「Solaris Management Console 2.1」という文字列が含まれているパッケージは削除しないでください。たとえば、SUNWmc.2 は Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアのパッケージです。

pkginfo の出力に、複数のバージョンの Solaris 管理コンソール 1.0 ソフトウェアパッケージが含まれている場合は、pkgrm を使用して、すべてのバージョンを削除してください。このとき、パッケージ名の末尾に番号が付いていないものを先に削除します。その後、末尾に番号が付いているものを削除してください。たとえば、pkginfo の出力に SUNWmcman と SUNWmcman.2 が含まれている場合、最初に SUNWmcman を削除して、次に SUNWmcman.2 を削除します。prodreg は使用しないでください。

```
# pkgrm SUNWmcman
# pkgrm SUNWmcapp
# pkgrm SUNWmcsvr# pkgrm SUNWmcsvu
# pkgrm SUNWmc
# pkgrm SUNWmcc
# pkgrm SUNWmcsws
```

4. 端末ウィンドウで次のコマンドを実行します。

```
# rm -rf /var/sadm/pkg/SUNWmcapp
```

これで Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアが正しく機能するようになります。将来 Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアの保守を行う場合や、Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアが正しく機能しない場合は、Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアをいったん削除します。次の手順で再インストールしてください。

1. pkgrm を使用して、Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアパッケージのすべてのインスタンスを次の順序で削除します。

注-SUNWmc と SUNWmc.2 のように、ある Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアパッケージに対して複数のインスタンスがシステム上に存在する場合は、最初に SUNWmc を削除して、次に SUNWmc.2 を削除してください。prodreg は使用しないでください。

```
# pkgrm SUNWpmgr
# pkgrm SUNWrmui
# pkgrm SUNWlvmg
# pkgrm SUNWlvma
# pkgrm SUNWlvmr
# pkgrm SUNWdc1nt
# pkgrm SUNWmga
```

```
# pkgrm SUNWmgapp
# pkgrm SUNWmcdev
# pkgrm SUNWmcex
# pkgrm SUNWwbmc
# pkgrm SUNWmc
# pkgrm SUNWmcc
# pkgrm SUNWmccom
```

2. Solaris 10 SOFTWARE - 4 CD を CD-ROM ドライブに挿入します。端末ウィンドウで次のように入力します。

```
#
# cd /cdrom/cdrom0/Solaris_10/Product
# pkgadd -d . SUNWmccom SUNWmcc SUNWmc SUNWwbmc SUNWmcex SUNWmcdev \
  SUNWmgapp SUNWmga SUNWdcInt SUNWlvmr SUNWlvma SUNWlvmg SUNWpmgr \
  SUNWrmui
```

これによって、すべての旧バージョンの Solaris 管理コンソールソフトウェアが削除され、Solaris 管理コンソール 2.1 ソフトウェアが正しく機能するようになります。

x86: BIOS デバイスのユーティリティーに障害が発生すると、インストールまたはアップグレードを完了できない (6362108)

特定の状況において、BIOS デバイスのユーティリティー (/sbin/biosdev) に障害が発生し、インストールまたはアップグレードが正常に行われなくなることがあります。このエラーは、次のいずれかの状況で発生する可能性があります。

- パッチ ID 117435-02 を適用したが、システムをリブートしなかった。
- システムに、同一の fdisk パーティションを持つ複数の同一ディスクがある。

次のエラーメッセージが表示されます。

```
biosdev: Could not match any!!
```

回避方法: パッチ ID 117435-02 を適用したあとは、必ずシステムをリブートしてください。インストールまたはアップグレードに使用される同一のディスクが、異なる fdisk パーティションレイアウトで構成されていることを確認してください。

次の例で使用するシステムには、同じ fdisk パーティションレイアウトで構成される 2 つのディスクが含まれています。これらのレイアウトを変更するには、次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーになります。
2. ディスク管理ユーティリティーを起動します。

format

システム上で使用できるディスクのリストが表示されます。

- fdisk パーティションを変更するディスクを選択するために、ディスクの番号を入力します。
- 「Format」オプションのリストから、「fdisk」を選択します。
ディスクのパーティション情報と fdisk オプションのリストが表示されます。
- ディスクのレイアウトを変更するために、次のいずれかの方法を選択します。
 - 別のアクティブパーティションを指定する場合は、2 を押します。
 - 別のディスクパーティションを追加する場合は、1 を押します。
 - 未使用のパーティションを削除する場合は、3 を押します。
- 変更を保存して fdisk メニューを終了するには、5 を押します。
- ディスク管理ユーティリティを終了するには、「Format」オプションから「Quit」を選択します。
- システムを再起動します。
- システムをリブートしたあとに、エラーメッセージが表示されなくなったことを確認します。スーパーユーザーとして、次のコマンドを入力します。

/sbin/biosdev

それでもエラーメッセージが生成される場合は、前記の手順を繰り返します。ただし、手順 5 では別のオプションを選択してください。

- 同一の fdisk パーティションレイアウトを持つ同一のディスクがほかにもシステムに含まれている場合は、それらのディスクに対して手順 1-9 を繰り返します。そのようなディスクがない場合は、Solaris のインストールまたはアップグレードを続行できます。

Solaris ゾーンがインストールされている場合に、Solaris Flash アーカイブを作成できない (6246943)

最新の Solaris リリースから、非大域ゾーンがインストールされているときに、Solaris Flash アーカイブを適切に作成できなくなっています。Solaris Flash 機能は、最新のリリースでは Solaris コンテナ (ゾーン) 機能との互換性を持っていません。

flar create コマンドを使用して、次の環境に Solaris Flash アーカイブを作成しないでください。

- 非大域ゾーン内
- 非大域ゾーンがインストールされている場合の大域ゾーン内

このような環境に Solaris Flash アーカイブを作成すると、配置したアーカイブが適切にインストールされないことがあります。

回避方法: インストールされているゾーンがすべて停止している場合は、それらのゾーンを含むシステムの Solaris Flash アーカイブを作成できる可能性があります。詳細は、http://opensolaris.org/os/community/zones/faq/flar_zones/ を参照してください。

x86: Sun Java Workstations 2100Z では、Solaris 10 Operating System DVD からのブート時にパニックが発生することがある (6214356)

Sun Java Workstation 2100Z の DVD コンボドライブのファームウェアが原因で、システムパニックが発生することがあります。このパニックは、ワークステーションを Solaris 10 Operating System DVD からブートするときに発生します。カーネル起動画面が表示されたあと、次のメッセージがごく短時間に表示されます。

```
panic[cpu0]/thread=fec1be20: mod_hold_stub:
Couldn't load stub module sched/TS_DTBL
fec25cb0 genunix:mod_hold_stub+139 (fec04088, 63, fea11)
fec25cc4 unix:stubs_common_code+9 (1, 8, fec026e4)
fec25ce4 unix:disp_add+3d (fec026dc)
fec25d00 genunix:mod_installsched+a4 (fef01530, fef01518)
fec25d20 genunix:mod_install+2f (fef01518, fec25d3c,)
fec25d2c TS:_init+d (0, d6d89c88, fec25d)
fec25d3c genunix:modinstall+d9 (d6d89c88)
fec25d50 genunix:mod_hold_installed_mod+2e (d6d77640, 1, fec25d)
fec25d7c genunix:modload+ac (fec026c4, fec26c4)
fec25d98 genunix:scheduler_load+3d (fec026c4, fec026dc)
fec25db4 genunix:getcid+50 (fec026c4, fec28514)
fec25dd4 unix:dispinit+df (fec25ddc, fe814ba9)
fec25dcc unix:startup_modules+d5 (fec25dec, fe8cac37)
fec25ddc unix:startup+19 (fe800000, 166130, 7)
fec25dec genunix:main+16 ()
```

その後、システムが自動的にリセットされます。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

回避方法 1: BIOS の構成設定の一部を変更します。この一時的な回避方法によって、Solaris 10 のインストールを完了できます。ただし、この方法では、DVD の読み取りパフォーマンスが低下することがあります。次の手順を実行します。

1. システムのブート中に、プロンプトで F2 キーを押してセットアップモードに入ります。

画面には、次のような接続タイプのオプションが表示されます。

Primary Master []
Primary Slave []
Secondary Master [CD-ROM]
Secondary Slave []

2. DVDドライブの接続タイプを選択するために、CD-ROM用の接続タイプを選択します。

注-システムに光学式ドライブが複数ある場合など、画面にCD-ROM用の接続タイプが複数表示されることがあります。そのような場合は、システムのケースを開き、DVDドライブの接続点を調べる必要があります。必ずDVDドライブに適した接続タイプを選択してください。

3. 適切なCD-ROM接続タイプを選択したら、Enterキーを押します。
次に表示される画面では、Type:[Auto]が自動的に選択されています。
4. スペースバーを2回押して選択をType:[CD-ROM]に変更します。
5. 矢印キーを使用して「Transfer Mode」を選択します。
6. Enterキーを押して、「Transfer Mode」のほかのオプションを一覧表示します。
7. 矢印キーを使用して「Standard」を選択し、Enterキーを押して確定します。
8. F10キーを押して、構成の変更を保存し、BIOSセットアップを終了します。
システムが再起動します。

回避方法2: DVDコンボドライブのファームウェアをv1.12に更新します。この回避方法を実行するには、Microsoft Windowsが稼働しているシステムにDVDコンボドライブを接続する必要があります。次の手順を実行します。

1. DVDコンボドライブをSun Java Workstation 2100zから取り外します。ドライブを正しく取り外す手順については、ワークステーションのユーザーガイドを参照してください。
2. Microsoft Windowsが稼働しているシステムにドライブを接続します。必要な場合は必ず、マスターおよびスレーブのジャンパ設定を変更してください。
3. AOpenのダウンロードセンター(<http://download.aopen.com.tw/default.aspx>)を参照します。
4. 次の情報を使用して、使用しているDVDドライブのファームウェアを検索します。
 - Product: Combo drives
 - Model: COM5232/AAH
 - Categories: Firmware
5. ファームウェアバージョンR1.12をダウンロードし、インストールします。

6. ドライブをワークステーションに再び取り付けます。必要に応じて、マスターおよびスレーブのジャンパ設定を元に戻します。

注-このサイトには、これよりも新しいバージョンのファームウェアが用意されている可能性もあります。Sun のテストでは、パニックの問題は v1.12 リリースで解決されることが確認されています。v1.12 より新しいバージョンのファームウェアでも同様にこの問題が解決されるかどうかは、Sun では確認できません。

x86: 一部の Sun Fire システムでは、シリアルコンソールが動作しない (6208412)

次の Sun Fire システムでは、デフォルトではシリアルコンソール (ttya) が動作しません。

- Sun Fire V20z
- Sun Fire V40z
- Sun Fire V60x
- Sun Fire V65x

シリアルコンソールを使用するには、システムの BIOS を手動で設定する必要があります。

回避方法: この回避方法を実行するには、システムに Sun キーボードとディスプレイモニターが必要です。次の手順を実行します。

1. マシンをブートします。
2. システムのブート中に、プロンプトで F2 キーを押して Phoenix BIOS にアクセスします。
3. 「Peripherals」で、通信ポートを「disabled」から「enabled」に変更します。
4. 設定を保存し、システムをブートします。
5. eeprom コマンドを使用して、入力デバイスと出力デバイスを ttya に変更します。

注-これらのシステムでは、システムのブート中に Stop キーと N キーを押しても、低レベルのファームウェアをデフォルトの設定にリセットすることはできません。

x86 fdisk ブートパーティションがすでに存在しているシステムでは、Solaris GUI インストールプログラムが失敗する可能性がある (6186606)

x86 ブートパーティションがすでに存在しているシステムでは、Solaris GUI インストールプログラムが失敗する場合があります。既存の x86 ブートパーティションが Solaris GUI インストールプログラムで作成された場合に、この失敗が発生します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Default layout will not work on this system.  
Error:  
Error: ERROR: Could not create explicit fdisk partition on c0t0d0,  
requested cylinders 14581 - 14597 in use by fdisk partition 1  
Error:  
Error: ERROR: System installation failed  
Pfinstall failed. Exit stat= java.lang.UNIXProcess@a89ce3 2  
artition on c0t0d0, requested cylinders 14581 - 14597 in use by fdisk  
partition 1 ERROR: System installation failed
```

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

回避方法 1: インストールプログラムで、インストールの種類を選択するよう求めるプロンプトが表示されたら、「3 Solaris Interactive Text (Desktop Session)」を選択します。

回避方法 2: Solaris GUI インストールプログラムを使用している場合は、次の手順を実行します。

1. インストールを開始します。
2. インストールの種類を選択するよう求めるプロンプトで、「カスタムインストール」を選択します。
カスタムインストールのパネルでは、インストールするロケール、ソフトウェア、およびディスクに関する情報を入力するよう求められます。
3. システムに応じて、これらの画面の質問に適切に回答します。
4. Fdisk の選択画面で、x86boot パーティションが含まれているディスクにチェックマークを付けます。
5. プルダウンメニューで x86boot パーティションを「UNUSED」に変更して、このパーティションを削除します。
6. x86boot パーティションを「UNUSED」から元の「x86boot」に変更して、このパーティションを追加します。
7. インストールを続行します。

インストールに関する注意事項とバグ情報

Solaris 10 OS のインストール時またはインストール後に発生するバグ情報について説明します。

x86: システムのメモリーが **768 MB** 未満のときに GUI インストールが失敗する

Solaris 10 10/09 OS を GUI ベースでインストールするには、システムに最低 768 MB のメモリーが必要です。物理メモリーが 768 MB 未満の場合、次のようなエラーメッセージが表示され、インストールはテキストインストールに切り替わります。

```
Not enough memory for graphical installation. Graphical installation
requires 768 MB of memory. Found 640 MB of memory.
Reverting to text-based installation.
```

回避方法: GUI ベースのインストールまたはアップグレードを行う場合、メモリーが 768 MB 以上であることを確認してください。

SPARC: DSR アップグレードによりシステム障害が発生することがある (**6883262**)

DVD または /net イメージを使用するディスク容量再割り当て (DSR) アップグレードは、システムの破損を招くことがあります。システムコンソールではアップグレードが成功したように見えますが、パッチやパッケージの削除後にパッケージが追加されていません。パッチまたはパッケージの削除後に、アップグレードにより直接ブートブロックが作成され、システムがリブートされます。ブートに必要なものも含めて、すべてのパッケージが削除され、追加されるパッケージは存在しないため、システムはブートできません。この障害は偶発的に発生します。

次のエラーメッセージが表示されます。

```
Can't open boot_archive
Fast Data Access MMU Miss
%TL:1 %TT:68 %TPC:f0009ca4 %TnPC:f0009ca8 %TSTATE:8840001600
%PSTATE:16 ( IE:1 PRIV:1 PEF:1 )
DTLB-MATCH:ffffffffffffe ( VA:-2000 CTX:0 )
```

回避方法: ディスクの割り当てを変更するため、DSR アップグレードの代わりに Solaris Live Upgrade を使用します。

/var のディスク容量が最低または推奨ぎりぎりである場合、インストールが失敗する (6873975)

メモリーが少ないシステムでは、/または/varのディスク容量が最低または推奨値ぎりぎりの場合に、インストールが失敗する可能性があります。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Creating boot_archive for /a
updating /a/platform/sun4u/boot_archive
15+0 records in
15+0 records out
cat: write error: No space left on device
```

回避方法: メモリーの少ないシステムでは、/varのサイズを最低 300 MB に増やします。

自動再配置の問題で、DSR アップグレードが失敗する (6858233)

Solaris 10 10/09 リリース以前の Solaris 10 リリースがインストールされているシステムでは、DSR アップグレードが失敗します。これは、自動再配置の問題に起因する障害です。たとえば、次のプロファイルでインストールを行った場合を考えます。

```
install_type initial_install
system_type standalone
cluster cxall
partitioning explicit
filesystems rootdisk.s0 auto / logging
filesystems rootdisk.s1 512 swap
filesystems rootdisk.s6 10240 /backup logging
filesystems rootdisk.s7 free
```

その後で、次のプロファイルを使用して、Solaris 10 10/09 リリースへの DSR アップグレードを行うと

```
install_type upgrade
root_device rootdisk.s0
backup_media local_filesystem /backup
layout_constraint rootdisk.s0 changeable
layout_constraint rootdisk.s7 available
```

DSR アップグレードが失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Auto-layout could not determine how to reallocate space on the file systems
with the constraints you specified. Try other constraints
```

回避方法: rootdisk.s1 スライスと rootdisk.s6 スライスのラベルを「変更可能」にします。システムに余分のディスク容量があり、バックアップ用に使用されていないスライスの十分な空きがある場合、<backup_media> キーワードを次の例のように変更します。

```
backup_media local_filesystem /dev/dsk/c0t1d0s7
```

この例では、ディスク c0t1d0s7 は利用可能な 2 番目のディスクで、バックアップに十分な空き容量があることを想定しています。または、システムにルートディスクが 1 つしかない場合は、リモートシステムでバックアップを実行します。構文は次のとおりです。

```
backup_media remote_filesystem hostname:/export/backup
```

DSR アップグレードが成功します。

OS インストール時に lgrp_* 関数でシステムパニックが発生する (6834743)

複数のソケットの Nehalem システムで、1 つの CPU にしか DIMM がインストールされていない場合、ブート時にシステムパニックが発生し、次のカーネルパニックエラーメッセージが表示されます。

```
Too many lgrps for platform (4)
```

回避方法: 次のいずれかのオプションを実行し、ACPI システムリソースアフィニティテーブル (SRAT) の使用を無効にします。

- GRUP メニューのカーネル行に -k を追加し、kldb(1) に次のコマンドを入力して、kldb(1) にブートします。

```
lgrp_plat_srat_enable/W 0
:c
```

- システムがブートしたら、eeprom(1M) を使用して、<lgrp_srat_enable> ブートプロパティを 0 に設定します。この設定により、リブート間にわたる SRAT の使用は無効になります。

ローカライズされたインストールに関する注意事項

ローカライズされた Solaris インストーラは、常に EUC または ISO8859 ロケールで実行されます。このため、インストールログは EUC または ISO8859 エンコーディングで作成されます。

回避方法: 端末を介してローカライズされた CLI (コマンド行インタフェース) インストールを実行している間は、端末のロケールを EUC または ISO8859 ロケールにする必要があります。

SPARC: Solaris 10 10/09 に対して WAN ブートインストールが失敗する

Solaris 10 10/09 リリースから WAN ブートイメージをインストールするときに、インストールが失敗します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
boot_file=/wanboot/wanboot.u-137111-04
root_file=/miniroot/miniroot.s10-1008
```

回避方法: インストールを続行するには、Solaris 10 10/09 のミニルートイメージにパッチを適用する必要があります。ネットワークインストールミニルートイメージにパッチを適用するには、次の手順を実行します。

注- 次の手順では、ネットワーク上に Solaris 最新リリースが実行されているシステムがあり、そのシステムにネットワークを経由してアクセスできると仮定しています。

1. Solaris 最新リリースが実行されているシステム上で、スーパーユーザーとしてログインするか、同等の役割になります。
2. 作成したインストールイメージの `Tools` ディレクトリに移動します。

```
# cd install-server-path/install-dir-path/Solaris_10/Tools
```

`install-server-path` たとえば `/net/installserver-1` のように、ネットワーク上のインストールサーバーシステムへのパスを指定します。

3. 新しいインストールイメージを作成し、そのイメージを Solaris 最新リリースが実行されているシステム上に置きます。

```
# ./setup_install_server remote_install_dir_path
```

`remote_install_dir_path` 新しいインストールイメージを作成する Solaris 最新リリース上のパスを指定します。

このコマンドにより、Solaris 最新リリース上に新しいインストールイメージが作成されます。このイメージにパッチを適用するには、このイメージを Solaris 最新リリースが実行されているシステム上に一時的に置きます。

4. Solaris 最新リリース上で、ネットワークインストールのブートアーカイブを展開します。


```
# /boot/solaris/bin/root_archive unpackmedia remote_install_dir_path \
destination_dir
```

remote_install_dir_path Solaris 最新リリース上のネットワークインストールイメージへのパスを指定します。

destination_dir 展開されたブートアーカイブを含むディレクトリのパスを指定します。

- Solaris 最新リリース上で、展開したブートアーカイブにパッチを適用します。

```
# patchadd -C destination_dir path-to-patch/patch-id
```

path-to-patch たとえば `/var/sadm/spool` のように、追加するパッチのパスを指定します。

patch-id 適用するパッチ ID を指定します。

`patchadd -M` コマンドを使用すると、複数のパッチを指定できません。詳細については、[patchadd\(1M\)](#) のマニュアルページを参照してください。



注意 - `patchadd -C` を使用する前には必ず、パッチの README を読むか、ご購入先におたずねください。

- Solaris 最新リリース上で、ブートアーカイブを作成します。

```
# /boot/solaris/bin/root_archive packmedia remote_install_dir_path \
destination_dir
```

- パッチを適用したアーカイブをインストールサーバー上のインストールイメージにコピーします。

```
# cd remote_install_dir_path
# find boot Solaris_10/Tools/Boot | cpio -pdm \
install-server-path/install_dir_path
```

x86: Solaris 10 10/08 より前のリリースで Solaris Flash アーカイブのインストールが失敗する (6735181)

Solaris 10 10/08 より前のリリースの Solaris Flash アーカイブをインストールしようとすると、アーカイブのインストールに失敗します。Solaris 10 10/08 以降のリリースでは、Solaris 10 10/08 以降のアーカイブであればインストールできます。次のエラーメッセージが表示されます。

```
bootadm: biodev command failed for disk:
/dev/dsk/<c0t2d0s0>.
bootadm: ls_bootdisk(): cannot determine BIOS disk ID "hd?" for disk:
/dev/dsk/<c0t2d0s0>
bootadm: get_grubroot(): cannot get (hd?, ?,?) for menu. menu not on bootdisk:
/dev/rdisk/<c0t2d0s0>
```

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- Solaris 10 10/08 以降のリリースの Solaris Flash アーカイブをインストールします。
- 以前のリリースの Solaris Flash アーカイブをインストールする必要がある場合は、そのリリースからブートし、アーカイブを展開します。

SPARC: WAN ブートプログラムを使用してインストールメディアから直接ブートすると失敗する (6734066)

次のコマンドを使用してシステムをブートしようとする、インストールに失敗します。

```
# boot -F wanboot -vV -o prompt
```

その結果、システムパニックが発生します。次のエラーメッセージが表示されません。

```
wanboot: panic - boot: can't alloc ramdisk memory
```

この問題は、Sun4u と Sun4v の両プラットフォームタイプで発生します。この問題は、Solaris 10 10/08 リリースで起こりました。

回避方法: wanboot プログラムを使用してシステムをブートしないでください。代わりに、インストールメディアから直接システムをブートしてください。

一部のアジア語ロケールがカスタム **JumpStart** に使用できない (6681454)

カスタム JumpStart によるインストール中に、th_TH.ISO8859-11、th_TH.TIS620、ko_KR.EUC、ko_KR.UTF-8、zh_TW.EUC、zh_CN.EUC、zh_CN.GBK、zh_CN.UTF-8 などの一部のアジア語ロケールを使用できません。system_locale キーワードを使用してロケールを sysidcfg ファイル内に設定しているときに、次のエラーメッセージが表示されます。

```
xx_xx.xxxxx is not a valid system locale
```

JumpStart によるインストールが停止され、対話式インストールが開始します。

回避方法: 長いロケール名ではなく、短めのロケール名 (th_TH、ko、ko.UTF-8、zh_TW、zh、zh.GBK、zh.UTF-8 など) を使用します。

PRODRM に **Solaris Trusted Extensions** の prodreg エントリの削除にかかわる問題がある (6616592)

Solaris Trusted Extensions を Solaris 10 11/06 または Solaris 10 8/07 リリースから、Solaris 10 10/08、Solaris 10 5/09、または現行の Solaris 10 10/09 リリースにアップグレードするとき、Solaris Trusted Extensions の prodreg エントリは削除されません。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: Solaris Trusted Extensions を最新のリリースにアップグレードしたあとで、次のように手動で prodreg エントリを削除してください。

```
# prodreg unregister -f -r -u "Solaris Trusted Extensions" -i 1
```

x86: **NVidia SATA** コントローラで **ATAPI** デバイスがサポートされない (6595488)

Solaris 10 10/09 リリースに含まれている NVidia SATA コントローラ MCP55 および CK804 チップセット用のドライバで ATAPI CD/DVD デバイスがサポートされません。

SATA CD/DVD デバイスを使用したシステムのインストールまたはアップグレード中に、Solaris インストーラが起動し、機能しているように見えますが、次のエラーメッセージを表示して失敗します。

```
ERROR: The disc you inserted is not a Solaris OS CD/DVD
```

または

There were problems loading the media from /cdrom

通常のシステムオペレーション中に、SATA CD/DVD ドライブが設定されず、使用できません。

回避方法: USB CD/DVD を使用します。

Sun アップグレードの詳細なパッチ解析のパネルはスクロールできない (6597686)

Solaris のアップグレード中、削除されるパッチを確認するために「Detailed Analysis」を選択するとパッチがパネルに表示されますが、このパネルはスクロールできません。削除されるパッチの完全なリストは表示できません。

回避方法: analyze_patches スクリプトを手動で実行します。

```
# cd <cdrom>/Solaris_10/Misc
# ./analyze_patches -R rootdir -N netdir -D databasedir
```

コマンドのオプションは次のとおりです。

- R rootdir rootdir は、インストールされたシステムのルートです。デフォルトのルートディレクトリは / です。
- N netdir netdir は、インストールする OS イメージのルートへのパスです。デフォルトのパスは /cdrom/cdrom0 です。netdir は、Solaris_10_606 ディレクトリを含んでいるディレクトリへのパスです。NFS マウントポイントから patch_analyzer を実行する場合は、このオプションを使用する必要があります。
- D databasedir OS イメージ内の /Misc ディレクトリ以外のディレクトリからスクリプトを呼び出す場合、プログラムはパッチ解析に使用するデータベースを見つけることができません。-D オプションを使用して、データベースへのパスを指定してください。このデータベースは OS イメージの Solaris_10_606/Misc/database ディレクトリにありますが、これが見つからないとスクリプトは正しく動作しません。

キーボードが接続されていない場合でもキー配列を選択する必要がある (6593071)

Solaris シリアルインストールの間、システムにはキーボードが接続されていませんが、キー配列の選択を求めるプロンプトが表示されます。

回避方法: キー配列を選択します。キーボードを接続したときに、必要に応じて kbd コマンドを `-s` オプションとともに使用すれば、キー配列を変更できます。

dev_info ノードに親のデータがないため PCIe にパニックが発生する (6517798)

driver.conf ファイルが parent 属性を使って変更されている場合、NULL ポインタ間接参照によって Solaris OS にパニックが発生することがあります。次のエラーメッセージが表示されます。

```
System panic: BAD TRAP: type=31 rp=2a101d31200 addr=8 mmu_fsr=0
occurred in module "pcie" due to a NULL pointer dereference
```

回避方法: PCI Express (PCIe) ベースの SPARC システムに Solaris 10 10/09 OS をインストールする場合は、まず driver.conf ファイルが変更されているかどうかを次の手順で確認します。

1. /kernel/drv ディレクトリに移動します。
2. driver.conf ファイルに parent 属性が設定されているかどうかを確認します。parent 属性が設定されている場合で、親の最後のノードに pci というワードが含まれているときは、その行をコメントにします。必ずプロパティ全体をコメントにしてください。次に例を示します。

```
# name="ACME,simple" parent="/pci@7c0/pci@0/pci@9"
# unit-address="3,1" debug-mode=12;
name="ACME,example" parent="pseudo" instance=1;
name="ACME,scsi" parent="/pci@7c0/pci@0/pci@9/scsi"
unit-address="3,1" debug-mode=12;
```

3. 次のディレクトリにある driver.conf ファイルに対して、手順 2 を繰り返します。
 - /usr/kernel/drv
 - /platform/`uname -i`/drv
 - /platform/`uname -m`/drv
4. Solaris 10 10/09 OS をインストールします。
5. パッチ 127747-01 をインストールします。

- 手順1および3に示されたディレクトリに移動します。手順2でコメントにした `driver.conf` ファイル内の行をすべてコメント解除します。

Solaris OS のインストール後、Linux パーティションが GRUB メニューに表示されない (6508647)

ディスクに Linux がインストールされている場合、別のパーティションに Solaris OS をインストールすると、Linux パーティションは GRUB メニューに表示されません。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: GRUB メニューの `menu.lst` ファイルを編集して、Linux を GRUB メニューに追加します。次の手順を実行します。

- Solaris OS をブートします。
- `/boot/grub/menu.lst` にある `menu.lst` ファイルを編集します。詳細は、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

x86: メモリーが 512M バイトのシステムでインストールがハングアップする (6423854)

512M バイトのシステム上でのインストールは、次の条件のときにメモリーが不足してハングアップすることがあります。

- OS のネットワークインストールイメージを使用してインストールする。
- Solaris インストールプログラムが次のウィンドウ環境である。
 - グラフィカルユーザーインターフェース (GUI)。
 - `-text` オプションまたは下記のメニューの「3. Solaris Interactive Text (Desktop session)」。

利用可能なメモリーが使い果たされると、GUI インストール処理は速度が低下し、最終的に失敗します。ウィンドウ環境への表示が正しく行われません。

回避方法:

この問題を回避するには、最初にインストールを開始するときに非ウィンドウ環境を選択してください。インストールメディアから起動しているときに、次のメニューが表示されます。

```
-----  
1. Solaris Interactive (default)  
2. Custom JumpStart  
3. Solaris Interactive Text (Desktop session)  
4. Solaris Interactive Text (Console session)  
5. Apply driver updates  
6. Single user shell  
Enter the number of your choice.  
-----
```

このとき、「4. Solaris Interactive Text (Console session)」を選択します。この非ウィンドウ環境ではテキストのみのインストールが開始され、大量のメモリーを消費するプロセスは発生しません。

x86: インストール時の無効な /sbin/dhccpinfo エラー (6332044)

x86 ベースのシステムに Solaris 10 10/09 OS をインストールすると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
/sbin/dhccpinfo: primary interface requested but no primary interface is set
```

このエラーはインストールには影響がなく、インストールは成功します。

回避方法: このエラーメッセージは無視してください。

x86: CD メディアからインストールしてリブートを選択したあとに、ハングアップしているように見える (6270371)

CD メディアを使用して Solaris インストールプログラムを実行しているときに、問題が発生することがあります。Solaris 10 10/09 SOFTWARE CD - 4 から Solaris ソフトウェアをインストールしたあとに、次のプロンプトが表示されます。

```
Press Reboot now to continue.
```

「Reboot」を押しても、システムが応答しない場合があります。インストールは成功します。ただし、このエラーにより、インストールプログラムが正常に終了しません。つまり、標準のインストール後クリーンアップとシステムリブートを実行することができません。

次の例のようなエラーメッセージが、/tmp/disk0_install.log ファイルに記録されま
す。

```
Exception in thread "Thread-70" java.lang.IndexOutOfBoundsException:  
Index: 6, Size: 5  
    at java.util.ArrayList.add(ArrayList.java:369)  
    at  
com.sun.wizards.core.WizardTreeManager.  
actualExitButtonPressed(WizardTreeManager.java:1499)  
    at  
com.sun.wizards.core.WizardTreeManager.  
exitButtonPressed(WizardTreeManager.java:1486)  
    at  
com.sun.wizards.core.AutonextController.  
run(AutonextController.java:736)  
    at  
java.lang.Thread.run(Thread.java:595)
```

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- 回避方法 1: 次の手順を実行します。
 1. システムをシャットダウンしてから、電源を再投入します。
 2. システムが起動したあとに CD を要求されたら、適切な CD を挿入します。CD が挿入されても、追加のソフトウェアはインストールされません。すぐに、通常のレポートが実行されます。
- 回避方法 2: 次の手順を実行します。
 1. 端末ウィンドウを開きます。
 2. スーパーユーザーとしてログインします。
 3. .instsuccess ファイルへのアクセスを作成または変更します。

```
# touch /tmp/.instsuccess
```

4. Java プロセスを停止します。

```
# pkill -9 java
```

CD メディアが要求されないまま、システムがリブートします。

x86: カスタム JumpStart インストールのあと、システムのブートが失敗する (6205478)

カスタム JumpStart インストール方式を使用して x86 ベースのシステムへのインストールを行う場合は、スライス 2 をオーバーラップスライスとして明示的に構成す

ると、エラーが発生します。インストールの完了後に、システムが正常にリブートされません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Cannot find Solaris partition
```

オーバーラップスライス 2 (c0t0d0s2 など) は、シリンダ 0 ではなくシリンダ 1 から始まるように設定されるので、この失敗が発生します。

回避方法: カスタム JumpStart プロファイルで、スライス 2 をオーバーラップスライスとして構成する filesys キーワードエントリを削除します。たとえば、次のようなキーワードエントリを削除します。

```
filesys c0t0d0s2 all overlap
```

エントリを削除したあと、カスタム JumpStart インストールを実行します。

アップグレードに関する注意事項とバグ情報

注 - Solaris 10 10/09 リリース以降のアップグレードに関する最新のサポート情報については、[20 ページの「Solaris リリースのアップグレードサポートの変更」](#)を参照してください。

ここでは、アップグレードに関するバグ情報について説明します。これらのバグには、Solaris 10 OS へのアップグレード中に発生するものもあれば、アップグレードの完了後に発生するものもあります。

Solaris Trusted Extensions システムでのアップグレードの完了後、オーディオデバイスが利用不可になる (6866818)

Solaris 10 5/08 以前のリリースから Solaris 10 10/08 以降のリリースへのアップグレードの完了後、Solaris Trusted Extensions 用に構成されたシステムでオーディオデバイスがユーザーラベルでの割り当て用に利用できなくなりました。このバグが発生するのは、`/etc/logindevperm` 変更がアップグレード中に失われたためです。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: アップグレードの完了後、`/etc/logindevperm.old` ファイルと `/etc/logindevperm` ファイルを手動でマージして、Solaris Trusted Extensions 構成変更を `logindevperm` に復元します。

アップグレード中に **SUNWsmbar** が /etc/services および /etc/inet/services ファイルを削除する (6756546)

Solaris 10 10/09 OS へのシステムのアップグレード中に、SUNWsmbar がインストールされると、/etc/services ファイルおよび /etc/inet/services ファイルが削除されます。リポートすると、システムコンソールに次のエラーメッセージが表示されます。

```
line1-v215 console login: Oct  6 15:40:57 inetd[457]: Property 'name' of instance
svc:/network/stdiscover:default is missing, inconsistent or invalid
Oct  6 15:40:57 inetd[457]: Property 'proto' of instance
svc:/network/stdiscover:default is missing, inconsistent or invalid
Oct  6 15:40:57 inetd[457]: Invalid configuration for instance
svc:/network/stdiscover:default, placing in maintenance
Oct  6 15:40:57 inetd[457]: Property 'name' of instance
svc:/network/stlisten:default is missing, inconsistent or invalid
Oct  6 15:40:57 inetd[457]: Property 'proto' of instance
svc:/network/stlisten:default is missing, inconsistent or invalid
Oct  6 15:40:57 inetd[457]: Invalid configuration for instance
svc:/network/stlisten:default, placing in maintenance
```

回避方法: OS のアップグレード中に /etc/services と /etc/inet/services が削除されるのを防ぐには、次の手順を実行します。

1. 実行中の Samba サービスをすべて停止します。

```
#svcadm disable samba:default swat:default wins:default winbind:default
```

2. OS をアップグレードする前に SUNWsmbar パッケージをアンインストールします。

```
#pkgrm SUNWsmbar
```

3. OS を Solaris 10 10/09 リリースにアップグレードします。
4. SUNWsmbar パッケージを再インストールします。

```
#pkgadd SUNWsmbar
```

アップグレード後に shutdown コマンドによってシステムがハングアップすることがある (6751843)

システムを Solaris 10 10/09 リリースにアップグレードしたあとで、shutdown コマンドによってシステムがハングアップすることがある。ハングアップは、svc.startd デーモンがシステムサービスを停止している間に発生します。

/var/log/webconsole/console/console_debug_log にある Sun Java Web Console のデバッグログファイルに、Web コンソールサービスが反復、開始、および停止しているかどうかが表示されます。

回避方法: 次のコマンドを入力します。

```
/usr/share/webconsole/private/bin/wcremove -i console
svcadm clear system/webconsole:console
smcwebserver start
```

注 -wcremove コマンドによって、その特定のコンソール用に作成されたサーバーのドメインインスタンスが削除されます。コンソールが再起動されると、新しいドメインインスタンスが作成されます。

lucreate および lumake コマンドが実行状態にない非大域ゾーンのコピーの作成に失敗する (6659451)

実行状態にない非大域ゾーンで lucreate および lumake コマンドを使用すると、それらのコマンドが正常に実行されないことがあります。元の非大域ゾーンの内容とコピーの内容が異なっていることがあります。ユーザーが zlogin コマンドを使用してゾーンのコンソールにログインできないことがあります。zlogin コマンドの使用時に、次のエラーメッセージが表示されます。

```
zlogin: makeutx failed
```

lucreate および lumake コマンドの診断出力にはエラーは一切表示されません。

回避方法: lucreate および lumake コマンドを使用する前に、すべての非大域ゾーンが実行状態にあることを確認してください。

SPARC: Solaris Live Upgrade による Solaris 8 および Solaris 9 リリースからのアップグレードが失敗する (6638175)

Solaris Live Upgrade を使用して以前の Solaris 8 および Solaris 9 リリースから Solaris 10 10/09 リリースへのアップグレードを実行すると、失敗します。インストールイメージの圧縮ファイルは、7za ユーティリティを使って解凍するようになりました。Solaris 8 および 9 リリースには、SUNWp7zip パッケージが含まれていません。その結果、Solaris Live Upgrade が失敗します。

回避方法: Solaris Live Upgrade を使用して以前の Solaris 8 および Solaris 9 リリースから Solaris 10 10/09 リリースにシステムをアップグレードするには、[21 ページの「Solaris Live Upgrade に関する制約事項」](#)に記載された手順を実行します。

ゾーンを持つ DSR のアップグレードに関する注意事項 (6616788)

ゾーンを /opt ディレクトリにインストールした場合は、ゾーンを持つディスク容量再割り当て (DSR) のアップグレードが失敗します。DSR アーカイブの復元中にアップグレードが失敗することがあります。場合によっては、アップグレードが成功することもあります。システムをリブートすることはできません。

回避方法: アップグレードの前に、ルートファイルシステムの使用率が 100% でないことを確認します。アップグレードの前にファイルをいくつか削除して、ルートスライスの使用率が 90% 未満になるようにします。

Solaris Trusted Extensions のアップグレードに関する注意事項 (6616585)

Solaris Trusted Extensions を Solaris 10 11/06 または Solaris 10 8/07 から、Solaris 10 10/08、Solaris 10 5/09、または最新の Solaris 10 10/09 リリースにアップグレードすると、ローカライズされた不要な Solaris Trusted Extensions パッケージがシステムにインストールされます。このバグが発生するのは、Solaris 10 11/06 または Solaris 10 8/07 リリースの Solaris Trusted Extensions インストーラがローカライズされたパッケージをデフォルトでインストールするためです。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: Solaris Trusted Extensions を最新のリリースにアップグレードする前に、ローカライズされた次の Solaris Trusted Extensions パッケージを削除してください。

SUNWjdtts	SUNWkdts
SUNWjmgts	SUNWkmgts
SUNWjtsman	SUNWktsu
SUNWjtsu	SUNWodts
SUNWtgnome-l10n-doc-ja	SUNWtgnome-l10n-ui-ko
SUNWtgnome-l10n-ui-it	SUNWtgnome-l10n-ui-zhHK
SUNWtgnome-l10n-ui-sv	SUNWtgnome-l10n-ui-es
SUNWtgnome-l10n-doc-ko	SUNWtgnome-l10n-ui-ptBR
SUNWtgnome-l10n-ui-ja	SUNWtgnome-l10n-ui-zhTW
SUNWtgnome-l10n-ui-zhCN	SUNWtgnome-l10n-ui-fr
SUNWtgnome-l10n-ui-de	SUNWtgnome-l10n-ui-ru

アップグレード後にシステムが ypbind と通信できなくなる (6488549)

このバグは、Solaris 10 Hardware 2 リリースから最新の Solaris 10 10/09 リリースにアップグレードする際に発生します。

Solaris 10 Hardware 2 リリースでは、NIS、NIS+、FILES、LDAP などの任意のネームサービスに対して name_service.xml ファイルは次のようになっています。

```
# ls -l name_service.xml
lrwxrwxrwx  1 root    root      10 Apr 10 16:26 name_service.xml -> ns_files.xml
```

ネームサービスが NIS の場合、name_service.xml ファイルは ns_files.xml にリンクしています。ただし、ns_files.xml の内容は ns_nis.xml の内容と同じです。

```
# cat /etc/release
                Solaris 10 3/05 HW2 s10s_hw2wos_05 SPARC
                Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. All Rights Reserved.
                Use is subject to license terms.
                Assembled 26 September 2005

# cd /var/svc/profile
# ls -l name_service.xml ns_files.xml ns_nis.xml
lrwxrwxrwx  1 root    other     12 May 21 04:06 name_service.xml -> ns_files.xml
-r--r--r--  1 root    sys       779 May 21 04:25 ns_files.xml
-r--r--r--  1 root    sys       779 Jan 21 2005 ns_nis.xml
#
# diff ns_files.xml ns_nis.xml
# diff name_service.xml ns_nis.xml
```

上記の出力で、`ns_nis.xml` ファイルと `ns_files.xml` ファイルは同じになっています。つまり、`name_service.xml` ファイルのシンボリックリンクが、間違った名前サービスファイルを指しています。`name_service.xml` ファイルは `ns_files.xml` にリンクしています。代わりに、`name_service.xml` ファイルは `ns_nis.xml` にリンクするべきです。

注-CR 6411084 に対する修正は SUNWcsr インストールまたはインストール後スクリプトで行いますが、修正によって正しいリンクが作成されるのは、`name_service.xml` がリンクファイルでない場合のみです。Solaris 10 Hardware 2 リリースのように、`name_service.xml` がすでにシンボリックリンクファイルになっている場合、CR 6411084 に対する修正は機能しません。

Solaris 10 Hardware 2 から最新の Solaris 10 10/09 リリースにアップグレードしたあとで、次のメッセージがコンソールに表示されるか、メッセージファイルに記録されます。

```
Oct 23 12:18:45 vt2000a automount[301]: [ID 366266 daemon.error]
can't read nis map auto_master: can't communicate with ypbind - retrying
```

また、`/network/nis/client:default` サービスがオフラインになります。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- 回避方法 1: アップグレードの前に、`/var/svc/profile/name_service.xml` ファイルを削除します。
- 回避方法 2: アップグレード後に、名前サービスに応じた正しい `ns_<xxx>.xml` ファイルに `/var/svc/profile/name_service.xml` をリンクします。

インストールされているがブートされていないゾーンを含むシステムでアップグレードが失敗する

インストールされているのに、ブートされていないまたは準備ができていない非大域ゾーンによって、システムは正しくアップグレードされなくなります。エラーメッセージは表示されません。

回避方法:

そういったゾーンが見つかった場合は、アップグレードを開始する前に、ゾーンの準備を整えてから停止する必要があります。次に例を示します。

```
global# zoneadm -z myzone ready ; zoneadm -z myzone halt
```

非大域ゾーンを持つ Solaris 10 システムを Solaris 10 10/09 リリースにアップグレードすると、ローカルファイルシステムサービスが失敗する可能性がある (6428258)

非大域ゾーンを持つ Solaris 10 3/05 システムまたは Solaris 10 1/06 システムを Solaris 10 10/09 リリースにアップグレードすると、ローカルファイルシステムをマウントする SMF サービスが非大域ゾーンで失敗する場合があります。その結果、非大域ゾーン内のその他のサービスが起動に失敗することがあります。

非大域ゾーンを持つ Solaris 10 システムを Solaris 10 10/09 リリースにアップグレードしたあとで、サービスが保守状態になる場合があります。次に例を示します。

```
# zlogin myzone svcs -x
svc:/system/filesystem/local:default (local file system mounts)
  State: maintenance since Wed May 24 13:18:06 2006
  Reason: Start method exited with $SMF_EXIT_ERR_FATAL.
  See: http://sun.com/msg/SMF-8000-KS
  See: /var/svc/log/system-filesystem-local:default.log
  Impact: 18 dependent services are not running. (Use -v for list.)
```

回避方法:

大域ゾーンから非大域ゾーンをリブートします。次に例を示します。

```
global# zoneadm -z myzone reboot
```

Solaris 9 9/04 OS からアップグレードしたあとのデバイス ID の不一致

この Solaris 10 リリースの Solaris ボリュームマネージャーでは、デバイス ID が新しい形式で表示されます。Solaris 9 9/04 OS では、ディスクセットでのデバイス ID サポートが導入されましたが、この新しい形式は認識されません。Solaris 9 9/04 リリースから Solaris 10 OS にアップグレードするとき、既存のディスクセットアップに関連付けられたデバイス ID は、Solaris ボリュームマネージャーの構成で更新されません。Solaris 9 9/04 OS に戻す必要がある場合、アップグレード後にディスクセットに加えた構成の変更は、Solaris 9 9/04 OS で使用できないことがあります。詳細は、『Solaris ボリュームマネージャの管理』の第 25 章「Solaris ボリュームマネージャのトラブルシューティング(作業)」を参照してください。

Solaris Live Upgrade の luupgrade コマンドを実行したときに進捗バーが表示されない (6239850)

Solaris Live Upgrade ソフトウェアを次の方法で使用する場合は、アップグレード進捗バーが表示されません。

- Solaris 10 10/09 CD メディアを使用して OS をアップグレードする場合。
- luupgrade コマンドを使用してブート環境をアップグレードするときに、次のオプションを指定する場合。
 - -i (CD メディアからインストールするオプション)
 - -O "-nodisplay -noconsole" (2 枚目の CD のインストーラをテキストモードかつユーザーとの対話なしで実行するオプション)
- Solaris 10 10/09 ソフトウェアを次のリリースからアップグレードする場合。
 - Solaris 9 リリース
 - Solaris 10 リリース

たとえば、次のコマンドを実行した場合、次の出力が表示されたあとに進捗バーが表示されるべきです。

```
Running installer on BE s10u1.
```

しかし、進捗バーは表示されません。

```
# luupgrade -i -n s10u1 -s /net/installsrv/export/s10u1  
-O "-nodisplay -noconsole"
```

```
Validating the contents of the media /net/installsrv/export/s10u1.  
The media is a standard Solaris media.  
The media contains a standard Solaris installer.  
The media contains Solaris 3 version 10.  
Mounting BE s10u1.  
Running installer on BE s10u1.
```

エラーメッセージは表示されません。

回避方法: prstat コマンドを使用してください。このコマンドでは、インストールが進行してパッケージが追加されるに従って、その進捗を監視することができます。

Solaris Live Upgrade を使用して以前の Solaris リリースからアップグレードするとき、古いアンインストーラが削除されない (6198380)

Solaris Live Upgrade を使用して Solaris 8 または Solaris 9 リリースから Solaris 10 OS にアップグレードするとき、古いアンインストールプログラムは削除されません。このような以前の OS のアンインストールプログラムは、システムの /var/sadm/prod ディレクトリに残ります。

次に示す古いアンインストーラは削除されません。

```
uninstall_Alternate_Pathing_2_3_1.class
uninstall_CDRW_1_1.class o uninstall_CDRW_1_0.class
uninstall_Bonus_Localization_-_Catalan_CDE_Desktop.class
uninstall_Bonus_Localization_-_Polish_CDE_Desktop.class
uninstall_Bonus_Localizations_-_Russian_CDE_Desktop.class
uninstall_Capacity_on_Demand_1_0.class
uninstall_Java3D_1_3_1.class
uninstall_Java3D_1_3.class
uninstall_Java3D_1_2_1_04.class
uninstall_Java3D_1_2_1_03.class
uninstall_Lights_Out_Management_2_0.class
uninstall_Man_Page_Supplement.class
uninstall_OpenGL_1_3.class
uninstall_OpenGL_1_2_3.class
uninstall_Netra_ct_Platform_1_0.class
uninstall_Netra_t11xx_Alarms_2_0.class
uninstall_Netscape_6_2_3.class
uninstall_Netscape_6_2_1_Beta.class
uninstall_PC_launcher_1_0_2.class
uninstall_PC_launcher_1_0_1_PCfileviewer_1_0_1.class
uninstall_RSC_2_2_2.class
uninstall_RSC_2_2_1.class
uninstall_RSC_2_2.class
uninstall_ShowMeTV_1_3.class
uninstall_Solaris_9_French_Localization.class
uninstall_Solaris_9_German_Localization.class
uninstall_Solaris_9_Hong_Kong_Traditional_Chinese_Localization.class
uninstall_Solaris_9_Italian_Localization.class
uninstall_Solaris_9_Japanese_Localization.class
uninstall_Solaris_9_Korean_Localization.class
uninstall_Solaris_9_Simplified_Chinese_Localization.class
uninstall_Solaris_9_Spanish_Localization.class
uninstall_Solaris_9_Swedish_Localization.class
uninstall_Solaris_9_Traditional_Chinese_Localization.class
uninstall_Solaris_On_Sun_Hardware_Documentation.class
```

```
uninstall_Sun_Hardware_AnswerBook.class
uninstall_SunATM_5_0.class
uninstall_SunATM_5_1.class
uninstall_SunFDDI_PCI_3_0.class
uninstall_SunFDDI_SBus_7_0.class
uninstall_Sun_Fire_880_FC-AL_Backplane_Firmware_1_0.class
uninstall_Sun_Fire_B10n_Load_Balancing_Blade_1_1.class
uninstall_SunForum_3_1.class
uninstall_SunForum_3_2.class
uninstall_SunHSI_PCI_3_0.class
uninstall_SunHSI_SBus_3_0.class
uninstall_SunScreen_3_2.class
uninstall_SunVTS_5_1_PS6.class
uninstall_SunVTS_5_1_PS5.class
uninstall_SunVTS_5_1_PS4.class
uninstall_SunVTS_5_1_PS3.class
uninstall_SunVTS_5_1_PS2.class
uninstall_SunVTS_5_1_PS1.class
uninstall_SunVTS_5_0.class
uninstall_System_Management_Services_1_4.class
uninstall_System_Management_Services_1_3.class
uninstall_System_Management_Services_1_2.class
uninstall_System_Service_Processor_3_5.class
uninstall_WBEM_DR_1_0.class
uninstall_Web_Start_Wizards_SDK_3_0_2.class
uninstall_Web_Start_Wizards_SDK_3_0_1.class
uninstall_Web_Start_Wizards_SDK.class
uninstall_XML_Libraries_2_4_12.class
```

回避方法: システムをアップグレードしたあと、/var/sadm/prod ディレクトリにある古いアンインストーラを手動で削除してください。

インストールに関するその他の注意事項

ここでは、Solaris OS のインストールに関連する注意事項について説明します。

StarOffice と StarSuite は同じシステムに共存できない

Solaris 10 OS をインストールすると、選択した言語に応じて StarOffice または StarSuite[™] ソフトウェアのいずれかが自動的にインストールされます。言語の一覧とその言語でサポートされているソフトウェアを次に示します。

選択した言語	サポートされるソフトウェア
中国語、日本語、韓国語	StarSuite
その他の言語	StarOffice

StarOffice と StarSuite は同じシステムに共存できません。誤ってインストールしたソフトウェアを置き換えるには、次の手順を実行します。

1. Solaris 10 SOFTWARE - 4 CD または Solaris 10 Operating System DVD をドライブに挿入します。
2. スーパーユーザーになります。
3. /cdrom/cdrom0/Solaris_10/Product などの Product ディレクトリに移動します。
4. ソフトウェアを置き換えます。
 - StarOffice を StarSuite で置き換えるには、次のコマンドを使用します。

```
# pkgrm 'pkginfo | grep staroffice- | awk '{print $2}'
# pkgadd -d .SUNWstarsuite-*
```

- StarSuite を StarOffice で置き換えるには、次のコマンドを使用します。

```
# pkgrm 'pkginfo | grep starsuite- | awk '{print $2}'
# pkgadd -d .SUNWstaroffice-*
```

Solaris CD を使用する場合は、言語 1 または 2 の CD にローカリゼーションパッケージが含まれています。パッケージ名は次のとおりです。

- SUNWstaroffice-lang* (lang には es, fr, de, sv, または it が入ります)
- SUNWstarsuite-lang* (lang には ja, ko, zh-CN, または zh-TW が入ります)

選択したロケール以外のロケールもインストールされることがある

Solaris 10 リリースでは、インストールするロケールを選択した場合、関連するほかのロケールもインストールされることがあります。これは、すべての完全ロケール(メッセージが翻訳されている)とアジアおよび日本語の部分ロケールが、言語単位でパッケージ化し直されたためです。ほかの部分ロケールは従来通りに地理上の分類(中央ヨーロッパなど)に基づいて、パッケージ化されてインストールされます。

実行時の注意事項とバグ情報

この章では、問題として認識されている実行時の問題について説明します。

注 - すでに修正され Solaris 10 10/09 ソフトウェアには該当しなくなったバグや問題については、付録 A 「Solaris 10 オペレーティングシステムで統合された解決済みバグの表」を参照してください。

共通デスクトップ環境

Solaris 10 OS の共通デスクトップ環境 (CDE) に関するバグ情報について説明します。

印刷後に **Mozilla** がクラッシュする (6824695)

Mozilla を使用してページを印刷すると、ページが印刷されたあとで Mozilla がクラッシュします。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: Mozilla の代わりに、Firefox または Thunderbird を使用してください。

解像度を変更すると、トラステッドストライプが画面に表示されなくなる (6460624)

/usr/X11/bin/xrandr -s コマンドを入力して画面解像度を小さくすると、トラステッドストライプが表示されなくなります。これは Trusted CDE デスクトップに影響しますが、Trusted Java DS デスクトップには影響しません。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: 解像度を変更したあと、ワークスペースマネージャーを再起動します。CDE ワークスペースメニューから「ウィンドウ」->「ワークスペース・マネージャーの再起動」の順に選択し、「OK」をクリックします。

x86: kdmconfig コマンドで Xorg X サーバー用のシステム識別情報の構成ファイルを作成できない (6217442)

JumpStart インストール方式を使用する場合は、プロセスによってシステム識別情報の構成 (sysidcfg) ファイルが使用されることがあります。このファイルを使用して、システム用の固有の Xsun 構成ファイルが生成されます。sysidcfg ファイルの Xsun 構成部分は、コマンド `kdmconfig -dfilename` で作成します。ただし、デフォルトの Xorg サーバーを使用するシステムでは、このコマンドで Xorg 構成情報を含むファイルを作成できません。このため、準備手順を追加しないと、これらのシステムで JumpStart 方式を使用できません。

回避方法: Xorg サーバーを使用するシステムで JumpStart インストール方式を使用する前に、次の手順を実行します。

1. システムで使用する固有の `xorg.conf` ファイルを準備します。このファイルを JumpStart サーバーの JumpStart ディレクトリに格納します。
次のどちらかのコマンドを使用して `xorg.conf` ファイルを作成します。
 - `/usr/X11/bin/Xorg -configure`
 - `/usr/X11/bin/xorgconfig`
 - `/usr/X11/bin/xorgcfg`
2. `xorg.conf` ファイルをシステム内のインストール先の `/etc/X11` ディレクトリにコピーする `finish` スクリプトを作成します。たとえば、次の行をこのスクリプトに追加します。

```
cp ${SI_CONFIG_DIR}/xorg.conf /etc/X11/Xorg.conf
```
3. カスタム JumpStart の `rules` ファイルで、インストールするタイプのシステム用の `rules` エントリに `finish` スクリプトを追加します。
4. カスタム JumpStart インストールを実行します。

カスタム JumpStart インストールを実行する手順は、『[Solaris 10 10/09 インストールガイド \(カスタム JumpStart/ 上級編\)](#)』を参照してください。第 4 章には JumpStart の `rules` ファイルに関する情報が記載され、第 5 章には `finish` スクリプトに関する情報が記載されています。

ファイルシステム

Solaris 10 リリースのファイルシステムに関するバグ情報について説明します。

ブランドゾーンに対して `zoneadm attach` が失敗し、マウント操作が無効になる (6800618)

ネイティブ (Solaris 10) ゾーンでの接続操作は成功しますが、ブランドゾーンでの接続操作は失敗します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
zone mount operation is invalid for branded zones.  
Cannot generate the information needed to attach this zone.
```

回避方法: ネイティブでないブランドゾーンに対しては、`attach -F` コマンドを使用します。この手順の詳細は、『Solaris のシステム管理 (Solaris コンテナ: 資源管理と Solaris ゾーン)』を参照してください。

x86: `reboot` コマンドを使用して 32 ビットカーネルをブートできない (6741682)

次のコマンドを使用してシステムを 32 ビットモードでブートすると、正しく書式設定された GRUB メニューエントリを `bootadm` コマンドで作成できません。

- `reboot kernel/unix`
- `reboot -- -r`

その結果、システムは 64 ビットモードでブートします。不正な `menu.lst` ファイルが次のように表示されることがあります。

```
findroot rootfs0  
kernel /platform/i86pc/kernel/unix  
module /platform/i86pc/boot_archive
```

前の例では、カーネル行にマルチブート情報が含まれていないため、正しくありません。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: `/boot/grub/menu.lst` ファイルを手動で編集して、次の情報を追加します。

```
title Solaris 10 10/08  
findroot rootfs0  
kernel /platform/i86pc/multiboot kernel/unix  
module /platform/i86pc/boot_archive
```

これらの変更を行なったあとで、システムを 32 ビットモードでブートします。

注 - menu.lst ファイルに加えた変更は、システムをリブートしても持続します。

別の方法として、次の例に示すように、ブート時に GRUB メニューを編集して、kernel/unix ブート引数を追加することもできます。

```
grub edit> kernel /platform/i86pc/multiboot kernel/unix
```

注 - ブート時に GRUB メニューを編集して加えた変更は、システムをリブートすると無効になります。

詳細については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』の「x86 システムのブート動作を変更する」を参照してください。

zpool attach コマンドによって bootblock 情報がコピーされない (6668666)

zpool attach コマンドを使用してディスクを ZFS ルートプールに追加すると、新たに追加したディスクに bootblock 情報がコピーされません。この問題は、初期インストールで作成される、ミラー化された ZFS ルートプールには影響しません。システムは、ミラー化ルートプール内の代替ディスクからブートしません。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- SPARC システムでは、代替ディスクデバイスを特定し、ブート情報をインストールします。次に例を示します。

```
# installboot -F zfs /usr/platform/'uname -i'/lib/fs/zfs/bootblk /dev/rdisk/c0t1d0s0
```

- x86 システムでは、代替ディスクデバイスを特定し、ブート情報をインストールします。次に例を示します。

```
# installgrub /boot/grub/stage1 /boot/grub/stage2 /dev/rdisk/c0t1d0s0
```

x86: ブート中に ata がタイムアウトになる (6586621)

Intel マルチプロセッサシステムでのシステムのブート中に ata ドライバがタイムアウトになることがあります。これらのタイムアウトは、HBA コントローラが従来の ata ドライバにバインドされたドライブ上に、ルートデバイスが置かれている場合に

発生します。これらのタイムアウトにより、システムのブート中に一時ハングアップ、深刻なハングアップ、またはパニック状態が発生して、次のようなコンソールメッセージが表示されます。

```
scsi: [ID 107833 kern.warning] WARNING: /pci@0,0/pci-ide@1f,2/ide@0 (ata0):
      timeout: reset bus, target=0 lun=0
scsi: [ID 107833 kern.warning] WARNING: /pci@0,0/pci-ide@1f,2/ide@0 (ata0):
      timeout: early timeout, target=0 lun=0
gda: [ID 107833 kern.warning] WARNING: /pci@0,0/pci-ide@1f,2/ide@0/cmdk@0,0 (Disk0):
      Error for command 'read sector'   Error Level: Informational
gda: [ID 107833 kern.notice]           Sense Key: aborted command
gda: [ID 107833 kern.notice]           Vendor 'Gen-ATA ' error code: 0x3
gda: [ID 107833 kern.warning] WARNING: /pci@0,0/pci-ide@1f,2/ide@0/cmdk@0,0 (Disk0):
      Error for command 'read sector'   Error Level: Informational
gda: [ID 107833 kern.notice]           Sense Key: aborted command
gda: [ID 107833 kern.notice]           Vendor 'Gen-ATA ' error code: 0x3
scsi: [ID 107833 kern.warning] WARNING: /pci@0,0/pci-ide@1f,2/ide@0 (ata0):
      timeout: abort request, target=0 lun=0
scsi: [ID 107833 kern.warning] WARNING: /pci@0,0/pci-ide@1f,2/ide@0 (ata0):
      timeout: abort device, target=0 lun=0
scsi: [ID 107833 kern.warning] WARNING: /pci@0,0/pci-ide@1f,2/ide@0 (ata0):
      timeout: reset target, target=0 lun=0
scsi: [ID 107833 kern.warning] WARNING: /pci@0,0/pci-ide@1f,2/ide@0 (ata0):
      timeout: reset bus, target=0 lun=0
scsi: [ID 107833 kern.warning] WARNING: /pci@0,0/pci-ide@1f,2/ide@0 (ata0):
      timeout: early timeout, target=0 lun=0
gda: [ID 107833 kern.warning] WARNING: /pci@0,0/pci-ide@1f,2/ide@0/cmdk@0,0 (Disk0):
      Error for command 'read sector'   Error Level: Informational
gda: [ID 107833 kern.notice]           Sense Key: aborted command
gda: [ID 107833 kern.notice]           Vendor 'Gen-ATA ' error code: 0x3
gda: [ID 107833 kern.warning] WARNING: /pci@0,0/pci-ide@1f,2/ide@0/cmdk@0,0 (Disk0):
```

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

注-パフォーマンスの低下を防ぐためには、回避方法5が使用できるようになるまで、回避方法3または回避方法4を一時的にのみ使用するようにしてください。

- 回避方法 1: BIOS の AHCI を有効にします (システムで使用できる場合)。この設定を有効にするには、Solaris OS を再インストールする必要があります。
- 回避方法 2: ata ドライバを使用しないコントローラ上のディスクに Solaris をインストールします。
- 回避方法 3: シングルプロセッサが有効になるように、BIOS 設定の MP を無効にします。
- 回避方法 4: シングルプロセッサが有効になるように、Solaris の MP を無効にします。GRUB (Grand Unified Bootloader) メニューから次の手順を実行します。
 1. e と入力して、選択した Solaris エントリを編集します。

2. カーネルで始まる行に移動します。
3. e と入力して、GRUB 編集モードに切り替えます。
4. -kd をその行に追加します。
5. Enter キーを押して変更を受け入れます。
6. b と入力して、選択した Solaris エントリをブートします。
7. kbmd プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
use_mp/W 0 :c
```

8. システムのブートを実行する場合は、手順 10 に進みます。そうでない場合は、Solaris 10 10/09 ソフトウェアをインストールします。
9. インストールの終わりに、システムをリブートします。手順 1-7 を繰り返します。
10. この変更を永続的なものにして、以降のブートで上記の手順を繰り返す必要がないようにするには、次の手順を実行します。
システムのブートが完了したら、スーパーユーザーになります。
11. /etc/system ファイルを開きます。
12. 次の行を追加します。

```
set use_mp = 0
```

- 回避方法 5: マイクロコードの更新を無効にします。次のコマンドを入力します。

```
# mv /platform/i86pc/ucode /platform/i86pc/ucode.disabled
```

マイクロコードの更新は、システムが起動したあとに手動で呼び出すことができます。

```
# ucodeadm -u /platform/i86pc/ucode.disabled/intel-ucode.txt
```

ZFS legacy マウントで zoneadm install が失敗する (6449301)

\add fs サブコマンドで ZFS ファイルシステムをマウントするように非大域ゾーンを最初に構成して mountpoint=legacy を指定すると、そのあとでゾーンのインストールを行うときに失敗します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
ERROR: No such file or directory:
cannot mount </zones/path/root/usr/local> in non-global zone to install:
the source block device or directory </path/local> cannot be accessed
```

回避方法: 非大域ゾーンをインストールしてから、ZFS ファイルシステムへのアクセスを追加します。

ZFS および UNIX/POSIX 準拠に関する問題

ZFS は POSIX 準拠のファイルシステムとして設計されており、ほとんどの場合、ZFS は POSIX に準拠しています。ただし、次の2つの極端な状況では、ZFS は POSIX 準拠テストに適合しません。

1. ZFS ファイルシステム容量統計の更新。
2. 100 パーセント満杯のファイルシステムによる既存のデータの変更。

関連する CR:

- 6362314
- 6362156
- 6361650
- 6343113
- 6343039
- 6742203

fdisk -E は ZFS が使用するディスクを警告なしに一掃する可能性がある (6412771)

fdisk -E コマンドを使用して ZFS ストレージプールによって使用されているディスクを変更する場合、そのプールは使用不可になり、入出力エラーまたはシステムパニックを引き起こすことがあります。

回避方法:

ZFS ストレージプールによって使用されているディスクの変更には fdisk コマンドを使用しないでください。ZFS ストレージプールによって使用されているディスクにアクセスする必要がある場合は、format ユーティリティーを使用してください。一般に、ファイルシステムが使用中のディスクを変更するべきではありません。

ZFS と他社製のバックアップ製品の問題

Brightstor ARCserve Backup 製品に関する問題は次のとおりです。

UNIX (Solaris) 版 BrightStor ARCserve Backup クライアント エージェントと ZFS サポート

UNIX (Solaris) 版 BrightStor ARCserve Backup (BAB) クライアントエージェントを使用して、ZFS ファイルのバックアップと復元を行うことができます。

ただし、ZFS の NFSv4 スタイル ACL はバックアップ時に維持されません。従来の UNIX ファイルのアクセス権と属性は維持されます。

回避方法: NFSv4 スタイル ACL を使用している ZFS ファイルを維持するには、tar コマンドに `-p` オプションを指定するか `cpio` コマンドに `-P` オプションを指定して、ZFS ファイルを1つのファイルに書き込みます。その後、この tar アーカイブまたは `cpio` アーカイブを BAB でバックアップします。

ZFS GUI は、各ウィザードの起動時に /usr/lib/embedded_su をチェックする必要がある (6326334)

`embedded_su` パッチのない Solaris 10 6/06 以前のリリースを実行するシステムに Solaris 10 10/09 リリースの `SUNWzfs` パッケージを追加する場合、ZFS 管理アプリケーションウィザードは十分に機能しません。

`embedded_su` パッチのないシステム上で ZFS 管理アプリケーションを実行しようとすると、ZFS 構成を参照することしかできません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
/usr/lib/embedded_su: not found
```

回避方法:

`embedded_su` パッチ (119574-02) を、Solaris 10 6/06 より前のリリースを実行するシステムに追加します。

パニック時にファイルシステムの同期に失敗する (6250422)

ターゲットに対して発生する (Solaris iSCSI ソフトウェアイニシエータを使用して接続される) ファイルシステムの入出力によってホストがパニック状態に陥った場合、入出力はターゲットデバイスのフラッシュまたはターゲットデバイスへの同期を実行できないことがあります。このフラッシュまたは同期の不能によってファイルシステムが破壊される場合があります。エラーメッセージは表示されません。

回避方法:

UFS などのジャーナリングファイルシステムを使用します。Solaris 10 以降では、UFS ロギングはデフォルトで使用可能になっています。UFS の詳細については、『Solaris のシステム管理 (デバイスとファイルシステム)』の「ファイルシステムの新機能」を参照してください。

一部の Solaris Express または Solaris 10 リリースからのアップグレードにはファイルシステムの再マウントが必要

NFSv4 サーバーを Solaris Express 6/05 から Solaris Express 7/05 以降にアップグレード (すべての Solaris 10 アップデートを含む) したあと、プログラムによって EACCES エラーが検出されることがあります。さらに、ディレクトリが間違っただけに見えるように見えることもあります。

これらのエラーを回避するには、クライアントのファイルシステムをいったんマウント解除してから再マウントします。マウント解除がうまくいかない場合は、`umount -f` を使用して強制的にファイルシステムをマウント解除する必要があります。あるいは、クライアントをリブートしてもかまいません。

NFSv4 アクセス制御リストの関数が正しく動作しないことがある

ネットワーク上のクライアントとサーバーが、異なる以前の Solaris 10 リリースでインストールされている場合、NFSv4 アクセス制御リスト (ACL) の関数が正しく動作しないことがあります。対象となる ACL 関数とその関数を使用するコマンド行ユーティリティーは次のとおりです。

- `acl()`
- `facl()`
- `getfacl`
- `setfacl`

これらの関数とユーティリティーについては、それぞれのマニュアルページを参照してください。

たとえば、次の構成を含むネットワークではエラーが検出される可能性があります。

- Solaris 10 ベータ版ソフトウェアが稼働しているクライアント
- Solaris 10 ソフトウェアが稼働しているサーバー

次の表に、異なる Solaris 10 リリースがインストールされているクライアントとサーバーの構成における ACL 関数の結果を示します。

操作	クライアントの S10 OS	サーバーの S10 OS	結果
get ACL	S10 ベータ版	S10 OS	正しくない ACL* が作成されます
get ACL	S10 OS	S10 ベータ版	正常に機能します
set ACL	S10 ベータ版	S10 OS	正常に機能します
set ACL	S10 OS	S10 ベータ版	エラー: EOPNOTSUP

回避方法: NFSv4 ACL の機能を正しく動作させるには、サーバーとクライアントの両方で Solaris 10 OS の完全なインストールを実行します。

Solaris NFSv4 クライアントと NFSv4 サーバーとの間にアクセスに関する問題がある

現在の Solaris 10 バージョンでは、NFSv4 アクセス制御リスト (ACL) の Solaris 実装は RFC 3530 仕様に準拠しています。しかし、Solaris 10 ベータ版 (Beta 2 または Beta 1) を使用する NFSv4 クライアントではエラーが発生します。これらのクライアントでは、現在の Solaris 10 リリースを使用している NFSv4 サーバー内にファイルを作成することができません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
NFS getacl failed for server_name: error 9 (RPC: Program/version mismatch)
```

回避方法: ありません。

サイズの大きなディスクの場合に、mkfs コマンドを使用してファイルシステムを作成できないことがある (6352813)

ディスクジオメトリによっては、8G バイトより大きなサイズのディスク上に mkfs コマンドを使用してファイルシステムを作成できないことがあります。生成されるシリンダグループのサイズは、1K バイトのフラグメントを使用するには大きすぎます。シリンダグループのサイズが大きいため、メタデータのサイズが大きくなり、1 ブロックに収めることができません。

次のエラーメッセージが表示されます。

```
With 15625 sectors per cylinder, minimum cylinders
per group is 16. This requires the fragment size to be
changed from 1024 to 4096.
Please re-run mkfs with corrected parameters.
```

回避方法:代わりに、`newfs` コマンドを使用してください。または、`mkfs` コマンドを使用するときに、4096などのより大きなフラグメントサイズを割り当ててください。

1Tバイトよりも大きなデバイスでシステムクラッシュダンプが失敗する (6214480)

システムでは、1Tバイト以上のパーティションにダンプを生成することができません。システム上にこのようなデバイスがある場合は、システムパニックが発生したあとにシステムをブートすると、次のようなエラーが発生することがあります。

- システムがダンプを保存しない。
- 次のメッセージが表示されます。

```
0% done: 0 pages dumped, compression ratio 0.00, dump failed: error 6
```

回避方法: システムのダンプデバイスのサイズを1Tバイト未満に設定してください。

ハードウェア関連の注意事項とバグ情報

Solaris 10 リリースのハードウェア関連の注意事項とバグ情報について説明します。

Solaris 10 10/09 で ixgbe ドライバのパフォーマンスが低下する (6885903)

ixgbe ドライバには、デフォルトで8個のRXキューがあります。Solaris 10 10/08 や Solaris 10 5/09 リリースの単一RXキューと比べると、複数のRXキューはプロミスキュアス (promiscuous) モードでのパフォーマンスの低下につながります。RXキューが複数あると、カーネル競合が起こります。カーネル競合は、Solaris 10 10/09 で ixgbe パフォーマンスの低下を引き起こす場合があります。

回避方法: ixgbe の RX および TX キューの値を1に設定します。次の手順を実行します。

1. `/kernel/drv/ixgbe.conf` 構成ファイルを編集します。

```
rx_queue_number = 1;
tx_queue_number = 1;
```

2. システムを再起動します。

ZFS ルートプールでリブートのたびに保守が必要になる (6856341)

リブートの後で、ZFS ルートプールが縮退モードになります。この問題により影響を受ける可能性があるミラー化ルートプールには、別のデバイスドライバを使用するディスクデバイスが含まれており、2 番目のドライバがブート処理でロードされていません。

この問題の症状は、システムがリブートされたとき、両方のドライバが同時にロードされないため、プールが縮退状態になることです。この問題により影響を受ける可能性があるミラー化ルートプールでは、zpool のステータス出力が次のようになります。

```
state: DEGRADED
status: One or more devices could not be opened. Sufficient replicas exist for
the pool to continue functioning in a degraded state.
```

回避方法: 次の手順を実行します。

1. 強制的にロードされるデバイスドライバを識別します。たとえば、次のような構文で prtconf コマンドを使用します。

```
# prtconf -aD /dev/rdisk/clt0d0
SUNW,Sun-Fire-280R (driver name: rootnex)
pci, instance #1 (driver name: pcisch)
SUNW,qlc, instance #4 (driver name: qlc)
fp, instance #5 (driver name: fp)
ssd, instance #5 (driver name: ssd)
```

2. /etc/system ファイルを編集し、手順 1 で識別された各ドライバについて forceload エントリを追加します。次に例を示します。

```
forceload: drv/qlc
forceload: drv/ssd
forceload: drv/fp
```

x86: 1G バイトの RAM を備えた 4 番目の 5709 インタフェースの plumb 中にシステムが plumb に失敗し、パニック状態になる (6822680)

特定の x86 システムで、1G バイトの RAM を備えた 4 番目の 5709 インタフェースの plumb に失敗します。システムはパニック状態になることがあります。あるいは、次のエラーメッセージが表示されます。

```
ifconfig: plumb: bnx<X>: Invalid argument
```


このバグは、Dell PowerEdge R610 および R710 の各サーバーに影響を与えます。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. 使用する RAM の容量を 1G バイトよりも大きくします。
2. インタフェースごとに `hostname.bnxX` を作成します。
3. システムをリブートします。
4. 最新の BNX ドライバ 4.6.2 をダウンロードしてインストールします。
5. `tx_descriptor_count` のデフォルトの設定を使用するように `bnx.conf` ファイルを変更します。

x64: Mellanox の ConnectX ファームウェア 2.6.0 で PCI サブシステム ID が変更される (6810093)

実行中のシステムで ConnectX ファームウェアをバージョン 2.6.000 以降にアップグレードすると、一部の HCA や x64 プラットフォームで問題が発生することがあります。この問題は、Mellanox ブランドの HCA だけに影響を与えます。Sun ブランドの PCIe HCA、EM、NEM、および SPARC プラットフォームには影響しません。

システムをブートできなかつたり、ブート中にシステムがハングアップしたりすることがあります。ibd (IPoverIB) インスタンス番号が変わり、それによってシステムがブートできなくなつたり、ibd デバイスを `plumb` できなくなつたりすることがあります。

回避方法 1: `cxflash` を使ってファームウェアを更新したあと、システムをリブートする前に、`/etc/path_to_inst` ファイルと `/dev` ディレクトリから `ibd<x>` インスタンスを削除します。次の手順を実行します。

1. `root` ユーザーとしてログインします。デバイスツリー情報は、次のようになります。

```
# ls -R /devices | grep 15b3
/devices/pci@0,0/pci10de,5d@e/pci15b3,634a@0
/devices/pci@0,0/pci10de,5d@e/pci15b3,634a@0/ibport@1,ffff,ipib
/devices/pci@0,0/pci10de,5d@e/pci15b3,634a@0/ibport@1,ffff,ipib:ibd0
/devices/pci@0,0/pci10de,5d@e/pci15b3,634a@0/ibport@2,ffff,ipib
/devices/pci@0,0/pci10de,5d@e/pci15b3,634a@0/ibport@2,ffff,ipib:ibd1
/devices/pci@0,0/pci10de,5d@e/pci15b3,634a@0:devctl
```

注- デバイス仕様は、取り付けられている Mellanox ブランドのカードによって変わります。

2. `path_to_inst` ファイルを編集します。次の手順を実行します。

- a. 既存の path_to_inst ファイルのバックアップコピーを作成します。

```
# cp /etc/path_to_inst /etc/path_to_inst.backup
```

- b. path_to_inst ファイルを開きます。

```
# vi /etc/path_to_inst
```

- c. ibd と hermon が含まれる行を検索し、それらの行を削除します。
- d. 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。

3. /dev ディレクトリで次のようにエントリを削除します。

```
rm /dev/ibd?*
```

4. システムを再起動します。システムが正常にブートし、対応するデバイスツリーが次のようになります。

```
# ls -R /devices | grep 15b3
/devices/pci@0,0/pci10de,5d@e/pci15b3,5@0
/devices/pci@0,0/pci10de,5d@e/pci15b3,5@0/ibport@1,ffff,ipib
/devices/pci@0,0/pci10de,5d@e/pci15b3,5@0/ibport@1,ffff,ipib:ibd0
/devices/pci@0,0/pci10de,5d@e/pci15b3,5@0/ibport@2,ffff,ipib
/devices/pci@0,0/pci10de,5d@e/pci15b3,5@0/ibport@2,ffff,ipib:ibd1
/devices/pci@0,0/pci10de,5d@e/pci15b3,5@0:devctl
```

回避方法 2: path_to_inst ファイルと /dev ディレクトリを更新する前にシステムをリブートした場合は、システムがハングアップすることがあります。このような場合は、次の手順を実行します。

1. システムの電源を切り、HCA をバスから取り外します。
2. HCA を取り付けないでシステムをリブートします。
3. システムが再開したら、回避方法 1 に記載された手順 2 から 3 を実行します。
4. システムの電源を切ります。
5. HCA を取り付け直します。システムを再起動します。
6. システムをリブートしても ibd インタフェースが自動的に plumb しない場合は、/etc/hostname.ib<?> ファイルが最新のデバイス構成に適していない可能性があります。正しい構成を表すようにファイル名を手動で変更します。

PCIe に対して回復不可能なマシンチェック例外が発生する (6797934)

一部の IBM システムがインストール後にハングアップするか、パニック状態になります。次のパニックメッセージが表示されます。

Unrecoverable Machine-Check Exception

回避方法 1: システムのハングアップを避けるために、インストール後に次の行を `/etc/system` ファイルに追加します。

```
set pcie:pcie_aer_ce_mask=0x11C1
```

回避方法 2: インストール中またはインストール後のブート中にシステムがパニック状態になる場合は、この回避方法を使用します。 `-kd` オプションを使ってシステムをブートし、それを `kmdb` デバッガ内に設定します。

```
::bp pcie'pcie_initchild
:c
pcie_aer_ce_mask/W 11C1
:d all
:c
```

システムが起動したら、次の行を `/etc/system` ファイルに追加して、変更内容を永続的なものにします。

```
set pcie:pcie_aer_ce_mask=0x11C1
```

x86: i86_mwait が意図したとおりに機能しない (6736444)

インテル Xeon プロセッサ MP 7400 番台を搭載したシステムで Solaris 10 10/09 OS を実行している場合、使用率が低いときにパフォーマンスが低下し、消費電力が増加することがあります。この問題は、CPU が休止せず、遊休中の電源管理が妨げられているときに発生することがあります。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: `/etc/system` ファイルに次の行を追加して、システムをリブートします。

```
set idle_cpu_prefer_mwait=0
```

fwflash が ConnectX および hermon HCA をサポートしない (6731804)

標準の `fwflash` コマンドには、ConnectX HCA フラッシュデバイスのファームウェアの更新をサポートするプラグインが必要です。Solaris 10 10/09 リリースでは、このプラグインがまだ使用できません。

回避方法: Solaris 10 ユーザーは、このユーティリティのスタンドアロン版を使ってそれらのファームウェアを更新できます。次の手順を実行します。

1. カスタマダウンロードセンター (<http://www.sun.com/download/index.jsp?tab=2>) からユーティリティーおよびマニュアルページをダウンロードします。このページで、Solaris InfiniBand (IB) Updates 3 を検索します。手順に従ってパッケージをダウンロードし、ファイルを `untar` (展開) します。一部のファイルを抽出するだけで十分なため、パッケージはインストールしないでください。
2. 元の `.tar` ファイルの名前を変更します。

```
# mv ib_updates_3_s10u6.i386.tar ib_updates_3_s10u6.i386.tar-orig
```

3. 圧縮された `.tar` ファイルを解凍します。

```
#gunzip ib_updates_3_s10u6.i386.tgz
```

4. `.tar` ファイルから `cxflash` ユーティリティーを抽出します。

```
# tar -xvf ib_updates_3_s10u6.i386.tar usr/sbin/cxflash
```

これにより、作業ディレクトリの下に相対パスが抽出されます。

```
# ls -lR usr
```

```
usr:
```

```
total 2
```

```
drwxrwxrwx  2 staff  staff          512 Mar  9 09:20 sbin
```

```
usr/sbin:
```

```
total 88
```

```
-rwxr-xr-x  1 staff  staff          44976 Jan 26 13:39 cxflash
```

5. `cxflash` ファイルを `/usr/sbin` にコピーします。このユーティリティーは、ファームウェアを `hermon` および `ConnectX HCA` 上にフラッシュするために使用できます。

```
# ls -l firmware
```

```
total 1952
```

```
-rw-r--r--  1 staff  staff          487336 Jan 30 18:29 SUN-375-3548_2.5.100.bin
```

```
-rw-r--r--  1 staff  staff          487436 Jan 30 18:29 SUN-375-3549_2.5.100.bin
```

注-ファイルが抽出されるときに作成されるファームウェアディレクトリには、Sun ブランドの HCA カードと Express モジュール用のファームウェアファイルが格納されます。HCA カードのバージョンが異なる場合は、使用している HCA カードのベンダーから 2.5.000 バージョン以降のファームウェアを取得してください。

HP NC326i アダプタと bge ドライバに関する問題 (6691658)

HP NC326i デバイスを使用すると、bge が正常に動作できません。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: ありません。

SPARC: NCP デバイスドライバで 19.55% のパフォーマンスの低下がある (6660074)

Solaris 10 10/09 リリースがインストールされた Sun SPARC® Enterprise T5220 マシンの NCP (Niagara Crypto Provider) デバイスドライバでパフォーマンスの低下が発生します。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: /platform/sun4v/kernel/drv/ncp.conf 構成ファイルに次の行を追加します。

```
ncp-threads-per-core=6;
```

USB フロッピーディスクドライブをマウントできない (6650724)

フロッピーディスクを USB フロッピーディスクドライブに挿入しても自動的にマウントされません。エラーメッセージは表示されません。フロッピーディスク上の pcfs ファイルシステムにアクセスできません。

回避方法: mount コマンドを実行して、フロッピーディスク上のファイルシステムを手動でマウントできます。次に例を示します。

```
mount -F pcfs /vol/dev/dsk/c3t0d0/noname /rmdisk
```

USB ストレージデバイスの切断時にエラーメッセージが表示される (6624786)

USB ストレージデバイスが切断されるときに、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Disconnected device was busy, please reconnect.
```

このメッセージは、デバイスが正常にアンマウントされるときにも表示されます。

回避方法:ありません。このエラーメッセージは無視して構いません。

(ZFS) ARC がカーネルページ内にメモリーを割り当てているため、DR が実行できない (6522017)

ZFS では、大規模なメモリー構成を備えたシステムのすべてのシステムボードにわたって、カーネルメモリーを割り当てることができます。メモリーを動的に再構成するには、動的に再構成するボードのメモリーを未使用のボードにコピーできるように、未使用のシステムボードが1つ必要です。ZFS が稼働している大規模なメモリー構成のシステムでは、メモリーを動的に再構成することはできません。SunFire™ ハイエンドサーバーでは、この問題を回避するためにカーネルページを再配置できます。これらのサーバーでは、32 を超えるコアを持つドメインに対してカーネルページ再配置 (KPR) が有効になっている必要があります。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: /etc/system ファイルで `zfs_arc_max` パラメータを設定して、ZFS で割り当て可能なカーネルメモリーの量を減らします。次の例では、最大サイズが 512M バイトに設定されます。

```
set zfs_arc_max = 0x20000000
```

デバイス固有の負荷分散設定が mpathadm で表示されない

`mpathadm show logical-unit` サブコマンドでは、Current Load Balance プロパティに対するグローバルな負荷分散設定値が表示されます。ただし、特定の製品の負荷分散タイプを変更する `csi_vhci.conf` 内のエントリは、その設定が有効になっている場合でも、`mpathadm` の出力に反映されません。

登録ツールが原因で一部のフレームバッファース上の電源管理が妨げられる (6321362)

登録ツールのバックグラウンドプロセスが実行されたままになっていると、Elite3D および Creator3D フレームバッファースは電源管理を停止します。この障害が発生すると、システムが電源管理状態のときに節約される電力量が少なくなります。条件によっては、`sys-suspend` がハングアップすることもあります。エラーメッセージは表示されません。システムの保存停止処理または復元再開処理中に、そのシステムがハングアップすることがあります。

回避方法:

ログインしてから約 60 秒後に、毎回次のコマンドを実行してください。

```
# pkill -f basicreg.jar  
# pkill -f swupna.jar
```

SPARC: Solaris 10 OS で Sun Crypto Accelerator 4000 ボードバージョン 1.0 および 1.1 がサポートされて いない

Solaris 10 OS には、新しい暗号化フレームワークが用意されていますが、バージョン 1.0 および 1.1 の Sun Crypto Accelerator 4000 ボードのソフトウェアとファームウェアはこのフレームワークを利用しません。したがって、これらのバージョンは Solaris 10 OS ではサポートされていません。

2.0 リリースでは新しいフレームワークを使用します。Solaris 10 OS の使用を予定している現在の Sun Crypto Accelerator 4000 ユーザーは、このリリースを無償アップグレードで利用できます。Sun Crypto Accelerator 4000 は輸出が規制されている製品であるため、Sun エンタープライズサービスまたは最寄りの販売ルートを通じて無償アップグレードを受ける必要があります。詳細は、Sun の [製品サイト](#) にある Sun Crypto Accelerator 4000 Web ページを参照してください。

特定の USB 2.0 コントローラが使用できない

一部の USB 2.0 コントローラは EHCI ドライバとの互換性がないため、サポートされていません。次のメッセージが表示されます。

```
Due to recently discovered incompatibilities with this  
USB controller, USB2.x transfer support has been disabled.  
This device will continue to function as a USB1.x controller.  
If you are interested in enabling USB2.x support please refer  
to the ehci(7D) man page.  
Please refer to www.sun.com/io for Solaris Ready products  
and to www.sun.com/bigadmin/hcl for additional compatible  
USB products.
```

USB デバイスに関する最新情報については、http://www.sun.com/io_technologies/USB-Faq.html を参照してください。

サポートされる **USB** デバイスと対応するハブの構成

この Solaris リリースでは、USB 1.1 と USB 2.0 の両方のデバイスをサポートします。次の表は、特定の構成で動作する USB デバイスをまとめたものです。接続の種類は、コンピュータに直接接続しても、USB ハブ経由で接続してもかまいません。USB 1.1 のデバイスとハブは低速または全速であることに注意してください。USB 2.0 のデバイスとハブは高速です。ポートと動作速度の詳細については、『Solaris のシステム管理 (デバイスとファイルシステム)』を参照してください。

表 2-1 USB デバイスと構成

USB デバイス	接続の種類
USB 2.0 ストレージデバイス	直接、USB 1.1 ハブ、USB 2.0 ハブ
USB 1.1 デバイス (オーディオデバイスを除く)	直接、USB 1.1 ハブ、USB 2.0 ハブ
USB 1.1 オーディオデバイス	直接、USB 1.1 ハブ
USB 2.0 オーディオデバイス	サポートされていません

x86: Solaris 10 OS で特定のデバイスドライバにくつかの制限がある

次のリストは、このリリースの Solaris 10 (x86 版) における特定のドライバとインタフェースの制限事項を示しています。

- チェックポイントの再開** この機能は、すべてのデバイスタイプでオフになっています。detach() 関数の DDI_SUSPEND コードでは、DDI_FAILURE を返すようにしてください。
- 電源管理** この機能は、USB デバイスでは利用できません。電源管理コンポーネントを作成しないでください。電源管理コンポーネントが作成されるときにだけ pm_raise_power() と pm_lower_power() が呼び出されるようにドライバを作成します。

モニターのないシステムでの DVD-ROM/CD-ROM

リムーバブルメディアなどの対話型デバイスの電源管理は、モニターおよびモニターを制御しているグラフィックスカードの電源管理と連動しています。画面が有効になっているときは、CD-ROM ドライブやフロッピーディスクなどのデバイスは

全電力モードとなります。モニターのないシステムでは、これらのデバイスは低電力モードに切り替わることがあります。CD または フロッピーディスクの電力を元に戻すには、**volcheck** と入力して、各リムーバブルデバイスから最新の状態を取得します。

代替手段として、Dtpower GUI を使用して、使用しているシステムの電源管理を使用不可にすることができます。電源管理を無効にすることにより、これらのデバイスは常に通常の電力モードになります。

x86: US 英語以外のキーボードを指定するには手動による構成が必要

デフォルトでは、`kdmconfig` プログラムはシステムに接続されているキーボードタイプとして、一般的な US 英語 (104 キー) を指定します。システムのキーボードが US 英語キーボードでない場合は、インストール時にそのキーボードタイプを手動で指定する必要があります。指定しない場合、システムの実際のキーボードタイプと矛盾しているデフォルトのキーボード仕様でインストールが続行されます。

回避方法 1: システムのキーボードが US 英語キーボードでない場合は、インストール時に次の手順を実行してください。

1. 「Proposed Window System Configuration For Installation」が表示されたら、Esc キーを押します。

注 - キーボードタイプを含む「Proposed Window System Configuration For Installation」の情報は 30 秒間しか表示されません。構成の設定を変更する場合は、30 秒以内に Esc キーを押す必要があります。そうしないと、表示された設定でインストールが続行されます。

2. キーボードタイプをシステムのキーボードに対応するタイプに変更します。
3. Enter キーを押して変更を受け入れ、インストールを続行します。

回避方法 2: すでに Solaris 10 OS が動作しているシステムのキーボードタイプを変更する場合は、`kdmconfig` プログラムを使用します。システムで実行している X サーバーの種類に応じて、次のいずれかを実行してください。

- Xsun サーバーを実行している場合は、次の手順を実行します。
 1. `kdmconfig` を実行します。
 2. 「Change Keyboard」オプションを使用して、キーボードタイプを変更します。
 3. 構成を保存します。

- デフォルトの Xorg サーバーを実行している場合は、次の手順を実行します。
 1. `kdmconfig` を実行します。
 2. Xsun サーバーを選択します。
 3. 「Change Keyboard」オプションを使用して、キーボードタイプを変更します。
 4. 構成を保存します。
 5. `kdmconfig` をもう一度実行して Xorg サーバーに切り替えます。

SPARC: テープデバイスに接続される特定のホストバスアダプタ用の **jfca** ドライバによってエラーが発生することがある (6210240)

次のホストバスアダプタ (HBA) がテープデバイスに接続されるときに、その HBA 用の `jfca` ドライバによってシステムパニックまたは入出力エラーが発生することがあります。

- SG-PCI1FC-JF2
- SG-PCI2FC-JF2

特定の操作が実行されているときに、これらの HBA 用の `jfca` ドライバは競合状態に陥りやすいため、エラーが発生します。特定の操作は、次のとおりです。

- リンクのリセット
- ループのリセット
- スイッチのリセット
- 繰り返されるリンク障害

次の例のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

- 入出力エラーメッセージ

```
jfca: [ID 277337 kern.info] jfca4: Sequencer-detected error. Recover
immediately.
last message repeated 18376 times
  jfca: [ID 716917 kern.notice] jfca4: ExgWarning: SendVerify(1): SHOULD
ABORT THE ORIG I/O PKG=30007520bd8!
scsi: [ID 107833 kern.warning] WARNING:
/pci@1e,600000/SUNW,jfca@3,1/fp@0,0/st@w2100001086108
628,1 (st3):
  SCSI transport failed: reason 'timeout': giving up
```

- システムパニックメッセージ

```
panic[cpu1]/thread=2a100497cc0:  
BAD TRAP: type=31 rp=2a1004978d0 addr=a8 mmu_fsr=0 occurred in module  
"jfca" due to a NULL pointer dereference
```

回避方法: テープデバイスを SG-PCI1FC-JF2 または SG-PCI2FC-JF2 の HBA に接続しないでください。

同一バスを共有する特定のデバイス間で競合が発生する (6196994)

Quad FastEthernet (QFE) カードが次のアダプタのいずれかと同一バスを共有する場合、バスの競合が発生します。

- Sun GigaSwift アダプタ
- Sun Dual Gigabit Ethernet + Dual SCSI/P アダプタ
- Sun Quad GigaSwift Ethernet アダプタ

これらのアダプタによって使用される ce ドライバの infinite-burst パラメータは、デフォルトで有効になっています。このため、同一バスを共有する QFE ポートに利用できるバス時間はほとんどないか、まったくありません。

回避方法: QFE カードをリスト内のネットワークアダプタと同じバス上に配置しないでください。

一部の DVD および CD-ROM ドライブで Solaris をブートできない (4397457)

SunSwift™ PCI Ethernet/SCSI ホストアダプタ (X1032A) カードの SCSI 部分のデフォルトタイムアウトは、Sun の SCSI DVD-ROM ドライブ (X6168A) のタイムアウト条件を満たしていません。一部のメディアでは、DVD-ROM で頻繁にタイムアウトエラーが発生します。例外は、OpenBoot PROM によって SCSI タイムアウト値を上書きする Sun Fire 6800、4810、4800、および 3800 システムのみです。

回避方法: ほかのプラットフォームでは、システムボード上の SCSI インタフェースまたは DVD-ROM 互換 SCSI アダプタを使用してください。次に例を示します。

- X1018A (SBus: F501-2739-xx)
- X6540A (PCI: F375-0005-xx)

iPlanet Directory Server 5.1 に関する注意事項

ここでは、iPlanet™ Directory Server 5.1 のユーザーがシステムを新しいリリースの Solaris 10 にアップグレードする際に重要な情報について説明します。

Directory Server 5.1 のインストール

Solaris 9 オペレーティングシステムに統合されていた iPlanet Directory Server 5.1 は Sun Java System Directory Server 5 2005Q1 に置き換わりました。Solaris 10 OS では、この新しい Directory Server を Sun Java Enterprise System の一部としてインストールできます。

注 - Sun Java System Directory Server 5 2005Q1 については、<http://docs.sun.com> にある Sun Java System のマニュアルを参照してください。

Solaris 10 OS では、引き続き Directory Server 5.1 のサポートを行います。次の状況では、場合により Directory Server 5.1 をインストールする必要があります。

- Directory Server 5.1 のデータを復元する必要がある場合。
- データを Directory Server 5 2005Q1 に移行する場合。

Solaris 10 リリースでは、Directory Server 5.1 のインストールは手動で行います。次の手順を実行します。

1. Solaris 10 SOFTWARE - 5 CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. スーパーユーザーになります。
3. 端末ウィンドウで、Directory Server をインストールします。

```
# cd /cdrom/cdrom0/Solaris_10/Product/  
# pkgadd -d . IPLTnls IPLTnspr IPLTnss IPLTjss IPLTldap \  
IPLTdsr IPLTdsu IPLTadmin IPLTcons IPLTadcon IPLTdscon \  
IPLTadman IPLTdsman
```

簡体字中国語ローカリゼーションパッケージをインストールするには、さらに次のコマンドを実行します。

```
# pkgadd -d . IPLTcdsu IPLTcadmin IPLTccons IPLTcadcon \  
IPLTcdscon IPLTcadman IPLTcdsman
```

日本語ローカリゼーションパッケージをインストールするには、さらに次のコマンドを実行します。

```
# pkgadd -d . IPLTjdsu IPLTjadmin IPLTjcons IPLTjadcon \
IPLTjdscon IPLTjadman IPLTjdsman
```

4. インストールが完了したら、iPlanet Directory Server 5.1 を設定します。詳細は、『[System Administration Guide: Naming and Directory Services \(DNS, NIS, and LDAP\)](#)』の第 11 章「Sun ONE Directory Server Configuration」を参照してください。

Sun Java System Directory Server 5 2005Q1 への移行



注意 - 2つのバージョンの Directory Server のデータベース形式には互換性はありません。したがって、Directory Server 5.1 ユーザーは使用しているデータベースを Sun Java System Directory Server 5 2005Q1 用にフォーマットされたデータベースに移行することをお勧めします。

移行を行うには、Solaris 10 OS にアップグレードしたシステムに両方のバージョンの Directory Server が含まれている必要があります。圧縮されたアーカイブ (.tar.gz) 配信形式を使用している DS 5.1 ユーザーは、手順 2 の移行処理にすぐに進むことができます。

1. 端末ウィンドウで、iPlanet Directory Server 5.1 パッケージがシステムに存在しているかどうかを確認します。

```
$ pkginfo | grep IPLT
```

次のパッケージが出力として表示されたら、手順 2 に進んで移行処理を開始できます。この出力は、iPlanet Directory Server 5.1 パッケージがシステムに含まれていることを示します。

```
system IPLTadcon Administration Server Console
system IPLTadman Administration Server Documentation
system IPLTadmin Administration Server
system IPLTcons Console Client Base
system IPLTdscon Directory Server Console
system IPLTdsman Directory Server Documentation
system IPLTdsr Directory Server (root)
system IPLTdsu Directory Server (usr)
system IPLTjss Network Security Services for Java
system IPLTnls Nationalization Languages and Localization Support
system IPLTnspr Portable Runtime Interface
system IPLTnss Network Security Services
system IPLTldap PerLDAP
$
```

パッケージが存在しない場合は、まず iPlanet Directory Server 5.1 パッケージをインストールします。詳細は、前節 84 ページの「[Directory Server 5.1 のインストール](#)」の手順 1-4 を参照してください。インストールが完了したら、手順 2 に進んで移行処理を始めます。

2. iPlanet Directory Server 5.1 のデータベースを現在のバージョンに移行します。手順については、http://docs.sun.com/coll/DirectoryServer_05q1 にある Sun Java System Directory Server のドキュメントを参照してください。

データの移行後は、引き続き移行前に行ったのと同じ方法でディレクトリデータのバックアップを行うようにしてください。今後の障害回復に、移行したデータベースが必要となることがあります。

ローカリゼーションに関する注意事項

ここでは、Solaris 10 OS のローカリゼーションに関する注意事項について説明します。

スウェーデン語ソフトウェアの翻訳に関する注意事項

Solaris 10 8/07 リリース以降、スウェーデン語ソフトウェアの翻訳は、コミュニティによって翻訳されたものを除き、更新されなくなりました。このため、更新されたメッセージは英語で表示されます。

回避方法: ありません。

Trusted Java DS に複数の入力方式スイッチアプリケーションが表示される

Trusted Java DS に UTF-8 ロケールまたはアジア言語ロケールでログインすると、デフォルトでは入力方式スイッチアプリケーション `iiim-panel` がラベルごとに表示されます。したがって、複数ラベルの環境では複数の `iiim-panel` が表示されるため、ユーザーを混乱させる可能性があります。

エラーメッセージは表示されません。

回避方法: `iiim-panel` の使用をやめます。次の手順を実行します。

- `iiim-panel` を右クリックし、「設定」を選択します。入力方式設定エディタ `iiim-properties` が表示されます。

- 「一般」タブの「入力方式のステータスとスイッチの配置」リストから、「表示しない」または「各アプリケーションに添付する」を選択します。
- 「適用」を押すか、「了解」ボタンをクリックします。

入力言語を切り替えるには、ホットキーを使用することもできます。ホットキーを有効にするには、次の手順を実行します。

- `iiim-properties` の「その他」タブに移動します。
- 「ホットキーを使用して言語/スクリプト選択ウィンドウを有効にする」オプションを選択します。
- 「適用」を押すか、「了解」ボタンをクリックします。

注- 「各アプリケーションに添付する」が選択されている場合、GTK アプリケーションには言語切り替えリストは表示されません。ホットキーを使用して入力言語を切り替えることができます。

Wnn8 日本語入力方式

Wnn8 サーバーが使用可能になっていない場合、Wnn8 日本語入力方式は使用できません。

回避方法: Wnn8 サーバーを使用可能にします。

```
# svcadm enable wnn8/server
```

また、`iiim-properties` コマンドを実行して、日本語エンジンとして Wnn8 を選択します。

Primary Administrator 権限で入力方式を有効にすることができない (6475081)

Primary Administrator 権限を持っているユーザーが、特定のロケールの入力方式を使用できず、文字を正常に入力できません。入力方式ステータスがワークスペースに表示されません。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: 次の行を `/etc/security/exec_attr` ファイルに追加します。

```
Primary Administrator:solaris:cmd:::/usr/bin/csh:uid=0;gid=0
Primary Administrator:solaris:cmd:::/usr/bin/ksh:uid=0;gid=0
Primary Administrator:solaris:cmd:::/usr/bin/sh:uid=0;gid=0
```

ファイルの書式については、`exec_attr(4)` のマニュアルページを参照してください。

IIIMF 第 12 版へのアップグレードでは New ChuYin 入力方式がサポートされない (6492129)

OS を Solaris 10 6/06 または Solaris 10 11/06 リリースにアップグレードすると、入力方式フレームワークおよび個々の入力方式が rev.10 から rev.12 にアップグレードされます。ただし、サポートされている入力方式のリストには ChuYin (繁体字中国語) が含まれていません。また、ファンクションキー F2 および F3 を使用して入力方式を切り替えることができません。

回避方法: Hanyu PinYin を使用して繁体字中国語の文字を入力するには、PinYin を使用します。入力方式を切り替えるには、`Ctrl + Shift` を使用します。

一部のロシア語ロケールで AltGr がモードスイッチとして機能しない (6487712)

`ru_RU.KOI8-R` ロケールと `ru_RU.ANSI1251` ロケールでは、AltGr キーがロシア語 Xsun 配列のモードスイッチとして機能しません。

回避方法 1: `ru_RU.UTF-8` ロケールまたは `ru_RU.ISO8859-5` ロケールに切り替えます。

回避方法 2: ロシア語キー配列の代わりに IIIMF™ を使用します。

ar ロケールでアラビア語のテキストが表示されない

x86 システムで Xorg をデフォルトの Xserver として使用している場合は、ar ロケールでアラビア語のフォント (iso7759-6) が表示されません。Xorg の代わりに Xsun を使用している場合は、このエラーは発生しません。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーとして、`/usr/dt/config/Xservers` を編集します。
 - 次の行をコメント解除するか、追加します。

```
:0 Local local_uid@console root /usr/openwin/bin/Xsun :0
-nobanner -defdepth 24
```


- 次の行をコメントにします。

```
:0 Local local_uid@console root /usr/X11/bin/Xorg :0
```

2. システムを再起動します。

別の方法として、ar_EG.UTF-8などのUTF-8ロケールにログインすることもできます。

いくつかのアラビア語フォントはGNOMEで機能しない(6384024)

GNOMEでは、特定のアラビア語フォントを選択すると、文字が表示されません。この問題はGNOMEのフォントプロパティメニューを使用して、アプリケーション、デスクトップ、またはウィンドウタイトルのフォントを選択するときが発生します。影響を受けるフォントは次のとおりです。

- Akhbar MT (標準、太字)
- Shayyal MT (標準、太字)
- Naskh MT (標準、太字)

エラーメッセージは表示されません。

回避方法:

新しく提供されたKacstフォントファミリーを使用して、アラビア文字をGNOMEアプリケーションで表示します。

セッション保存アプリケーションで入力言語を切り替えられない(6360759)

UTF-8ロケールでは多言語入力がサポートされていますが、ログイン後にマウスボタン1が最初にクリックされた場合、言語の切り替えはセッション保存アプリケーションで機能しません。この問題はJava Desktop System (Java DS)で発生します。エラーメッセージは表示されません。

回避方法:

アプリケーションをクリックする前に、バックグラウンドワークスペースまたは起動メニューでマウスボタン1をクリックします。

ES ロケールでの **Mozilla** のキーボードショートカットは独特であいまいである (6288620)

Mozilla 1.7 のキーボードショートカットは、特にスペイン語ロケールで独特です。たとえば、Ctrl+S は保存だけでなくコピーにも使用されます。エラーメッセージは表示されません。

回避方法:

ユーザー操作に割り当てられているショートカットキーを製品のメニューから確認します。

UTF-8 ロケールへの移行に関する注意事項

UTF-8 ロケールに移行すると、それらのファイルはデータをインポートまたはエクスポートするときに使用方法に影響します。

Microsoft Office ファイル

Microsoft Office ファイルは、Unicode でエンコードされています。StarSuite アプリケーションでは、Unicode でエンコードされたファイルの読み取りと書き込みを行うことができます。

HTML ファイル

Mozilla Composer などの HTML エディタを使用して作成した HTML ファイルや、Web ブラウザで保存された HTML ファイルには通常、charset エンコーディングタグが含まれています。エクスポートまたはインポートしたあとの HTML ファイルは、HTML ファイル内のエンコーディングタグに基づいて、Mozilla Navigator Web ブラウザで表示したり、Mozilla Composer を使用して編集したりすることができます。

壊れた HTML ファイルの修正

HTML ファイルが文字化けして表示されることがあります。この問題は通常、次の理由で発生します。

- charset エンコーディングタグが正しくない。
- charset エンコーディングタグがない。

HTML ファイルの charset エンコーディングタグを見つけるには、次の手順を実行します。

1. Mozilla を使用してファイルを開きます。

2. Ctrl+I キーを押すか、「表示」をクリックして「表示」メニューを開きます。
3. 「ページ情報」をクリックします。

charset 情報は、「一般」タブの下に、次のように表示されます。

```
Content-Type text/html; charset=us-ascii
```

文字列 `charset=us-ascii` がファイルの実際のエンコーディングと一致しない場合、そのファイルは壊れているように見えることがあります。HTML ファイルのエンコーディングを編集するには、次の手順を実行します。

1. Mozilla Composer でファイルを開きます。
2. 「ファイル」メニューを開きます。
3. 「文字エンコードの保存および変更」を選択します。
4. 正しいエンコーディングを選択します。Mozilla Composer は、自動的にエンコーディングと `charset` タグを適切に変換します。

汎用形式で保存された電子メール

現在の電子メールには、MIME `charset` タグが指定されています。電子メールおよびカレンダーアプリケーションは、MIME `charset` タグに対応しています。エンコーディング変換を実行する必要はありません。

プレーンテキストファイル

プレーンテキストファイルには、`charset` タグがありません。ファイルが UTF-8 エンコーディング形式でない場合には、エンコーディング変換を行う必要があります。たとえば、繁体字中国語 (BIG5) でエンコードされているプレーンテキストファイルを UTF-8 に変換するには、次のコマンドを実行します。

```
iconv -f big5 -t UTF-8 inputfilename
```

```
> outputfilename
```

ファイルシステム検査器を使用して、エンコーディングを変換することもできます。

テキストエディタを使用して文字エンコーディングテキストの読み取りおよび書き込みを行うことができますが、自動的にエンコーディングが変換される場合と、ファイルを開くか保存するときに明示的にエンコーディングを指定する場合があります。

テキストエディタを起動するには、「起動」をクリックし、「アプリケーション」->「アクセサリ」->「テキストエディタ」の順に選択します。

ファイル名とディレクトリ名

複数バイト文字を使用するファイル名やディレクトリ名が UTF-8 エンコーディング形式でない場合は、エンコーディング変換を行う必要があります。ファイルシステム検査器を使用して、レガシー文字エンコーディングによるファイル名、ディレクトリ名、およびプレーンテキストファイルの内容を、UTF-8 エンコーディングに変換することができます。詳細は、ファイルシステム検査器のオンラインヘルプを参照してください。

ファイルシステム検査器を起動するには、「起動」をクリックし、「アプリケーション」->「ユーティリティ」->「ファイルシステム検査器」の順に選択します。

ファイルマネージャーを使用して SMB 経由で Microsoft Windows 上の UTF-8 以外のファイル名やディレクトリ名にアクセスする場合は、エンコーディングを変換しなくても UTF-8 以外のファイル名やディレクトリ名にアクセスできます。

従来のロケール固有のアプリケーションの起動

Unicode UTF-8 への移行準備が整っていないアプリケーションの場合、フロントパネルに起動ツールを作成すると、従来のロケールでアプリケーションを開始できます。コマンド行からそれらのアプリケーションを直接起動することもできます。アプリケーションの起動ツールを作成するには、次の手順を実行します。

1. パネル上で起動ツールを配置する場所を右クリックします。
2. 「パネルに追加」->「ランチャー」と選択します。
3. 「ランチャーの作成」ダイアログの「コマンド」フィールドに、次の書式で必要な項目を入力します。

```
env LANG=locale LC_ALL=  
locale application name
```

たとえば、`/usr/dt/bin` から `motif-app` という名前のアプリケーションを中国語 (BIG5) ロケールで起動する場合は、「ランチャーの作成」の「コマンド」フィールドに、次のテキストを入力します。

```
env LANG=zh_TW.BIG5 LC_ALL=zh_TW.BIG5 /usr/dt/bin/motif-app
```

4. 「了解」をクリックすると、パネルに起動ツールが作成されます。

従来のロケール固有の CLI (コマンド行インタフェース) アプリケーションを実行する必要があるときは、まず従来のロケールで端末ウィンドウを開いてから、その端末

ウィンドウでCLIアプリケーションを実行します。端末ウィンドウを従来のロケールで開くには、次のコマンドを入力します。

```
eng LANG=locale LC_ALL=locale GNOME-TERMINAL --disable-factory.
```

従来のロケールで新規の端末ウィンドウを開く代わりに、現在の端末ウィンドウの「文字エンコーディングの設定」メニューでエンコーディングを変更することで、ロケール設定をUTF-8から従来のロケールに切り替えることもできます。この場合、現在のシェルに対してLANGおよびLC_ALL環境変数を設定し直す必要があります。

一部のキー配列タイプ6および7のハードウェアが使用できない

Solaris OS用に、いくつかのキー配列のソフトウェアサポートが追加されました。ユーザーは、必要に応じて標準U.S.キー配列を変更できます。このため、柔軟性の高いキーボード入力が可能になります。

現時点では、次のキー配列タイプに適合するハードウェアは入手できません。

アルバニア	ベラルーシ
ベラルーシ	フランス語(カナダ)
クロアチア	チェコ語
デンマーク	エストニア
ハンガリー	アイスランド
ラトビア	リトアニア
マルタ(英国)	マルタ(米国)
ポーランド	ポルトガル語(ブラジル)
ルーマニア	セルビア・モンテネグロ
スロバキア	スロベニア

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- 回避方法 1:** このキーボードソフトウェアを利用するには、`kbd -s` コマンド行ユーティリティを使用してキーボード入力を設定します。UTF-8ロケール環境を備えたデスクトップセッションの場合は、入力方式設定エディタを使用します。必要なキー配列が `kbd -s` ユーティリティに含まれていない場合は、回避方法2を使用してください。

- 回避方法 2: /usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map ファイルを変更します。たとえば、カナダ用タイプ6キーボードの場合、次の変更を行います。
 1. /usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map ファイル内の US6.kt エントリを Canada6.kt に変更します。たとえば、次のように変更します。

6	0	Canada6.kt
---	---	------------
 2. システムをリブートすると、変更内容が有効になります。

ネットワーク接続に関する注意事項

Solaris 10 リリースのネットワーク接続に関するバグ情報について説明します。

e1000g ドライバが破損した LSO パケットを生成する (6855964)

負荷が高い状況で、e1000g ドライバが破損した LSO パケットを生成し、Ethernet チップのストールとリセットを引き起こすことがあります。

回避方法: e1000g.conf ファイルに次の行を追加し、LSO を無効にします。

```
lso_enable=0,0,0,0,0,0,0,0;
```

'0' が e1000g インタフェース番号と一致することを確認してください。

Northstar カードで TCP 破損が発生する (6838180)

インテル 82571 チップの DMA は、データが不正でありながら CRC が正しいデータをネットワークに送信し、応答を停止することがあります。応答の停止によって、デバイスのハングとリセットが引き起こされます。

回避方法: e1000g.conf ファイルに次の行を追加し、LSO を無効にします。

```
lso_enable=0,0,0,0,0,0,0,0;
```

'0' が e1000g インタフェース番号と一致することを確認してください。

ゾーン間の通信に関する制約の厳格化 (6837033)

Solaris Trusted Extensions 構成を実行しているシステムでゾーン間通信の制約が厳しくなっていることから、準拠でない他社製アプリケーションが制限され、失敗することがあります。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- 回避方法 1: セキュリティー設定を一時的に変更します。/lib/svc/method/svc-labeld ファイルの次の行をコメントにします。

```
/usr/sbin/ndd -set /dev/ip \
ip_restrict_interzone_loopback 1
```

- 次のコマンドを入力します。

```
/usr/sbin/ndd -set /dev/ip ip_restrict_interzone_loopback 0
```

この変更を行うと、アプリケーションプログラミングやアプリケーション構成の問題に対処する時間を作ることができますが、永続的な解決方法としては推奨されません。

- 回避方法 2: Trusted Extensions が構成されている Solaris OS のプログラミングおよび構成の指示に準拠するよう、アプリケーションまたは構成を変更します。詳細は、『Solaris Trusted Extensions 開発ガイド』の第 5 章「プロセス間通信」を参照してください。

注-アプリケーションまたは構成の変更が困難な場合、SUN のサポート窓口にお問い合わせください。

DR および showdevices が XSCF の再起動後に動作しない (6821108)

OPL システムで XSCF サービスプロセッサを再起動したあとで、IPsec 通信が失われます。次のエラーメッセージが XSCF サービスプロセッサ上に表示されます。

```
XSCF> showdevices -d 0
```

```
Can't get device information from DomainID 0.
```

次のメッセージがドメインの /var/adm/messages ファイルに表示されます。

```
Apr 7 11:19:20 domain-0 sckmd: [ID 205163 daemon.error]
PF_KEY error: type=ADD, errno=17: File exists, diagnostic code=0: No diagnostic
```

この問題が発生するのは、ドメイン上の既存の SA (Security Association) が適切に削除されないことが原因であるため、新しい SA の追加に失敗します。

回避方法 1: XSCF サービスプロセッサを 2 回再起動します。最初の再起動で SA の半分が削除され、2 回目の再起動で残りの半分が削除されます。2 回目の追加に成功し、IPsec 通信が再度確立されます。

回避方法 2: サービスプロセッサを再起動する前に、各ドメインで IPsec SA を 2 回削除します。

IPsec をシステム上のほかのことに使用していない場合は、`ipseckey flush` によってすべての SA が表示されます。IPsec をほかのことに使用している場合は、次の手順を実行してすべての SA を表示します。

1. IP アドレスを取得します。

```
# /usr/platform/SUNW,SPARC-Enterprise/sbin/prtdscp
Domain Address: 192.168.224.2
SP Address: 192.168.224.1
```

2. `ipseckey` および `prtdscp` ユーティリティーを使用して SPI を 2 回削除します。

```
# ipseckey delete ah spi 0xff00 dst
'/usr/platform/SUNW,SPARC-Enterprise/sbin/prtdscp -s'
# ipseckey delete ah spi 0xff00 dst
'/usr/platform/SUNW,SPARC-Enterprise/sbin/prtdscp -s'

# ipseckey delete ah spi 0xff dst
'/usr/platform/SUNW,SPARC-Enterprise/sbin/prtdscp -d'
# ipseckey delete ah spi 0xff dst
'/usr/platform/SUNW,SPARC-Enterprise/sbin/prtdscp -d'
```

サービスプロセッサが再起動すると、キーが正しく追加されます。

x86: bnx ドライバで **Broadcom NetXtreme II 5709** チップセットがサポートされない (6637053)

Solaris 10 10/09 リリースでは、Broadcom NetXtreme II 5709 (BCM5709) チップセットはサポートされていません。

回避方法: Web サイト http://www.broadcom.com/support/ethernet_nic/downloaddrivers.php から bnx ドライバをダウンロードします。

注-ダウンロードしたドライバをインストールすると、既存のチップセットのパフォーマンスが低下することがあります。

SPARC: NFS/RDMA の接続エラー (6229077)

NFS サーバーと、RDMA (Remote Direct Memory Access) を使用しているクライアントとの間で接続エラーが発生することがあります。このエラーにより、バッファプールの資源が使い果たされ、システムがパニックになります。次のエラーメッセージが表示されます。


```
rpcib: WARNING: rib_rbuf_alloc: No free buffers!
```

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- TCPが有効になるようにNFSサーバーを設定します。/etc/default/nfsファイルで、(NFSD_PROTOCOL=tcp)に変更します。
- proto=tcp マウントオプションを使用してクライアント側からNFSファイルシステムをマウントします。

詳細は、[mount_nfs\(1M\)](#) および [nfs\(4\)](#) のマニュアルページを参照してください。

2つのポータルを持つiSCSIターゲットで、1つが不正なポータルの場合は、ログインが失敗する(6476060)

iSCSIターゲットまたはアレイから send target 応答の一部として複数のIPアドレスが返された場合、イニシエータはこれまでのリリースのようにリスト内の最初のアドレスだけを考慮するのではなく、最後のアドレスだけを考慮します。その結果、最後のIPアドレスが不正または無効な場合は、このターゲットへの接続が失敗します。

回避方法: send target 応答で、各エントリについて異なるターゲットポータルグループタグ (TPGT) を返します。イニシエータは接続を成功させるために、すべてのIPアドレスに対して接続を確立しようとします。

システム DOI を設定できない(6314248)

システム DOI (Domain of Interpretation) を設定できません。Solaris 管理コンソールを使用して新しいトラステッドネットワークテンプレートを作成するとき、Solaris 管理コンソールによって DOI が 0 に設定され、Solaris Trusted Extensions が正しく機能しません。さまざまなエラーメッセージが表示されます。

回避方法: Solaris 管理コンソールを使用して DOI を 1 に設定します。

Solaris 10 OS では IP 転送がデフォルトで無効になっている

この Solaris リリースでは、IP 転送はデフォルトで無効になっています。この設定は、ほかのシステム構成に関係なく IPv4 と IPv6 の両方に適用されます。以前はデフォルトで IP パケットを転送していた複数の IP インタフェースを持つシステムには、もうこの自動機能はありません。マルチホームシステムでの IP 転送を有効にするには、管理者は手動でいくつかの設定手順を実行する必要があります。

回避方法: コマンド `routeadm` を実行して IP 転送を有効にできます。 `routeadm` を使用して行われた構成変更は、システムのリブート時にも保持されます。

- IPv4 転送を有効にするには、 `routeadm -e ipv4-forwarding` と入力します。
- IPv6 転送を有効にするには、 `routeadm -e ipv6-forwarding` と入力します。
- 有効になった IP 転送の設定を現在実行しているシステムに適用するには、 `routeadm -u` と入力します。

IP 転送の詳細は、 [routeadm\(1M\)](#) のマニュアルページを参照してください。

IP アドレスが失敗した IP ネットワークマルチパスグループに属していると、ゾーンはブートしない (6184000)

ゾーンの IP アドレスが IP ネットワークマルチパス (IPMP) グループの一部になるようにゾーンを構成できます。構成方法については、『[Solaris のシステム管理 \(Solaris コンテナ: 資源管理と Solaris ゾーン\)](#)』の「[IP ネットワークマルチパス機能を共有 IP 非大域ゾーンに拡張する方法](#)」を参照してください。

IPMP グループに含まれるすべてのネットワークインタフェースが失敗すると、その IPMP グループに属している IP アドレスを持つゾーンはブートしません。

次の例は、ゾーンをブートしようとした場合の結果を示しています。

```
# zoneadm -z my-zone boot
zoneadm: zone 'my-zone': bge0:1:
could not set default interface for multicast: Invalid argument
zoneadm: zone 'my-zone': call to zoneadmd failed
```

回避方法: グループ内のネットワークインタフェースの少なくとも 1 つを修復してください。

セキュリティーに関する注意事項

Solaris 10 リリースのセキュリティーに関する注意事項について説明します。

pam_ldapを有効にしておく、パスワードなしのログインが失敗する (6365896)

LDAP用のアカウント管理 PAM モジュール (pam_ldap) を有効にした後、ユーザーはシステムにログインするときにパスワードを指定する必要があります。結果として、パスワードなしのログインは失敗します。これには、次のようなツールを使用したログインが含まれます。

- リモートシェル (rsh)
- リモートログイン (rlogin)
- セキュアシェル (ssh)

回避方法: ありません。

Solarisのコマンドと標準

次の節では、Solaris 10 OS における特定のコマンドと標準の動作変更について説明します。

SPARC: 8バイト境界整列 mutex に準拠しないアプリケーションが失敗する (6729759)

mutex_t および pthread_mutex_t 型のオブジェクトは、8バイト境界で整列されるアドレスで始まる必要があります。この要件を満たさないアプリケーションは失敗します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
*** _THREAD_ERROR_DETECTION: lock usage error detected ***
...
"mutex is misaligned"
OR:
"condvar is misaligned"
```

回避方法: 環境変数を次の値に設定すると、整列エラーが stderr で報告されます。

- THREAD_ERROR_DETECTION=1
- THREAD_ERROR_DETECTION=2

THREAD_ERROR_DETECTION 環境変数をこのどちらかの値に設定してアプリケーションをテストし、準拠していないアプリケーションを修正するように依頼してください。

winbindによって最初の1000人のActive Directoryユーザーしか取得されない

このバグは、Active Directory環境でwinbindを指定してSambaサーバーを使用しているときに発生します。Solaris 10 10/09 リリースには、Sambaバージョン3.0.28が含まれています。Active Directoryサーバーからすべてのユーザーまたは1000人を超えるユーザーのクエリー検索を行うと、winbindによって最初の1000件の結果だけが取得されます。

回避方法:ありません。

PgAdmin III 1.6でPostgreSQLバージョン8.3がサポートされない

PgAdmin III 1.6は、PostgreSQLバージョン8.3の管理には使用できません。PgAdmin 1.6は、新規バージョンのPostgreSQLに含まれるカタログ構造を認識しません。さまざまなエラーメッセージが表示されます。

回避方法:PgAdmin IIIバージョン1.8にアップグレードします。

Solaris Trusted Extensionsの変更されたマニュアルページはリファレンスマニュアルだけに記載されている

このリリースでは、次に示すSolaris Trusted Extensionsのマニュアルページが改訂されています。

- add_allocatable(1M)
- remove_allocatable(1M)
- label_to_str(3TSOL)
- tsol_getrhtype(3TSOL)
- tzonecfg(4)

改訂されたマニュアルページは、manコマンドでは表示できません。改訂されたマニュアルページを確認するには、『[Solaris Trusted Extensions Reference Manual](#)』を参照してください。

Bash 3.00 でいくつかの環境変数が設定されなくなった

Solaris 10 OS には Bash 3.00 が含まれていますが、このシェルでは次の変数が自動的に環境にエクスポートされなくなりました。

- HOME
- PATH
- SHELL
- TERM
- HOSTNAME
- HOSTTYPE
- MACHTYPE
- OSTYPE

この動作変更は、シェルによってこれらの変数にデフォルト値が割り当てられる場合にも適用されます。

回避方法: これらの変数を手動でエクスポートしてください。

新しい ln ユーティリティーには -f オプションが必要

/usr/bin/ln の動作は、SVID3 から XCU6 までのすべての標準に準拠するように変更されました。-f オプションの付かない ln コマンドを使用して既存のターゲットファイルにリンクすると、リンクは確立されません。代わりに、診断メッセージが標準エラーに書き込まれ、残りのリンク元ファイルのリンクが続行されます。最後に、ln コマンドはエラー値を返して終了します。

たとえば、ファイル b がある場合、構文 **ln a b** を実行すると、次のメッセージが生成されます。

```
ln: b: File exists
```

この動作変更は、-f オプションの付かない ln コマンドを含む既存のシェルスクリプトやプログラムに影響します。このため、以前正常に動作していたスクリプトが Solaris 10 OS では失敗することがあります。

回避方法: ln コマンドには -f オプションを付けて使用してください。link ユーティリティーを実行する既存のスクリプトがある場合は、必ずコマンドの新しい動作に適合するようにこれらのスクリプトを変更してください。

新しい tcsh により、ハイフンまたは等号が使われている setenv 変数名が拒否される

Solaris 10 OS では、tcsh はバージョン 6.12 にアップグレードされました。このバージョンは、名前にハイフンや等号が使われている環境変数を受け入れなくなりました。setenv 行を含み、以前の Solaris バージョンで動作するスクリプトを現在の Solaris 10 リリースで実行すると、エラーが生成されることがあります。次のエラーメッセージが表示されます。

```
setenv: Syntax error
```

詳細は、Solaris 10 OS 用の tcsh のマニュアルページを参照してください。

回避方法: 環境変数名にハイフンや等号を使用しないでください。

STDIO getc ファミリのファイル終了条件の動作が変更になった

厳しい標準 C 準拠モードで作成されたアプリケーションは、一部のライブラリ関数の動作変更による影響を受けます。たとえば、cc -xc または c89 準拠モードでコンパイルされたアプリケーションがこれに当たります。動作が変更されたライブラリ関数は次のとおりです。

- fgetc()
- fgets()
- fgetwc()
- fgetws()
- getc()
- getchar()
- gets()
- getwc()
- getwchar()
- getws()

1990 C 標準の正式な解釈では、ファイル終了条件が設定されたら、それ以降の入力操作ではファイルからデータを返さないようにする必要があります。ただし、ファイルポインタの位置を変更したり、アプリケーションによってエラーとファイル終了フラグが明示的にクリアされている場合は例外です。

ほかのすべての準拠モードの動作は変わりません。特に、このインタフェースでは、ファイル終了インジケータの設定後に、新しく書き込まれた追加データをストリームから読み取ることができます。

回避方法: ストリームのファイル終了条件が報告されたあとで追加データを読み取るには、ストリームに対して fseek() または clearerr() を呼び出します。

ps コマンドの出力列が広がった

UID、プロセッサID、および累積実行時間が大きくなったため、ps コマンドの出力列が広がりました。カスタムスクリプトは、出力列が固定されていると仮定しないようにする必要があります。

回避方法: スクリプトでは ps コマンドの `-o` オプションを使用するようにしてください。

詳細は、[ps\(1\)](#) のマニュアルページを参照してください。

Solaris ボリュームマネージャー

Solaris 10 リリースの Solaris ボリュームマネージャーに関するバグ情報について説明します。

Solaris ボリュームマネージャーの metattach コマンドが失敗することがある

ファイルシステムがシリンダ 0 から始まっていない Solaris ボリュームマネージャーのミラー化が存在するルート (/) ファイルシステムの場合には、接続されるサブミラーにシリンダ 0 から始まるものを含めることはできません。

最初のサブミラーがシリンダ 0 から始まらないミラーに、シリンダ 0 から始まるサブミラーを接続しようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
can't attach labeled submirror to an unlabeled mirror
```

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- ルートファイルシステムとほかのサブミラー用のボリュームの両方がシリンダ 0 から始まるようにします。
- ルートファイルシステムとほかのサブミラー用のボリュームの両方がシリンダ 0 から始まらないようにします。

注-JumpStart インストールのデフォルトでは、swap パーティションがシリンダ 0 から始まっていて、ルートファイルシステム / はディスク上のほかの場所から始まっています。システム管理者は通常、スライス 0 をシリンダ 0 から始めようとしています。デフォルトの JumpStart インストールにおいて、スライス 0 上にあるがシリンダ 0 から始まっていないルートパーティションを、別のディスクのシリンダ 0 から始まるスライス 0 にミラー化しようとする、問題が発生する場合があります。その結果、ミラーを追加しようとする際に、エラーメッセージが出力されます。Solaris インストールプログラムのデフォルト動作の詳細については、Solaris 10 インストールガイドを参照してください。

Sun Java Desktop System

この節では、Solaris 10 OS の Sun Java Desktop System (Java DS) に適用される問題について説明します。

電子メールとカレンダー

この節では、電子メールとカレンダーに関する問題について説明します。

認証タイプの変更に関する問題 (6246543)

受信メールサーバーの認証タイプを変更したあとに、電子メールとカレンダーが正しく動作しないことがあります。

回避方法: 電子メールとカレンダーを再起動してください。

ログインの問題

この節では、ログインの問題について説明します。

ログインエラーメッセージ

Java Desktop System セッションにログインしたときに、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Could not look up internet address for hostname.  
This will prevent GNOME from operating correctly.  
It may be possible to correct the problem by adding  
hostname to the file /etc/hosts
```

回避方法: /etc/hosts ファイルにホスト名が正しく設定されていることを確認してください。次の手順を実行します。

1. /etc/hosts ファイルにホスト名を次のように設定します。

```
127.0.0.1 localhost loghost hostname  
localhost.localdomain
```

hostname はシステムの名前です。

2. ホスト名が /etc/nodename ファイルに指定されていることを確認します。このファイルに次の行も追加する必要があります。

```
127.0.0.1 localhost loghost hostname  
localhost.localdomain
```

ヘルプシステム

ボリュームコントロールのヘルプウィンドウが違う (6253210)

Yelp ブラウザを使用してボリュームコントロールのオンラインヘルプを開くと、代わりに「キーボードアクセシビリティ」パネルアプリケーションのヘルプファイルが開きます。

回避方法: ありません。

Mozilla ブラウザ

Mozilla ブラウザから印刷できないドキュメントがある

BMP (Basic Multilingual Plane) 形式ではない Unicode 文字が含まれているドキュメントは、Mozilla ブラウザから印刷できません。

回避方法: ありません。

システムレベルの問題

ユーザー設定の互換性が完全でない

旧バージョンの GNOME デスクトップでは、ホームアカウントのユーザー設定と Java Desktop System Release 3 のユーザー設定との間に完全な互換性がない場合があります。

回避方法: ユーザー設定を設定し直してください。次の手順を実行します。

1. Java Desktop System からログアウトします。

2. 「セッション」をクリックし、「端末の復旧」を選択します。
3. ログインします。
4. 「端末の復旧」ウィンドウで、次のコマンドを入力します。

```
% gnome-cleanup exit
```

5. 再度ログインします。
GNOME 設定が設定し直されました。

StarSuite ソフトウェアのオンライン登録に関する問題 (6208829)

StarSuite ソフトウェアがシステム上に Mozilla を検出できない場合に、StarSuite ソフトウェアのオンライン登録を完了できない場合があります。StarSuite ソフトウェアが電子メールとカレンダーアプリケーションを検出できない場合には、ドキュメントを正常に送信することができません。

回避方法: /usr/sfw/bin を PATH に追加します。次の手順を実行します。

1. 端末ウィンドウを開きます。
2. 次のコマンドを入力します。

```
% export PATH=/usr/sfw/bin:$PATH
```

3. StarSuite ソフトウェアを起動するために、次のコマンドを実行します。

```
% soffice
```

4. StarSuite 登録手順を完了します。

サウンドレコーダに関する問題

サウンドレコーダが new.wav ファイルを録音しているときに、スライダーとサイドカウンタが機能しません。

回避方法: ありません。

Nautilus ACL マスクがグループのアクセス権と同期されない (6464485)

「パーミッション」タブの「グループ」アクセス権と「アクセス」タブの「マスク」アクセス権は同じになるはずですが、状況によっては同期されないことがあります。

回避方法: 「閉じる」 ボタンをクリックし、「リロード」をクリックします。ファイルのプロパティを再度表示します。これで、「グループ」アクセス権と「マスク」アクセス権が同期された状態に戻ります。アクセス権としては、前の手順で変更した「マスク」アクセス権が設定されます。

strftime(3c) は %-m と %-d で GNU 拡張をサポ ートするべき (6448815)

Java DS メニューバーおよび Evolution などの一部のアプリケーションで、中国暦の日付が正しく表示されません。不正な日付は %m M %-d D の形式で表示されます。この M と D は、それぞれ中国暦の月と日です。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. /usr/share/locale/LC_MESSAGES/gnome-panel*.mo ファイルをバックアップします。
2. gnome-panel.gnome-2-16.zh_CN.po を http://l10n.gnome.org/POT/gnome-panel.gnome-2-16/gnome-panel.gnome-2-16.zh_CN.po からダウンロードし、/tmp ディレクトリに保存します。
3. gnome-panel.gnome-2-16.zh_CN.po ファイルを編集して、すべての %-m を %0m で置き換え、%-d を %e で置き換えます。
4. 新しい gnome-panel.gnome-2-16.zh_CN.po ファイルを生成します。

```
msgfmt -v -o gnome-panel.gnome-2-16.zh_CN.mo /tmp/gnome-panel.gnome-2-16.zh_CN.po
```

このファイルを /usr/share/locale/LC_MESSAGES/ ディレクトリにコピーします。

5. システムからログアウトし、再度ログインします。

x86: ビデオカードが 1 枚しかないシステムで全画面の拡大鏡を設定できない

ビデオカードを 1 枚しか使用していない Solaris 10 システムでは、全画面の拡大鏡を設定することはできません。このような構成の場合には、ダミードライバの設定を定義した別の構成ファイルを使用する必要があります。最初に、Xserver が動作していないことを確認します。そのあとに、次の手順を実行してください。

1. コマンド行セッションにログインします。
 - GNOME ディスプレイマネージャーを使用する場合は、次の手順を実行します。
 - a. スーパーユーザーとしてセッションにログインします。
 - b. プロンプトで、`svcadm disable application/gdm2-login` と入力します。

- c. 再度スーパーユーザーとしてログインします。
 - dtlogin を使用する場合は、次の手順を実行します。
 - a. dtlogin ウィンドウで、「オプション」をクリックし、「コマンド行ログイン」を選択します。
 - b. スーパーユーザーとしてログインします。
2. 新しい xorg.conf ファイルを作成します。

```
# /usr/X11/bin/Xorg -configure
```

ルート (/) ディレクトリに xorg.conf.new が作成されます。

3. 新しい構成ファイルを /etc/x11 ディレクトリにコピーし、ファイルの名前を xorg.conf に変更します。

```
# cp /xorg.conf.new /etc/X11/xorg.conf
```

4. 次のサンプル構成を使用して、ファイルの構成を変更します。
- 新しいモニターセクションを追加します。

```
Section "Monitor"
    Identifier      "monitor_dummy"
    ModelName       "dummy"
    HorizSync       10-200
    VertRefresh     20-90
EndSection
```

- 新しいデバイスセクションを追加します。

```
Section "Device"
    BoardName       "dummy"
    Driver           "dummy"
    Identifier       "device_dummy"
    VendorName       "dummy"
    videoram         10000
EndSection
```

注-グラフィックスカードの画面の幅と高さ、および発色数に応じて、videoram 値の調整が必要になる場合があります。値 (K バイト) は、使用する画面に適した大きさにする必要があります。たとえば、幅 * 高さ * bpp / 8 という式を使用して値を計算します。

- 新しい画面セクションを追加します。

```
Section "Screen"
    DefaultDepth 24
```

```

SubSection "Display"
    Depth      24
    Modes      "1280x1024"
EndSubSection
Device       "device_dummy"
Identifier   "screen_dummy"
Monitor      "monitor_dummy"
EndSection

```

注-解像度の値は、システムの設定に応じて調整が必要になる場合があります。

5. ServerLayout セクションで次の行を探します。

```
Screen      0 "Screen0" 0 0
```

6. この行の下に、次の行を挿入します。

```
Screen      1 "screen_dummy" RightOf "Screen0"
```

この追加した行により、Screen1 が定義されます。2 番目のダミー画面として、物理的な主画面である Screen0 の論理的に右側に割り当てられます。

7. 変更を保存します。
8. コマンド行セッションからシステムをリブートします。
 - GDM を使用する場合は、次の操作を実行します。
 - a. **svcadm enable application/gdm2-login** と入力します。
 - b. システムを再起動します。
 - dtlogin を使用する場合は、システムをリブートし、ログインします。
9. Gnopernicus スクリーンリーダーを起動します。
10. 「起動モード」を「拡大鏡」に変更します。
11. 「設定」をクリックしてから、「拡大鏡」を選択します。
12. 「追加/変更」をクリックします。
13. 「拡大鏡」設定に次の値を割り当てます。
 - ソース:0.1
 - 拡大表示の位置:
 - 左と上部:0
 - 右と下部:最大値
14. 「適用」をクリックします。

全画面拡大の画面が上に表示され、Gnopernicus ウィンドウが表示されなくなります。この状態で、全画面拡大を設定することができます。

一部の表示オプションを使用すると、ファイルマネージャーでエラーが発生することがある (6233643)

次の表示オプションを使用すると、ファイルマネージャーでエラーが発生することがあります。

- カタログ表示
- 画像コレクション表示

使用する表示オプションに応じて、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

- エラー:

```
The application nautilus has quit unexpectedly
```

- エラー:

```
The Catalog view encountered an error while starting up
```

- エラー:

```
The Image Collection view encountered an error while starting up
```

回避方法:ありません。これらの問題が発生したら、ファイルマネージャーを再起動するか、クラッシュダイアログボックスで「アプリケーションの再起動」ボタンをクリックしてください。

システム管理

ここでは、Solaris 10 OS のシステム管理に関するバグ情報について説明します。

SPARC: Solaris ボリュームマネージャ GUI が開始に失敗する (6671736)

Solaris ボリュームマネージャ GUI が正常に開始しません。しかし、他のシステムパニックは検出されません。

回避方法: /var/sadm/smc/toolboxes/smc/smc.tbx ファイルから次の行を削除します。

```
<ToolBoxURL>  
  <URL>file:/var/sadm/smc/toolboxes/tsol_files/tsol_files.tbx</URL>  
</ToolBoxURL>
```

```
<ToolBoxURL>  
  <URL>file:/var/sadm/smc/toolboxed/tsol_ldap/tsol_ldap.tbx</URL>  
</ToolBoxURL>
```

x86: add_drv、update_drv、および rem_drv の各コマンドはアドバイザリレコードロッキングを使用する必要がある (6445040)

update_drv コマンドは /tmp/Add Em.lck ロックファイルを直ちに削除しないため、以後の add_drv、update_drv、および rem_drv の各コマンドが失敗します。この問題は、カスタムインストールイメージの作成時に最も多く見られます。このロックファイルはミニルートに同梱されているため、パッケージを追加する試みはすべて失敗します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
add_drv/rem_drv currently busy; try later
```

回避方法: /tmp/AddDrEm.lck ファイルが存在する場合、pkgadd または *_drv コマンドの実行を試みる前に手作業で削除します。

SPARC: FKU 137137-xx では他社製のボリュームマネージャーソフトウェアがサポートされない

FKU 137137-xx パッチでは、いくつかの例外を除き、他社製のボリュームマネージャーソフトウェアがサポートされません。このサポートが欠けているのは、prepatch、postpatch、および postbackout の実装によるためです。サポートされていない他社製のボリュームマネージャーソフトウェアを使用する場合は、FKU パッチを適用できません。パッチのインストール中に次のエラーメッセージが表示されます。

```
unsupported root slice type xxxxx
```

ただし、富士通およびベリタス製のボリュームマネージャーソフトウェアはサポートされています。

回避方法: ありません。

非大域ゾーンが含まれているシステムで patchadd -M を使用してパッチをインストールしてはいけない

非大域ゾーンが含まれているシステムでは、patchadd -M オプションを使用しないことをお勧めします。patchadd -M の現在の実装では、まず大域ゾーンにすべてのパッチが適用され、その次に非大域ゾーンに適用されます。このオプションをお勧めしないのは、いくつかのパッチが大域ゾーンには適用され、非大域ゾーンにはまだ適用されていないときに問題が発生した場合、大域ゾーンと非大域ゾーンの同期が大幅にずれてしまい、回復が困難な状況に陥る可能性があるからです。

回避方法: patchadd -a -M を使用して、パッチセットの有効なインストールシーケンスを作成し、パッチが問題なく確実にインストールされるようにすることができます。

詳細は、BigAdmin Patching Hub の成功事例の記事 (http://www.sun.com/bigadmin/features/articles/patch_management.jsp) を参照してください。

::findleaks コマンドが失敗する (6720107)

Solaris 10 10/09 OS では、mdb デバッガの ::findleaks コマンドは失敗します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
mdb: couldn't walk 'modctl': unknown walk name
```

回避方法: ::findleaks コマンドを使用する前に、::load krtld コマンドを入力します。

vold によって Solaris 10 10/09 の DVD メディアが自動的にマウントされないことがある (6712352)

実行時に、Solaris 10 10/09 DVD はデフォルトではマウントされません。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーになります。
2. vold を無効にします。
 - Solaris 10 システム:

```
# svcadm disable -t volfs
```


- Solaris 8 および Solaris 9 システム:

```
/etc/init.d/volmgt stop
```

3. # mount -F hsfs <ブロックデバイスへのパス> <マウントポイントへのパス> コマンドを使用して手動でメディアをマウントします。次に例を示します。

```
# mount -F hsfs /dev/rdsk/c0t2d0s2 /mnt
```

Solaris Trusted Extensions を有効にしたあとで Solaris 管理コンソールにログインできない (6639493)

Solaris Trusted Extensions を有効にしたあと、Solaris™ 管理コンソールがハングアップし、Solaris 管理コンソールに root としてログインできません。Solaris 管理コンソールがハングアップする際に、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

Configuring the Management Server...

回避方法: 次の手順を実行します。

1. Solaris Trusted Extensions を設定してから、Solaris 管理コンソールを起動します。
2. 「コンソール」メニューから「ツールボックスを開く」を選択します。
3. localhost を選択します (リストに含まれている場合)。
4. localhost がリストに含まれていない場合は、localhost と入力します。
5. Policy=TSOL ツールボックスを選択します。
6. もう一度 Solaris 管理コンソールに root としてログインします。
7. (省略可能) Solaris 管理コンソールへの 2 回目のログインも失敗した場合は、手順 1-5 を繰り返します。その際、手順 3 では localhost ではなく 127.0.0.1 と入力してください。

zoneadm attach コマンドが失敗することがある (6550154)

元のホストと新しいホストに同じパッチレベルのパッケージがインストールされていても、中間のパッチ履歴が異なっている場合は、ゾーンの接続に失敗することがあります。さまざまなエラーメッセージが表示されます。表示されるエラーメッセージは、2つのホストのパッチ履歴によって異なります。

回避方法: 元のホストマシンと新しいホストマシンとで、各パッチが同じバージョン順序で適用されるようにします。

SATA コントローラのレガシーモードと AHCI モードの切り替えを **Solaris** で処理できない (6520224)

AHCI 準拠の SATA コントローラを備えたシステムの場合、通常は BIOS 設定でコントローラを AHCI、レガシー、または RAID モードに設定できます。Solaris は AHCI モードとレガシーモードをサポートしています。

Solaris の初期インストール後は、BIOS の SATA モードの設定を変更してはいけません。Solaris のアップグレードの前後にも、SATA モードの設定を変更してはいけません。Solaris のインストール後に BIOS の SATA モード設定を変更すると、システムがリセットされ、ブートに失敗しますが、その原因は示されません。

回避方法: BIOS 設定を変更した結果ブートに失敗した場合、Solaris をブートするには、元の設定に戻してください。

遅延起動パッチの適用 (6486471)

パッチ 119254-42 および 119255-42 以降、パッチインストールユーティリティー `patchadd` および `patchrm` が変更され、実行中のシステムと互換性のない既存ファイルや新しい機能を提供する一部のパッチの処理方法が変わりました。このユーティリティーの変更は、これらのパッチをどの Solaris 10 リリースにインストールする場合にも影響します。これらの「遅延起動」パッチは、カーネルパッチで提供される広範な変更をより適切に処理します。

遅延起動パッチでは、ループバックファイルシステム `lofs` を使ってルートファイルシステムのコピーが作成されます。パッチ対象の元のファイルは安全な場所にコピーされ、ルートファイルシステムの `lofs` コピーにパッチが適用されます。次に、元のファイルは、パッチが適用された状態で、新しいファイルの上に、`lofs` マウントで戻されます。このことは、パッチを適用している間、実行中のシステムの一貫性が保持され、ユーザーがリブートするまで、新しい機能がアクティブにならず、互換性のない変更がすべて隠されることを意味します。

ユーザーは遅延起動パッチの適用後はできるだけ早くリブートする必要がありますが、即座にリブートする必要はなく、引き続き追加のパッチを適用してからリブートしてもかまいません。

パッチの README には、どのパッチでリブートが必要になるかが説明されています。

注-パッチの操作は、パッチの README で推奨されている場合は特に、シングルユーザーモードで実行することを強くお勧めします。

非大域ゾーンを実行している場合や `lofs` が無効になっている場合は、遅延起動パッチをインストールまたは削除する際に、次の点を考慮してください。

- このパッチ操作のためには、すべての非大域ゾーンを停止状態にする必要があります。パッチを適用する前に非大域ゾーンを停止してください。
- 遅延起動パッチの適用を正常に完了するには、ループバックファイルシステム `lofs` が必要です。Sun Cluster 3.1 か Sun Cluster 3.2 を実行しているシステムは、`lofs` が有効になったときの HA-NFS 機能の制限によって、`lofs` が無効になっている可能性が高いです。したがって、遅延起動パッチをインストールする前に、次の手順に従ってループバックファイルシステムを再度有効にする必要があります。
 1. `/etc/system` ファイルにある次の行を削除するかコメントにします。

```
exclude:lofs
```

2. システムをリポートします。
3. パッチをインストールします。
4. パッチのインストール操作を完了した後、`/etc/system` ファイルから同じ行を復元するか、コメントを解除します。
5. リポートして通常の操作を再開します。

エラーメッセージは表示されません。

回避方法:パッチの適用を管理するには Solaris Live Upgrade をお勧めします。Solaris Live Upgrade は、実行中システムへのパッチ適用の問題を防ぎます。Solaris Live Upgrade は、パッチの適用に伴う停止時間を短縮し、問題発生時のフォールバック機能を提供してリスクを低減します。詳細は、『[Solaris 10 10/09 インストールガイド \(Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画\)](#)』を参照してください。

大規模なファイルシステムで、32 ビットアプリケーションでファイルシステムの状態を取得する際にエラーが発生する可能性がある (6468905)

ZFS などの大規模なファイルシステムで実行されるアプリケーションでは、`statvfs(2)` または `statfs(2)` を使用してファイルシステムの状態に関する情報を取得すると、エラーが発生します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Value too large for defined data type
```

回避方法: アプリケーションでは、代わりに `statvfs64()` を使用するようになっています。

ゾーンに対応していないシステムでは、`patchadd` の `-R` オプションを使用して代替ルートパスを指定することは制限すべき **(6464969)**

ゾーンに対応していない Solaris リリースを実行しているシステムでは、`patchadd -R` コマンドなどの `-R` オプションを受け入れるコマンドを使用して、非大域ゾーンがインストールされている大域ゾーンに代替ルートパスを指定しても、正常に機能しません。

`luupgrade [-t, -T, -p, -P]` コマンドを使用した場合に表示されるエラーメッセージとは異なり、この場合は、コマンドレベルでの妥当な制限の使用に関するエラーメッセージは表示されません。

`-R` オプションが機能しなかったことを示すものは何もありません。このコマンドが失敗した結果として、インストールされているどの非大域ゾーンにも Solaris 10 のパッケージやパッチはインストールされません。

この問題は、パッケージやパッチをインストールまたはアンインストールするときに発生します。

注-代替ブート環境に非大域ゾーンが構成されていても、非大域ゾーンがインストール済みでない場合には、`-R` オプションが機能します。ただし、潜在的な問題を回避するには、あるいは、代替ルートパスとして使用される非大域ゾーンがインストールされているかどうかわからない場合は、常に `-R` オプションの使用を制限してください。

詳細は、次のマニュアルページを参照してください。

- [patchadd\(1M\)](#)
- [patchrm\(1M\)](#)
- [pkgadd\(1M\)](#)
- [pkgrm\(1M\)](#)

回避方法 1: OS を Solaris 10 1/06 リリース以上にアップグレードします。

Solaris 10 3/05 リリースを実行している場合は、次のパッチをインストールして、代替ルートパスを作成するための `-R` オプションを受け入れるコマンドを使用可能にします。

- SPARC ベースのシステムの場合は、パッチ ID 119254-19。
- x86 ベースのシステムの場合は、パッチ ID 119255-19。

回避方法 2: `patchadd -R` コマンドなど、代替ルートパスを作成するための `-R` オプションを受け入れるすべてのコマンドの使用を制限します。

代わりに、代替ルート (Solaris 10 リリースなど) をアクティブ OS としてブートします。その後、`-R` オプションは使用せずに、Solaris 10 のパッケージとパッチのインストールやアンインストールを行います。

Sun Patch Manager Tool 2.0 に旧バージョンとの互換性がない

Sun Patch Manager Tool 2.0 が動作するシステムでは、Sun Patch Manager Tool 1.0 などのパッチマネージャーツールが動作するリモートシステムを管理できます。

ただし、旧バージョンのパッチマネージャーツールが動作するシステムで、Patch Manager Tool 2.0 が動作するリモートシステムを管理することはできません。旧バージョンは次のとおりです。

- Sun Patch Manager Base Software 1.x
- Sun Patch Manager Tool 1.0

注 - Solaris 8 OS にはパッチマネージャーツール用の CIM/WBEM (Common Information Model/Web Based Enterprise Management) サポートがありません。したがって、Solaris 8 システムではパッチマネージャによるリモート管理が行えません。

既存のディスクレスクライアントをシステムから削除できない (6205746)

`smdiskless` コマンドを使用してディスクレスクライアントを削除すると、コマンドは失敗します。ディスクレスクライアントは、システムデータベースから削除されません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Failing with error EXM_BMS.
```

回避方法: クライアントを追加する前に、`/export` パーティションの共有を解除してください。

SPARC: smosservice delete コマンドですべてのディレクトリが正常に削除されるとは限らない (6192105)

smosservice delete コマンドを使用してディスククライアントサービスを削除した場合、すべてのサービスディレクトリが正常に削除されるとは限りません。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. そのサービスを使用するクライアントが存在しないことを確認します。

```
# unshare /export/exec/Solaris_10_sparc.all
# rm -rf /export/exec/Solaris_10_sparc.all
# rm -rf /export/exec/.copyofSolaris_10_sparc.all
# rm -rf /export/.copyofSolaris_10
# rm -rf /export/Solaris_10
# rm -rf /export/share
# rm -rf /export/root/templates/Solaris_10
# rm -rf /export/root/clone/Solaris_10
# rm -rf /tftpboot/inetboot.sun4u.Solaris_10
```

2. 次のエントリを /etc/bootparams ファイルから削除します。

```
fs1-24 boottype=:os
```

注- このエントリを削除するのは、このファイルサーバーが関数や資源をほかのサービスに提供していない場合に限られます。

3. 次のエントリを /etc/dfs/dfstab ファイルから削除します。

```
share -F nfs -o ro /export/exec/Solaris_8_sparc.all/usr
```

4. /var/sadm/system/admin/services/Solaris_10 ファイルを変更します。
 - ファイルサーバーが Solaris_10 でない場合は、そのファイルを削除します。
 - ファイルサーバーが Solaris_10 である場合は、冒頭の3行を残し、あとのエントリをすべて削除します。削除した行は、/export/root/templates/Solaris_10 に含まれるサービス USR_PATH および SPOOLED ROOT のパッケージとサポートされるプラットフォームを示します。

特定システムに関する注意事項

この章では、Sun のミッドレンジサーバーおよびハイエンドサーバーに固有の注意事項について説明します。現在の Sun のサーバーは Sun Fire システムファミリーに含まれます。古いサーバーは Sun Enterprise システムファミリーに含まれます。

注 - Sun Validation Test Suite リリースノートは分離したマニュアルとなりました。これは <http://sun.com> で参照できます。

Sun Fire ハイエンドシステムでの動的再構成

ここでは、Solaris 10 ソフトウェアを実行している Sun Fire ハイエンドシステムでのドメイン側の動的再構成 (DR) の主なバグについて説明します。

- Sun Fire 25K
- Sun Fire 20K
- Sun Fire 15K
- Sun Fire 12K

Sun Management Services での DR のバグについては、使用しているシステムで実行されている SMS のバージョンに対応した『SMS ご使用にあたって』を参照してください。

注 - この情報は、ここに記載されているサーバーで実行される DR だけに当てはまりません。ほかのサーバーでの DR については、サーバーのリリースノート、プロダクトノート、または説明が記載された節を参照してください。

ソフトウェアおよびハードウェアの既知のバグ

Sun Fire ハイエンドシステムに関するソフトウェアおよびハードウェアのバグ情報について説明します。

GigaSwift Ethernet MMF のリンクが、DR 接続後の CISCO 4003 スイッチで停止する

Sun GigaSwift Ethernet MMF Option X1151A を備えたシステムと一部の CISCO スイッチの間でリンクが失敗します。次のいずれかのスイッチに接続されているシステムで DR 操作を実行しようとする、この失敗が発生します。

- CISCO WS-c4003 スイッチ (ファームウェア: WS-C4003 Software, Version NmpSW: 4.4(1))
- CISCO WS-c4003 スイッチ (ファームウェア: WS-C4003 Software, Version NmpSW: 7.1(2))
- CISCO WS-c5500 スイッチ (ファームウェア: WS-C5500 Software, Version McpSW: 4.2(1) および NmpSW: 4.2(1))

この問題は CISCO 6509 スイッチでは見られません。

回避方法: 別のスイッチを使用するか、一覧に示したスイッチのパッチについて Cisco 社にお問い合わせください。

Sun Fire ミッドレンジシステムでの動的再構成

ここでは、次の Sun Fire ミッドレンジシステムでの動的再構成 (DR) に関連する重要な問題について説明します。

- Sun Fire E6900
- Sun Fire E4900
- Sun Fire E6800
- Sun Fire E4810
- Sun Fire E4800
- Sun Fire E3800

注 - この情報は、ここに記載されているサーバーで実行される DR だけに当てはまりません。ほかのサーバーでの DR については、サーバーのリリースノート、プロダクトノート、または説明が記載された節を参照してください。

最小構成のシステムコントローラファームウェア

表 3-1 で、Solaris ソフトウェアと、DR を実行する各 Sun Fire ミッドレンジシステムのシステムコントローラ (SC) ファームウェアの許容可能な組み合わせを示します。

注 - 最新のファームウェア機能とバグ修正を利用するには、Sun Fire ミッドレンジシステム上で最新の SC ファームウェアを実行してください。最新のパッチについては、<http://sunsolve.sun.com> を参照してください。

表 3-1 各プラットフォームと Solaris リリースの組み合わせで最小構成の SC ファームウェア

プラットフォーム	Solaris リリース	最小構成の SC ファームウェア
UltraSPARC IV+ が搭載された Sun Fire E6900/E4900	Solaris 10 3/05 HW1 (限定リリース) または Solaris 10 1/06	5.19.0
UltraSPARC IV+ が搭載されていない E6900/E4900	Solaris 9 4/04	5.16.0
Sun Fire 6800/4810/4800/3800	Solaris 9 4/04	5.16.0
Sun Fire 6800/4810/4800/3800	Solaris 9	5.13.0

Sun Fire ミッドレンジシステムのシステムファームウェアは、ファームウェアイメージが格納されている FTP または HTTP サーバーに接続することによってアップグレードすることができます。詳細は、README ファイルと Install.info ファイルを参照してください。これらのファイルは、使用しているドメインで動作中のファームウェアリリースに含まれています。パッチは、Web サイト (<http://sunsolve.sun.com>) で入手できます。

DR ソフトウェアの既知のバグ

ここでは、DR に関する重要なバグについて説明します。

プログラムでネットワークデバイスが開いた状態に保持されていると、デバイスの取り外しが失敗する (5054195)

プロセスによってネットワークデバイスが開いた状態に保持されていると、そのデバイスが関連する DR 操作はすべて失敗します。参照カウントを保持しているデーモンやプロセスによって、DR 操作が中止されます。

回避方法: スーパーユーザーとして次の手順を実行します。

1. /rplboot ディレクトリを削除するか、またはディレクトリ名を変更します。
2. NFS サービスを停止します。

```
# sh /etc/init.d/nfs.server stop
```

3. ブートサーバーサービスを停止します。

```
# sh /etc/init.d/boot.server stop
```

4. DR による切り離し操作を実行します。
5. NFS サービスを再起動します。

```
# sh /etc/init.d/nfs.server start
```

6. ブートサーバーサービスを再起動します。

```
# sh /etc/init.d/boot.server start
```

Sun Enterprise 10000 に関するリリース情報

ここでは、Sun Enterprise 10000 サーバーでの次の機能に関連する注意事項について説明します。

- システムサービスプロセッサの要件
- 動的再構成 (DR)
- InterDomain Networks (IDNs)
- Sun Enterprise 10000 ドメイン上の Solaris オペレーティングシステム

注 - Solaris 10 ソフトウェアは、Sun Enterprise 10000 システム内の個々のドメイン上で実行できます。ただし、このリリースでは、Sun Enterprise 10000 システムサービスプロセッサはサポートされていません。

システムサービスプロセッサの要件

システムサービスプロセッサ (SSP) で Solaris 10 ソフトウェアをサポートするには、SSP 3.5 ソフトウェアが必要です。まず、SSP 3.5 を SSP にインストールしてください。その後、Sun Enterprise 10000 ドメインで Solaris 10 OS のインストールやアップグレードを行うことができます。

SSP 3.5 ソフトウェアは、ドメインを DR モデル 3.0 用に正しく構成するためにも必要です。

動的再構成に関する注意事項

ここでは、Sun Enterprise 10000 ドメインでの動的再構成 (DR) に関連する注意事項について説明します。

DR モデル 3.0

Solaris 9 12/03 リリース以降の Solaris OS が動作している Sun Enterprise 10000 ドメインでは、DR モデル 3.0 を使用する必要があります。DR モデル 3.0 とは、SSP 上で次のコマンドを使用してドメイン DR 操作を実行する機能のことです。

- addboard
- moveboard
- deleteboard
- showdevices
- rcfgadm

ドメインで `cfgadm` コマンドを実行して、ボードの状態情報を取得することもできます。DR モデル 3.0 は、Reconfiguration Coordination Manager (RCM) とのインタフェースを通じて、ドメインで動作しているほかのアプリケーションとの DR 操作の調整も行います。

DR モデル 3.0 の詳細は、『Sun Enterprise 10000 Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』を参照してください。

DR と結合ユーザープロセス

この Solaris リリースでは、DR は切り離された CPU とユーザープロセスとの結合解除を自動的に実行しません。切り離し操作を開始する前に、手動でこの操作を実行する必要があります。プロセスが結合されている CPU が検出されると、ドレイン操作が失敗します。

プログラムでネットワークデバイスが開いた状態に保持されていると、デバイスの取り外しが失敗する (5054195)

プロセスによってネットワークデバイスが開いた状態に保持されていると、そのデバイスが関連する DR 操作はすべて失敗します。参照カウントを保持しているデーモンやプロセスによって、DR 操作が中止されます。

回避方法: スーパーユーザーとして次の手順を実行します。

1. `/rplboot` ディレクトリを削除するか、またはディレクトリ名を変更します。
2. NFS サービスを停止します。

```
# sh /etc/init.d/nfs.server stop
```

3. ブートサーバーサービスを停止します。

```
# sh /etc/init.d/boot.server stop
```

4. DR による切り離し操作を実行します。
5. NFS サービスを再起動します。

```
# sh /etc/init.d/nfs.server start
```

6. ブートサーバーサービスを再起動します。

```
# sh /etc/init.d/boot.server start
```

InterDomain Networks

ドメインを InterDomain Network に接続する場合、そのドメインにあるボードのうち、メモリーが動作しているボードについては、動作中の CPU が少なくとも 1 つ必要です。

OpenBoot PROM 変数

OpenBoot PROM プロンプト (OK) で `boot net` コマンドを実行する前には、`local-mac-address?` 変数が `false` に設定されていることを確認してください。これは出荷時のデフォルト値です。この変数の値が `true` になっている場合は、この値がローカルな構成として適切かどうかを確認してください。



注意 - `local-mac-address?` が `true` に設定されていると、ネットワーク上でのそのドメインのブートが正しく行われない場合があります。

netcon ウィンドウでは、OpenBoot PROM プロンプトで次のコマンドを使用して、OpenBoot PROM 変数の値を表示できます。

```
OK printenv
```

`local-mac-address?` 変数をデフォルト値にリセットするには、`setenv` コマンドを使用します。

```
OK setenv local-mac-address? false
```

Sun Enterprise ミッドレンジシステムでの動的再構成

ここでは、Solaris 10 ソフトウェアを実行する次のようなミッドレンジサーバーでの動的再構成 (DR) 機能について、最新情報を提供します。

- Sun Enterprise 6x00
- Sun Enterprise 5x00
- Sun Enterprise 4x00
- Sun Enterprise 3x00

Sun Enterprise サーバーの DR の詳細については、『Sun Enterprise 6x00、5x00、4x00、3x00 システム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』を参照してください。Solaris 10 リリースは、上記のリストに示したシステムのすべての CPU/メモリーボードとほとんどの入出力ボードをサポートしています。

サポートするハードウェア

DR を実行する前に、システムが動的再構成をサポートしていることを確認してください。システム的设计が古い場合は、コンソールまたはコンソールログに次のようなメッセージが表示されます。このようなシステムは動的再構成をサポートしていません。

```
Hot Plug not supported in this system
```

次の入出力ボードは現在サポートされていません。

- タイプ 2 (グラフィックス)
- タイプ 3 (PCI)
- タイプ 5 (グラフィックスと SOC+)

ソフトウェアに関する注意事項

ここでは、DR に関する一般的なソフトウェア情報について説明します。

動的再構成を有効にする

動的再構成を有効にするには、`/etc/system` ファイルで 2 つの変数を設定します。また、CPU/メモリーボードの取り外しを有効にするために、もう 1 つの変数を設定する必要があります。次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. `/etc/system` ファイルを編集して、次の行を追加します。

```
set pln:pln_enable_detach_suspend=1
set soc:soc_enable_detach_suspend=1
```

3. CPU/メモリーボードの取り外しを有効にするには、次の行をファイルに追加します。

```
set kernel_cage_enable=1
```

この変数の設定により、メモリーの構成解除が可能になります。

4. 変更を適用するために、システムをリブートします。

休止テスト

次のコマンドを使用して、休止テストを開始できます。

```
# cfgadm -x quiesce-test sysctrl0:slot number
```

システムの規模が大きい場合は、休止テストの実行に1分近くかかる場合もあります。この間、`cfgadm`が互換性のないドライバを検出しなかった場合はメッセージはまったく表示されませんが、これは正常な動作です。

使用不可ボードリスト

使用不可ボードリストに登録されているボードに接続処理を実行しようとする
と、次のエラーメッセージが出力されることがあります。

```
# cfgadm -c connect sysctrl0:slotnumber
```

```
cfgadm: Hardware specific failure: connect failed:  
board is disabled: must override with [-f][-o enable-at-boot]
```

リストへの登録を無効にして使用可能な状態にするには、2つの方法があります。

- 強制フラグ(-f)を使用する

```
# cfgadm -f -c connect sysctrl0:slot number
```

- 使用可能設定オプション(-o enable-at-boot)を使用する

```
# cfgadm -o enable-at-boot -c connect sysctrl0:slot  
number
```

使用不可ボードリストからすべてのボードを削除するには、コマンドを入力するプロンプトに応じて、次のいずれかの手順を実行します。

- スーパーユーザーのプロンプトからは、次のように入力します。

```
# eeprom disabled-board-list=
```

- OpenBoot PROM プロンプトからは、次のように入力します。

```
OK set-default disabled-board-list
```

disabled-board-list 変数の設定については、『特記事項: Sun Enterprise 6x00、5x00、4x00、3x00 システム』の「固有の NVRAM 変数」の節を参照してください。このマニュアルは、このリリースのマニュアルセットに含まれています。

使用不可メモリーリスト

OpenBoot PROM コマンドの disabled-memory-list 変数の設定については、このリリースで公開されています。Solaris Sun ハードウェアマニュアルの『特記事項: Sun Enterprise 6x00、5x00、4x00、3x00 システム』の「固有の NVRAM 変数」を参照してください。

切り離し危険ドライバの読み込み解除

切り離し危険ドライバの読み込みを解除するには、modinfo コマンドを使用してドライバのモジュール ID を確認し、modunload コマンドでそのモジュール ID を指定します。

接続処理中のセルフテストの失敗

DR 機能を利用してボードに接続処理を実行しているときに次のようなメッセージが表示された場合は、ボードのセルフテストでエラーが発生しています。すぐにシステムからボードを取り外してください。

```
cfgadm: Hardware specific failure: connect failed: firmware operation error
```

ボードを取り外すことで、システムのリブート時に再構成エラーが起こるのを回避できます。

セルフテストに失敗した状態では、それ以上操作を実行できません。したがって、失敗した操作をすぐに実行し直す場合は、ボードをいったん取り外して操作可能な状態に戻してから、取り付け直してください。

既知の障害

次の情報は随時変更されることがあります。

プログラムでネットワークデバイスが開いた状態に保持されていると、デバイスの取り外しが失敗する (5054195)

プロセスによってネットワークデバイスが開いた状態に保持されていると、そのデバイスに関連する DR 操作はすべて失敗します。参照カウントを保持しているデーモンやプロセスによって、DR 操作が中止されます。

回避方法: スーパーユーザーとして次の手順を実行します。

1. /rplboot ディレクトリを削除するか、またはディレクトリ名を変更します。

2. NFS サービスを停止します。

```
# sh /etc/init.d/nfs.server stop
```

3. ブートサーバーサービスを停止します。

```
# sh /etc/init.d/boot.server stop
```

4. DR による切り離し操作を実行します。
5. NFS サービスを再起動します。

```
# sh /etc/init.d/nfs.server start
```

6. ブートサーバーサービスを再起動します。

```
# sh /etc/init.d/boot.server start
```


◆◆◆ 第 4 章

サポート中止に関する情報

この章では、製品のサポート中止情報について説明します。

注 - Solaris 10 OS メディアキットには、Solaris 10 OS ソフトウェア以外に、Solaris OS 用および Solaris Companion CD 用の開発キットが含まれています (便利で一般的なテクノロジーが、サポート対象外の付加価値フリーソフトウェアとして提供されているものです)。 <http://www.sun.com/service/serviceplans/solaris/10/> の情報には、Solaris 10 OS メディアキットのコンポーネントの一覧が記載されています。また、SunSpectrum プログラムおよび Sun ソフトウェアサポート契約の下でこれらのコンポーネントに提供されるサポートについても記載されています。

将来のリリースで提供されなくなる予定の製品

ここでは、Solaris オペレーティングシステムの将来のリリースに適用される、ソフトウェアのサポート中止情報について説明します。

@euro のロケールバリエーション

次の @euro ロケールバリエーションは、Solaris の将来のリリースで削除される可能性があります。

ca_ES.ISO8859-15@euro

de_AT.ISO8859-15@euro

de_DE.ISO8859-15@euro

de_DE.UTF-8@euro

el_GR.ISO8859-7@euro

en_IE.ISO8859-15@euro

es_ES.ISO8859-15@euro

es_ES.UTF-8@euro

fi_FL.ISO8859-15@euro	fr_BE.ISO8859-15@euro
fr_BE.UTF-8@euro	fr_FR.ISO8859-15@euro
fr_FR.UTF-8@euro	it_IT.ISO8859-15@euro
it_IT.UTF-8@euro	nl_BE.ISO8859-15@euro
nl_NL.ISO8859-15@euro	pt_PT.ISO8859-15@euro

対応する、バリエーションではないロケールを使用してください。

StarSuite

StarSuite 統合オフィスツールは、Solaris の将来のリリースで利用できなくなる可能性があります。StarSuite のコピーを Sun ストア (<http://globalspecials.sun.com>) から直接購入するか、OpenOffice.org 統合オフィスツールに移行してください。

ucblinks

SunOS 4.x デバイス名のリンクを /dev ディレクトリに作成する ucblinks 機能は、Solaris 10 の将来のリリースではサポートされない可能性があります。Solaris の現在のリリースは、SunOS 5.x のデバイス名を使用しています。

次の表は、将来削除される可能性がある SunOS 4.x のデバイス名リンクの一覧です。

SunOS 4.x のデバイス名	デバイスの種類
/dev/[r]fd%d	fd フロッピー
/dev/[r]sr%d	sd/atapi CD-ROM
/dev/[r]sd%d	sd ディスク
/dev/[r]n%d	st テープ

次の表は、現行の SunOS 5.x のデバイス名リンクの一覧です。

SunOS 5.x のデバイス名	デバイスの種類
/dev/[r]diskette	fd フロッピー
/dev/[r]dsk/*	sd/atapi CD-ROM

SunOS 5.xのデバイス名	デバイスの種類
/dev/[r]dsk/*	sd ディスク
/dev/rmt/*	st テープ

Xprt サーバーと Xprint 拡張機能

X Window システムへの Xprt サーバーと Xprint 拡張機能は、Solaris の将来のリリースには含まれない可能性があります。libXp ライブラリは、バイナリ互換性のために保持されます。これによって、このソフトウェアを既に使用しているユーザーは、Solaris 10 および Solaris のそれ以前のリリースを実行している Xprt サーバー、または他のプラットフォームによる Xprint 実装へ、引き続きネットワーク経由で印刷を実行できます。

xmh コマンド

xmh コマンドは、Solaris の将来のリリースには含まれない可能性があります。サポートされる電子メール GUI は Thunderbird および Evolution です。

XIE ライブラリ

XIE ライブラリは、Solaris の将来のリリースには含まれない可能性があります。

bdfosnf コマンドおよび showsnf コマンド

bdfosnf コマンドおよび showsnf コマンドは、Solaris の将来のリリースには含まれない可能性があります。

PostgreSQL 8.1 および 8.2

PostgreSQL バージョン 8.1 および 8.2 は、将来の Solaris リリースでサポートされなくなる可能性があります。

ロケールバリエーション cz

チェコ語ロケールの短いバリエーション cz は、将来の Solaris リリースで削除される可能性があります。ユーザーは代わりに次のチェコ語ロケールを使用するようにしてください。

- cs_CZ
- cs_CZ.ISO8859-2
- cs_CZ.UTF-8
- cs_CZ.UTF-8@euro

Solaris 監査コマンド

次の Solaris 監査インタフェースは、将来の Solaris リリースで同等の機能に置き換えられる可能性があります。

- audit_startup(1M)
- bsmconv(1M)
- bsmrecord(1M)
- bsmunconv(1M)
- audit_control(4)

xorgcfg および xorgconfig ユーティリティー

xorg.conf ファイルを生成するための xorgcfg および xorgconfig ユーティリティーは、将来の Solaris リリースで使用できなくなる可能性があります。

多くの場合、Xorg(1) サーバーは xorg.conf(4) ファイルを必要とせず、このファイルが存在しない場合は自身を自動構成します。デフォルトの構成がユーザーのニーズに合わない場合は、次のいずれかの代替方法を使ってカスタマイズ用の xorg.conf ファイルを生成するようにしてください。

- サーバーがまだ稼働していない場合は、`/usr/X11/bin/Xorg -configure` によってシステム内で現在検出されるハードウェア用のサンプル構成ファイルが提供されます。
- Xorg が構成ファイルを使わずに起動する場合は、Xorg が自動的に生成する xorg.conf データが `/var/log/Xorg.0.log` ログファイルに記録されます。xorg.conf データは、カスタマイズ用の xorg.conf ファイルにもコピーされることがあります。
- NVidia グラフィックスデバイスのユーザーは、提供された `nvidia-settings(1)` および `nvidia-xconfig(1)` ユーティリティーを使ってデバイス固有の構成を生成または更新するようにしてください。
- SPARC プラットフォームの Sun グラフィックスデバイスのユーザーは、`fbconfig(1)` ユーティリティーを使ってデバイス固有の構成を生成または更新するようにしてください。

監査ファイルサイズ統計およびファイルサイズ制限のインタフェース

監査ファイルサイズ統計およびファイルサイズ制限のインタフェース `getfsize` および `setfsize` は、`auditon(2)` システムコール内にある同様の名前の付いたサブコマンドと、`auditconfig(1M)` コマンドに渡されるオプションから構成されますが、将来の Solaris リリースでサポートされなくなる可能性があります。

Berkeley DB 4.2

Oracle Berkeley DB (BDB) 4.2 は、将来の Solaris リリースでサポートされなくなる可能性があります。

audiorecord および audioplay アプリケーションの一部のスイッチ

`audiorecord` と `audioplay` の両アプリケーションの `-p` および `-b` スイッチと、`audiorecord` アプリケーションの `-m` スイッチは、将来の Solaris リリースで削除される可能性があります。

コマンド行にファイル名が指定されていない場合、標準入力と標準出力が `tty` でないと、これらのアプリケーションはどちらもエラーで終了します。これらのアプリケーションで加えられたオーディオ音量設定の変更はインスタンス間で持続されません。オーディオデバイスの設定を調整するには、`mixerctl(1)` および `gnome-volume-control(1)` アプリケーションに移行するようにしてください。

CD メディア

将来の Solaris リリースでは、Solaris 10 OS が CD では利用できなくなる可能性があります。

インバウンドのオープンソースおよびサードパーティーベンダー提供のオープンソースコンポーネントの方針転換

オープンソースコミュニティが Mozilla などのインバウンドのオープンソースコンポーネントの開発を中止したときは、Sun でもこの製品バージョンの開発とサポート活動をすべて中止します。Sun では、管理している製品の EOSL (End-of-Software Support List) を <http://www.sun.com/service/index.jsp> で公開し、サポートが中止されるコンポーネントの情報でそのリストを毎月更新します。

Mozilla 1.X のサポート

Solaris 10 10/08 リリース以降、新たなインバウンドのオープンソースコンポーネントの方針転換を受けて、Mozilla™ 1.X ソフトウェアのサポートは中止されました。ユーザーは Firefox にアップグレードするようにしてください。

x86: sbpro ドライバ

SoundBlaster Pro、SoundBlaster 16、および SoundBlaster AWE32 ISA デバイス用の Sound Blaster Pro デバイスドライバ (sbpro) は、将来のリリースでサポートされなくなる可能性があります。

CacheFS

CacheFS ファイルシステムは、将来の Solaris リリースでサポートされなくなる可能性があります。

sdtudctool

sdtudctool は、将来の Solaris リリースで使用できなくなる可能性があります。詳細は、『User Defined Characters Migration Guide』 (http://developers.sun.com/global/products_platforms/solaris/reference/techart/UDCGuide.html) の移行に関する説明を参照してください。

SPARC: SBus グラフィックスカード用の cg6 ドライバ

次の SBus グラフィックスカード用の cg6 ドライバは、将来のリリースに含まれない可能性があります。

- GX
- GXplus
- TurboGX
- TurboGXplus

ctlmp および ctlconvert_txt

/usr/openwin/bin/ctlmp および /usr/openwin/bin/ctlconvert_txt ユーティリティは、将来の Solaris リリースでサポートされなくなる可能性があります。代わりに、mp(1) 印刷フィルタなどの適切な印刷機構を使用するようにしてください。

genlayouttbl ユーティリティー

複合文字言語 (CTL) のデータを CDE/Motif GUI ツールキットに提供する `genlayouttbl(1)` ユーティリティーは、将来のリリースで使用できなくなる可能性があります。

モバイル IP

`mipagent(1M)` のマニュアルページに記載されている Mobile IPv4 機能は、将来の Solaris リリースで提供されなくなる可能性があります。

Gnopernicus

Java DS のスクリーンリーダー Gnopernicus は、将来の Solaris リリースで提供されなくなる可能性があります。代わりに Orca スクリーンリーダーを使用するようにしてください。

Xsun サーバー

X ウィンドウシステムの Xsun サーバーは、将来の Solaris リリースで提供されなくなる可能性があります。Xorg サーバーに移行するようにしてください。

Display Postscript (DPS) や X イメージング拡張機能 (XIE) など、Xsun では提供されているが Xorg では提供されていない機能は、含まれなくなる可能性があります。

共通デスクトップ環境

共通デスクトップ環境 (CDE) は、将来の Solaris リリースで提供されなくなる可能性があります。ユーザーは Java Desktop System に移行するようにしてください。

CDE イメージビューア

CDE のイメージビューア `sdtimage` は、将来の Solaris リリースで提供されなくなる可能性があります。画像ファイルを開くには、GNOME Open `gnome-open` に移行するようにしてください。

Sun Java System Calendar Server のクライアントアプレット

Sun Java System Calendar Server のクライアントアプレットである Now アプレットは、将来の Solaris リリースで提供されなくなる可能性があります。

DARPA 簡易ネームサーバー

DARPA 簡易ネームサーバー `in.tnamed(1M)` は、将来の Solaris リリースで提供されなくなる可能性があります。同様の機能は、インターネットドメインネームサーバー `named(1M)` で提供されています。

I2O Intelligent I/O

I2O Intelligent I/O ドライバフレームワークおよび対応するすべてのドライバは、将来の Solaris リリースでサポートされなくなる可能性があります。これには、`i2o_bs(7D)` と `i2o_scsi(7D)` ドライバ、および I2O に関連するすべての機能が含まれます。

PDF ファイルおよび PostScript ファイルの GNOME ビューア

PDF ファイルおよび PostScript™ ファイルの GNOME ビューアは、将来の Solaris リリースで提供されなくなる可能性があります。代替アプリケーションで PDF ファイルと PostScript ファイルの表示が可能になる予定です。

グラフィカルなスマートカード管理インタフェース

グラフィカルなスマートカード管理インタフェース `sdtsmartcardadmin(1M)` は、将来の Solaris リリースで提供されなくなる可能性があります。同じ機能が `smartcard(1M)` コマンドに用意されています。

iButton スマートカード

`ocf_ibutton(7d)` で説明されている Dallas Semiconductor 製 iButton Java Card スマートカードおよび OCF (OpenCard Framework) の端末ドライバは、将来の Solaris リリースでサポートされなくなる可能性があります。`libpcsclite(3lib)` でサポートされているほかのスマートカードデバイスに移行するようにしてください。

Cyberflex スマートカード

Cyberflex スマートカードは、将来の Solaris リリースの `pam_smartcard(5)` コマンドおよび `smartcard(1m)` コマンドでサポートされなくなる可能性があります。 `libpcsc-lite(3lib)` でサポートされているほかのスマートカードデバイスとカードに移行するようにしてください。

PAM スマートカード

PAM スマートカードモジュール `pam_smartcard(5)` は、将来の Solaris リリースで提供されなくなる可能性があります。

OCF/SCF スマートカードフレームワーク

OCF/SCF スマートカードフレームワークは、将来の Solaris リリースで提供されなくなる可能性があります。 `ocfserv(1M)` の機能は、 `pcscd(1M)` によって提供されます。 `smartcard(1M)` のカードプロビジョニング機能は、 `muscletool(1M)` によって提供されます。 `smartcard(1M)` によって提供されるドライバ構成機能は、通常は `pcscd(1M)` には必要ありません。ただし、システム管理者は必要な場合に `reader.conf(4)` ファイルを編集することができます。

SCF スマートカード API

`libsmartcard` と `smartcard.jar` によってエクスポートされる SCF (SmartCard Framework) インタフェースは、将来の Solaris リリースで提供されなくなる可能性があります。これらのインタフェースは旧式となりました。新しい C アプリケーションを作成するときは、 `libpcsc-lite(3lib)` からエクスポートされる PS/SC インタフェースを使用するようにしてください。現時点では、SCF Java インタフェースの代替は計画されていません。

Remote Program Load サーバー機能

`rpld(1M)` および `rpld.conf(4)` によって提供される RPL (Remote Program Load) サーバー機能は、将来の Solaris リリースで提供されなくなる可能性があります。

Sun4V システムのデフォルトの Ethernet ドライバが ipge から e1000g NIC ドライバに移行

Sun4V システム用の ipge ドライバとそのすべての SUNWipge パッケージは、将来の Solaris リリースで提供されなくなる可能性があります。Solaris 10 8/07 リリース以降、Ontario やほかの SPARC プラットフォームは ipge ドライバから e1000g ドライバに移行します。Intel 1G チップセットを使用しているすべての Sun プラットフォームで、e1000g ドライバがデフォルトの Ethernet ドライバになります。

Solstice Enterprise Agents のサポート

次の Solstice Enterprise Agents™ (SEA) エージェント、ライブラリ、およびパッケージは、将来の Solaris リリースでサポートされなくなる可能性があります。

- SEA ベースの SNMP マスターエージェントおよびサブエージェント
- libssagent および libssasnm ライブラリ
- SUNWsacom、SUNWsasnm、SUNWmibii パッケージ

システム管理エージェント (System Management Agent、SMA) は、前述のソースに対して同様の機能を提供します。

32 ビット x86: 拡張メモリーファイルシステムのサポート

拡張メモリーファイルシステム (xmemfs) は、将来のリリースでサポートされなくなる可能性があります。

詳細は、xmemfs(7FS) のマニュアルページを参照してください。

Standard Type Services Framework のサポート

Standard Type Service Framework (STSF) は、将来の Solaris リリースで使用できなくなる可能性があります。

これには次のものが含まれます。

- libST および libXst ライブラリ
- xstls コマンド
- stfsloader サービス
- Xsun および Xorg サーバーの XST 拡張機能

この機能は、次のいずれかの代替ソースにあります。

- libX11
- libXft2

SPARC: jfca ドライバのサポート

JNI Fibre Channel Adapter (jfca) ドライバは、将来の Solaris リリースで使用できなくなる可能性があります。

詳細は、jfca(7D) のマニュアルページを参照してください。

zic -s オプションのサポート

zic コマンドの -s オプションは、将来の Solaris リリースで使用できなくなる可能性があります。

詳細は、zic(1M) のマニュアルページを参照してください。

リムーバブルボリューム管理のサポート

ボリューム管理デーモン (vold)、ボリューム管理ファイルシステム (volfs)、および関連するボリューム管理コマンドは、将来の Solaris リリースに組み込まれなくなる可能性があります。

リムーバブルメディアの自動マウントおよびマウント解除は、引き続きサポートされます。

詳細は、vold(1M) および volfs(7FS) のマニュアルページを参照してください。

32 ビット x86: コントローラデバイスとドライバ

次のデバイスは、将来の Solaris リリースでサポートされなくなる可能性があります。

- IBM PC ServeRAID SCSI
- IBM ServeRAID II Ultra SCSI
- IBM ServeRAID-3 Ultra2 SCSI

また、これらのコントローラに用のデバイスドライバもサポートされなくなる可能性があります。

64 ビット SPARC: デュアル基本速度 ISDN インタフェースとマルチメディアコーデックチップ

T5900FC デュアル基本速度 ISDN インタフェース (DBRI) および関連するマルチメディアコーデックチップは、将来の Solaris リリースでサポートされなくなる可能性があります。また、これらのデバイス用のデバイスドライバもサポートされなくなる可能性があります。

SPARC: 将来の Solaris リリースでサポートされなくなる可能性がある特定のドライバ

次のドライバは将来の Solaris リリースでサポートされなくなる可能性があります。

- SUNWrtvc: SunVideo™ リアルタイムビデオキャプチャーおよび圧縮カード用デバイスドライバ
- SUNWdial: ダイアルとボタンデバイス用ストリームモジュール
- SUNWdialh: ダイアルとボタンデバイス用ヘッダーファイル

自動セキュリティー拡張ツールのサポート

/usr/aset ディレクトリ内の自動セキュリティー拡張ツール (ASET) によって提供されるチェックサム機能は、将来の Solaris リリースで使用できなくなる可能性があります。

この機能は、次のいずれかの代替ソースにあります。

- Solaris 10 OS の基本監査報告ツール、bart
- Solaris Security Toolkit (<http://www.sun.com/software/security/jass/>)
- Solaris Fingerprint Database (<http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=content/content7>)

アジアの短縮 dtlogin 名

次にリストするアジアの短縮ロケール名は、将来のリリースでは dtlogin 言語リストに含まれない可能性があります。

- zh
- ko
- zh_TW

Solaris 8 リリース以降、下記を含む新しい ISO 標準ロケール名を提供しています。

- zh_CN.EUC
- zh_CN.GBK
- zh_CN.UTF-8
- ko_KR.EUC
- ko_KR.UTF-8
- zh_TW.EUC

監査デーモンインタフェース

Solaris 監査デーモンが使用する次のインタフェースは、将来のリリースでサポートされなくなる可能性があります。

- `auditsvc(2)`
- `audit_data(4)`

Cfront 実行時サポートライブラリ

libc.so.3 ライブラリは、Cfront C++ コンパイラ C++ 3.0 でコンパイルされたプログラムのための実行時サポートライブラリです。コンパイラ自体もコンパイラで作成されたプログラムも、Solaris 10 OS では動作しません。このライブラリは、Solaris の将来のリリースでサポートされなくなる可能性があります。

Configuration Assistant (構成用補助) の fp プラグインハードウェアオプション

構成管理者の (cfgadm) の fp プラグインの次のオプションは、将来の Solaris リリースではサポートされない可能性があります。

- `show_FCP_dev`
- `unusable_FCP_dev`

基本セキュリティーモジュールのデバイス割り当てインタフェース

基本セキュリティーモジュールのデバイス割り当てメカニズムに含まれる次のコンポーネントは、Solaris ソフトウェアの将来のリリースには含まれない可能性があります。

- `mkdevalloc(1M)`
- `mkdevmaps(1M)`

- /etc/security/dev

旧式となるデバイスドライバインタフェース (DDI)

将来のリリースでは、一部のデバイスドライバインタフェース (Device Driver Interface、DDI) がサポートされなくなります。

次の表に、将来のリリースでサポートが中止される予定の DDI インタフェースと、代わりに推奨される DDI インタフェースを示します。

旧式となるインタフェース	推奨インタフェース
mmap	devmap
identify	nulldev に設定
copyin	ddi_copyin
copyout	ddi_copyout
ddi_dma_addr_setup	ddi_dma_addr_bind_handle
ddi_dma_buf_setup(9F)	ddi_dma_buf_bind_handle
ddi_dma_curwin	ddi_dma_getwin
ddi_dma_free	ddi_dma_free_handle
ddi_dma_htoc	ddi_dma_addr[buf]_bind-handle
ddi_dma_movwin	ddi_dma_getwin
ddi_dma_nextseg	ddi_dma_nextcookie
ddi_dma_nextwin	ddi_dma_nextcookie
ddi_dma_segtocookie	ddi_dma_nextcookie
ddi_dma_setup	ddi_dma_*_handle
ddi_dmae_getlim	ddi_dmae_getattr
ddi_getlongprop	ddi_prop_lookup
ddi_getlongprop_buf	ddi_prop_lookup
ddi_getprop	ddi_prop_get_in
ddi_getproplen	ddi_prop_lookup

旧式となるインタフェース	推奨インタフェース
ddi_iopb_alloc	ddi_dma_mem_alloc
ddi_iopb_free	ddi_dma_mem_free
ddi_mem_alloc	ddi_dma_mem_alloc
ddi_mem_free	ddi_dma_mem_free
ddi_map_regs	ddi_regs_map_setup
ddi_prop_create	ddi_prop_update
ddi_prop_modify	ddi_prop_update
ddi_segmap	devmap を参照
ddi_segmap_setup	devmap_setup
ddi_unmap_regs	ddi_regs_map_free
free_pktiopb	scsi_free_consistent_buf
get_pktiopb	scsi_alloc_consistent_buf
makecom_g0	scsi_setup_cdb
makecom_g0_s	scsi_setup_cdb
makecom_g1	scsi_setup_cdb
makecom_g5	scsi_setup_cdb
scsi_dmafree	scsi_destroy_pkt
scsi_dmaget	scsi_init_pkt
scsi_pktalloc	scsi_init_pkt
scsi_pktfree	scsi_destroy_pkt
scsi_realloc	scsi_init_pkt
scsi_resfree	scsi_destroy_pkt
scsi_slave	scsi_probe
scsi_unslave	scsi_unprobe
ddi_peek{c,s,l,d}	ddi_peek{8,16,32,64}
ddi_poke{c,s,l,d}	ddi_poke{8,16,32,64}
in{b,w,l}	ddi_get{8,16,32}
out{b,w,l}	ddi_put{8,16,32}

旧式となるインタフェース	推奨インタフェース
repins{b,w,l}	ddi_rep_get{8,16,32}
repouts{b,w,l}	ddi_rep_put{8,16,32}

power.conf の Device Management エントリ

power.conf ファイルの Device Management エントリは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 10 ソフトウェアでは、Automatic Device Power Management エントリによって同様の機能が得られます。

詳細は、[power.conf\(4\)](#) のマニュアルページを参照してください。

デバイスとドライバソフトウェアのサポート

次の表に、将来のリリースでサポートが中止される予定のデバイスとドライバソフトウェアを示します。

表 4-1 デバイスとドライバソフトウェア

物理デバイス名	ドライバ名	カードの種類
AMI MegaRAID ホストバスアダプタ、第一世代	mega	SCSI RAID
Compaq 53C8x5 PCI SCSI および Compaq 53C876 PCI SCSI	cpqncr	SCSI HBA
Compaq SMART-2/P Array Controller および Compaq SMART-2SL Array Controller	smartii	SCSI RAID コントローラ

FMLI (Form and Menu Language Interpreter)

FMLI (Form and Menu Language Interpreter) コマンドは旧式のため、将来の Solaris リリースではサポートされない可能性があります。次のコマンドは旧式です。

- /usr/bin/fmli
- /usr/bin/vsig

/etc/net/ti* のホストファイル

/etc/net/ti* にあるホストファイルは、Solaris ソフトウェアに残ってはいますが、Solaris オペレーティングシステムで参照されなくなりました。Solaris の将来のリリースでは、これらのホストファイルはすべて削除される可能性があります。

Java 2 Platform, Standard Edition 1.4

Java 2 Platform, Standard Edition (J2SE Platform) 1.4 は、将来の Solaris リリースには含まれない可能性があります。Solaris 10 OS のデフォルトの Java バージョンは J2SE 5.0 ソフトウェアですが、J2SE 1.4 テクノロジーと互換性があり、J2SE 1.4 の代わりに利用できます。

krb5.conf の Kerberos Ticket Lifetime パラメータ

Kerberos Ticket Lifetime パラメータ `max_life` および `max_renewable_life` は、Solaris の将来のリリースで提供されなくなる可能性があります。これらのパラメータは、`/etc/krb5/krb5.conf` ファイルの `appdefaults` セクションにあります。これらのパラメータの代わりに、`/etc/krb5/krb5.conf` の `libdefaults` セクションにある `max_lifetime` および `renew_lifetime` を使用してください。

韓国語 CID フォント

韓国語の CID フォントは、将来のリリースでサポートが中止されます。Solaris ソフトウェアには、韓国語 CID フォントに代わるものとして韓国語 TrueType フォントが組み込まれているので、そちらを使用してください。

UTF-8 でないレガシー (従来の) ロケール

Sun では、文字エンコーディングに Unicode の採用を進めています。これにともない、`zh_CN.GB18030` ロケールおよび C ロケールを除き、UTF-8 でないロケールは、将来の Solaris リリースで Java Desktop System のログインロケールとしては削除される可能性があります。

CPU パフォーマンスカウンタライブラリ (libcpc) の関数

ハードウェアパフォーマンスカウンタを使用すると、CPU 動作に関連するさまざまなハードウェアイベントを測定できます。CPU パフォーマンスカウンタライブラリ (libcpc) に含まれている次の関数は、Solaris OS の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

`cpc_access``cpc_bind_event`

cpc_count_sys_events	cpc_count_usr_events
cpc_event_accum	cpc_event_diff
cpc_eventtostr	cpc_getcciname
cpc_getcpuref	cpc_getcpuver
cpc_getnpic	cpc_getusage
cpc_pctx_bind_event	cpc_pctx_invalidate
cpc_pctx_rele	cpc_pctx_take_sample
cpc_rele	cpc_seterrfn
cpc_shared_bind_event	cpc_shared_close
cpc_shared_open	cpc_shared_rele
cpc_shared_take_sample	cpc_strtoevent
cpc_take_sample	cpc_version
cpc_walk_names	

Solaris 10 OS では、このライブラリに新しい関数が追加されています。上のリストに示したインタフェースをコードで使用している場合は、対応する次の新しい関数を代わりに使用してください。

cpc_open	cpc_close
cpc_set_create	cpc_set_destroy
cpc_set_add_request	cpc_set_request_preset
cpc_buf_create	cpc_buf_destroy
cpc_bind_curlwp	cpc_bind_pctx
cpc_bind_cpu	cpc_unbind
cpc_set_sample	cpc_buf_sub
cpc_buf_add	cpc_buf_copy
cpc_buf_zero	cpc_buf_get
cpc_buf_set	cpc_buf_hrttime
cpc_buf_tick	cpc_walk_requests
cpc_walk_events_all	cpc_walk_events_pic

cpc_walk_attrs	cpc_enable
cpc_disable	cpc_caps
cpc_npics	cpc_cpures
cpc_cciname	cpc_seterrhdlr

詳細は、cpc(3CPC)のマニュアルページを参照してください。

libXinput ライブラリ

libXinput.so.0 ライブラリは、Solaris ソフトウェアの将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。libXinput.so.0 ライブラリは、Solaris 2.1 および Solaris 2.2 の標準 (草案) X 入力 API を使用して構築された X11R4 アプリケーションとの下位互換性を目的として提供されています。X11 標準 X 入力拡張ライブラリである libXi は、Solaris 2.3 に統合されました。

libXinput API に依存するすべてのアプリケーションは、将来の互換性および標準適合のために、libXi 共有ライブラリを使用して構築すべきです。

NIS+ (ネットワーク情報サービスプラス) のネームサービスの種類

NIS+ は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 9 ソフトウェアには、NIS+ から LDAP への移行ツールが用意されています。詳細は、<http://www.sun.com/directory/nisplus/transition.html> を参照してください。

nstest テストプログラム

nstest は、DNS クエリーの構築と送信を行うための対話式 DNS テストプログラムです。このプログラムは、Solaris OS の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。dig コマンドと nslookup コマンドを使用することにより、このテストプログラムと同じ機能が得られます。

Perl バージョン 5.6.1

Perl バージョン 5.6.1 は、Solaris OS の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 10 OS でのデフォルトバージョンは Perl バージョン 5.8.4 で、これは Perl バージョン 5.6.1 とバイナリ互換ではありません。ただし、この Solaris リリースには以前のバージョンも残っています。サイトで独自にインストールしたカ

スタムモジュールは、Perl バージョン 5.8.4 を使用して再構築および再インストールする必要があります。スクリプトでバージョン 5.6.1 を使用する必要がある場合は、スクリプトを変更して、バージョン 5.8.4 ではなくバージョン 5.6.1 のインタプリタを使用するよう指定してください。Perl の各バージョンに対応するインタプリタは、それぞれ次のディレクトリに置かれています。

Perl 5.6.1 /usr/perl5/5.6.1/bin/perl

Perl 5.8.4 /bin/perl、/usr/bin/perl、または /usr/perl5/bin/perl

Solaris 管理コンソールのパッチツール(パッチマネージャー)

Solaris 管理コンソールのパッチツールであるパッチマネージャーは、将来のリリースでは提供されない可能性があります。

Solstice Enterprise Agents

Solstice Enterprise Agents は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

スタンドアロンのルーター検出

IPv4 ICMP ルーター発見プロトコルの /usr/sbin/in.rdisc 実装は、Solaris ソフトウェアの将来のリリースではサポートされなくなる可能性があります。このプロトコルとほぼ同等のバージョンが、/usr/sbin/in.routed のコンポーネントとして実装されており、拡張された管理インタフェースをサポートしています。/usr/sbin/in.routed コンポーネントは、経路制御情報プロトコル (RIP: Routing Information Protocol) バージョン 2 の実装をサポートします。/usr/sbin/in.routed コンポーネントには、モバイル IP 通知をルーター発見メッセージと区別する機能もあります。

Sun Fire Link インタフェース

Sun Fire Link インタフェースは、将来の Solaris リリースではサポートされなくなる可能性があります。

Sun Java Desktop System アプリケーション

Java Desktop System, Release 3 の次のアプリケーションは、将来のリリースから削除される可能性があります。

- Sun Java Calendar Preview
- GNOME Keyboard Layout Switcher
- Java DS Diagram Editor
- Java DS Java Text Editor
- Java DS Java Dictionary
- Java DS Disk Analyzer
- Java DS Mr. Project

トークンリングおよび FDDI デバイスタイプ

トークンリング (DL_TPR) および FDDI (光ファイバ分散データインタフェース、Fiber Distributed Data Interface) のデバイスタイプは、汎用 LAN ドライバ (GLD) でサポートされていますが、Solaris の将来のリリースではこのサポートが中止される可能性があります。GLD でのサポートが中止されたあと、このサポートに依存しているトークンリングドライバや FDDI ドライバは動作しなくなります。ただし、このサポートを使用しないドライバやアプリケーションは、影響を受けません。ドライバが GLD に依存しているかどうかを調べるには、次のスクリプトを実行します。

```
#!/bin/sh
#
# Test a driver binary for use of GLD
#
for file
do
    /usr/ccs/bin/nm $file | /bin/awk '
    /\|gld_register$/      { isgld=1; }
    END {
        if (isgld)
            print file, "uses GLD";
        else
            print file, "does not use GLD";
        }' file=$file
done
```

汎用 LAN ドライバの詳細は、[gld\(7D\)](#) のマニュアルページおよび『Writing Device Drivers』を参照してください。

WBEM ベースの動的再構成

WDR (Web-Based Enterprise Management Dynamic Reconfiguration) と呼ばれる機能は、Solaris の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。現在、WDR は Sun Fire ミッドレンジシステムおよびハイエンドシステムでサポートされています。

XIL インタフェース

XIL™ インタフェースは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。XIL を使用するアプリケーションを使用すると、次のような警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: XIL OBSOLESCENCE
This application uses the Solaris XIL interface
which has been declared obsolete and may not be
present in version of Solaris beyond Solaris 9.
Please notify your application supplier.
The message can be suppressed by setting the environment variable
"_XIL_SUPPRESS_OBSOLETE_MSG."
```

xetops ユーティリティー

xetops ユーティリティーは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。xetops ユーティリティーは、アジア言語のテキストファイルを PostScript ファイルに変換します。この変換により、アジア文字をその組み込みフォントを持たない PostScript プリンタでも印刷できるようになります。

同様の機能は、mp コマンドで提供されています。ネイティブなアジア言語のすべてのエンコーディングについて、オプションおよび機能が追加され、サポートが拡張されています。

x86: Xsun DDX のモジュール、ライブラリ、および関連ファイル

Xsun の一部の DDX モジュールは、将来の Solaris リリースから削除される可能性があります。これらのモジュールは、「XF86」という接頭辞が付いていないエントリを選択して、kdmconfig の「Video Device Selection」画面で Xsun X サーバーを構成するときに使用されます。この削除通知には、次のファイルが関係します。

- /usr/openwin/server/modules ディレクトリのファイルのうち、ファイル名に ddxSUNwxf86 接頭辞が付いていないもの
- /usr/openwin/server/lib/libaccel.so.1 ライブラリ
- /usr/openwin/share/etc/devdata/SUNWaccel/boards ディレクトリのファイルのうち、.xga 接尾辞が付いているもの

優先度の高い X サーバーには、DDX モジュールが Xsun X サーバーと互換性を持つ、Xorg X サーバーを使用することをお勧めします。ただし、Xsun X サーバーを使用する場合でも、XFree86 DDX モジュールを使用できます。これらのモジュールは、接頭辞が ddxSUNwxf86 で、kdmconfig の「Video Device Selection」画面には「XF86」で始まるエントリとして表示されます。これらのモジュールは、削除される可能性がある Xsun DDX モジュールに相当する機能を提供します。

マニュアルに関する情報

この章では、ドキュメントについて知られている問題を説明します。

『Solaris のシステム管理 (IP サービス)』

ページ 786 の脚注は、誤って次のように記載されています。

注 - x86 アーキテクチャーでは VLAN における IPQoS はサポートされていません。

正しい脚注は次のとおりです。

注 - VLAN における IPQoS を含め、SPARC および x86 アーキテクチャーがサポートされています。

一部のローカライズ版ドキュメントが更新されていない

Solaris 10 10/09 リリースでは、次のローカライズ版ドキュメントが更新されていません。これらのドキュメントの内容は、対応する英語版ドキュメントと異なっている場合があります。最新のリリース情報については、英語版を参照してください。

次の表に、英語版と最新のローカライズ版との違いを示します。

ドキュメントのタイトル	対象となる言語	英語版で加えられた変更
Solaris カーネルのチューンアップ・リファレンスマニュアル	日本語	第1章 - tcp_local_dack_interval 情報を追加しました 第4章 - tcp_local_dack_interval 情報を更新しました 付録 A - tcp_local_dack_interval 情報を追加しました 付録 B - Solaris 10 情報を追加しました
Solaris セキュリティーサービス開発ガイド	日本語	リンクを更新しました ディレクトリへの参照を /etc/crypto から etc/crypto に変更しました

ドキュメントのタイトル	対象となる言語	英語版で加えられた変更
Solaris のシステム管理 (デバイスとファイルシステム)	日本語	<p>第 3 章 - リムーバブルメディアの例を Solaris 10 10/08 のメディア名と構造で更新しました</p> <p>第 10 章 - EFI ラベルが不要になったときに VTOC ラベルを適用し直す方法を説明するように EFI ラベルの節を更新しました</p> <p>第 11 章 - x86 システムでディスクの商品名を指定する手順を含めるように「「システム上のディスクの確認」」の節を更新しました</p> <p>第 16 章 - 次の変更を加えました</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ この章全体にわたって ZFS ファイルシステムに関する情報を追加しました ■ 「ファイルシステムのタイプ」の節に SHAREFS の説明を追加するように「その他の仮想ファイルシステムの表」を更新しました ■ 「マルチテラバイトの UFS ファイルシステムのサポート」の節の <code>ufsdump</code> の例を更新しました <p>第 18 章 - UFS の使用法を示すように節のタイトルを更新し、また ZFS ファイルシステムの情報を追加しました</p>

ドキュメントのタイトル	対象となる言語	英語版で加えられた変更
Solaris のシステム管理 (基本編)	日本語 簡体字中国語	構造上のマイナーな変更を加えました Solaris 10 10/08 リリースで追加された SPARC ブートアーキテクチャーの再設計の内容を変更しました Solaris 10 10/08 リリースの SPARC ブートアーキテクチャーの再設計機能に関する既存のディスクレスクライアントの内容を更新しました 優先度 3 および 4 のバグをすべて修正しました
Solaris のシステム管理 (上級編)	日本語 簡体字中国語	Solaris 10 10/08 リリースでの ZFS ブートの実装に関して「ディスク使用の管理」の章を更新しました
Solaris のシステム管理 (印刷)	日本語 簡体字中国語	欠落していた例を追加しました 誤字を修正し、誤った情報をすべて訂正しました

『Solaris 10 10/09 Patch List』

Solaris 10 10/09 リリースでは、Solaris のパッチリストは『Solaris 10 10/09 ご使用にあたって』には記載されていません。パッチリストは、『Solaris 10 10/09 Patch List』に記載されています。

『Solaris のシステム管理 (IP サービス)』

MAC アドレスが一意であることを確認ための手順のタイトルは「SPARC: インタフェースの MAC アドレスが一意であることを確認する方法 (Solaris 10 3/05 のみ)」です。この手順はすべての Solaris 10 Update リリースに適用されるため、このタイトルは正しくは「SPARC: インタフェースの MAC アドレスが一意であることを確認する方法」です。

『Solaris のシステム管理 (ネーミングとディレクトリサービス: NIS+ 編)』

Solaris 10 8/07 リリース以降では、Solaris OS に 2 つの個別のホストファイルはなくなりました。/etc/inet/hosts ファイルが、IPv4 エントリと IPv6 エントリの両方を含む単一のホストファイルになりました。IPv4 エントリを 2 つのホストファイルで管理して常に同期を行う必要がなくなります。/etc/inet/ipnodes ファイルは、下位互換性のために、/etc/inet/hosts ファイルへの同名のシンボリックリンクに置き換えられています。詳細は、hosts(4) のマニュアルページを参照してください。NIS クライアントとサーバーは、IPv4 または IPv6 のどちらかの RPC トランスポートを使用して通信することができます。

スウェーデン語版マニュアルの提供中止

Solaris 10 8/07 リリース以降では、マニュアルはスウェーデン語に翻訳されなくなります。最新の情報については、<http://docs.sun.com/> で英語版のマニュアルを参照してください。

Application Server のマニュアルで、Java DB ではなく Derby データベースと記述されている

Application Server のマニュアルでは、Java DB データベースが「Derby」と記述されています。「Derby」という記述はすべて「Java DB」に置き換えてください。データベースは /usr/appserver/javadb にインストールされます。

Software Supplement CD に収録されていたマニュアル

Solaris 10 オペレーティングシステム以降、Supplement CD はなくなります。これまで Supplement CD に収録されていたマニュアルは、<http://docs.sun.com> で参照できるようになりました。この CD に収録されていたその他のコンテンツは、Solaris キットまたは Sun Microsystems の Web サイトにあります。

『Solaris のシステム管理 (基本編)』

この節では、『Solaris のシステム管理 (基本編)』の特定の章に関する訂正について説明します。

注 - Solaris 10 1/06 リリースから、この節は Solaris のマニュアルに適用されなくなります。

ディスクレスクライアントの管理 (手順)

「ディスクレスクライアントの追加方法」の手順4で、ディスクレスクライアントが追加されたかどうかを確認するためのコマンドは、正しくは次のとおりです。

4. ディスクレスクライアントがインストールされたことを確認します。

```
# /usr/sadm/bin/smdiskless list -H host-name:898 --
```

『Solaris 10 インストールの手引き』と Solaris 10 インストールガイド

注 - Solaris 10 1/06 リリースから、この節は Solaris のマニュアルに適用されなくなります。

『Solaris 10 インストールの手引き』と Solaris 10 インストールガイドで、Solaris 10 リリースでは Sun Java Enterprise System がデフォルトでインストールされると記述されていますが、これは誤りです。Solaris 10 OS とともに Sun Java Enterprise System をインストールするには、カスタムインストールを実行する必要があります。

次の各マニュアルで、Solaris 10 のインストール時に Sun Java Enterprise System がデフォルトでインストールされると記述されていますが、これは誤りです。

『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』

- CD または DVD メディアによる Solaris インストールの計画 (手順) - インストール用のチェックリスト
- Solaris インストールプログラムによるインストール (作業)
 - SPARC の手順 9: Solaris インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードを行う方法

- x86 の手順 17: Solaris インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードを行う方法

『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』

- Solaris のインストールおよびアップグレード (ロードマップ) - 作業マップ: Solaris ソフトウェアのインストールまたはアップグレード
- インストールやアップグレードの前に収集すべき情報 (計画)
 - インストール用のチェックリスト
 - アップグレード用のチェックリスト

『Solaris 10 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』

- Solaris のインストールおよびアップグレード (ロードマップ) - 作業マップ: Solaris ソフトウェアのインストールまたはアップグレード
- インストールやアップグレードの前に収集すべき情報 (計画) - アップグレード用のチェックリスト

『Solaris 10 インストールガイド (カスタム JumpStart / 上級編)』

「Solaris のインストールおよびアップグレード (ロードマップ) - 作業マップ: Solaris ソフトウェアのインストールまたはアップグレード」を参照してください。

『Solaris 10 インストールの手引き』

「Solaris 10 OS のインストール」を参照してください。

Solaris 10のマニュアルとマニュアルページ

S2io社は、社名をNeterionに変更しました。Solaris 10のマニュアルおよびマニュアルページでS2ioに関する記述は、すべてNeterionと読み替えてください。

Solaris 10 オペレーティングシステムで統合された解決済みバグの表

この付録の表は、ご使用にあたってに記載されているバグのうち、Solaris 10 10/09 OS で解決されたバグの一覧です。

注- この表に記載されているのは一部のみです。オペレーティングシステムのその他の解決済みバグのうち、以前のご使用にあたってに記載されていないものについては、この表からは除外されています。完全な一覧については、『Solaris 10 オペレーティングシステムのパッチについて』を参照してください。このパッチ一覧には、現在のリリースに適用されている特定のパッチによって修正されているバグを記載しています。これまでのご使用にあたってに記載されていないバグも含まれています。

解決済みの統合されたバグ

表 A-1 Solaris 10 10/09 ソフトウェアで修正されたバグ

CR 番号	タイトル
6750725	対象のファイルシステムが ZFS であり、ロケールが日本語 EUC の場合、lucreate が失敗する
6741743	UFS から ZFS に変換したあとで boot -L が動作しない
6740164	zpool attach によって不正なルートプールが作成されることがある
6704717	ミラー化された ZFS ルートプール内の主ディスクをオフラインにする
6730309	Solaris 10 10/08 リリースでは、L2ARC が無効になっています
6696226	Solaris Live Upgrade によって menu.lst ファイルが作成されない
6462803	ファイルシステムがビジー状態のときに zfs snapshot -r が失敗する

